

授業科目名： 子どもと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・健康		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】領域「健康」の内容を理解するとともに、その背景にある考え方を学び、批判的に考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解すること。 ・遊びと健康な生活習慣づくりの基本的事項を理解することと併せて、疑問を持つこと。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「環境」のねらいを踏まえて、その全体像を理解することを本講義ねらいとする。幼児期の心身の発達、生活習慣の確立の大切さ（生活リズム・食育・睡眠・トイレトレーニングなど）、心身の発達と遊びの関わり、安全教育など健康な人生を歩む上での基盤づくりとなる乳幼児期における健康的な生活づくりを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：領域「健康」のねらいと内容 領域「健康」の基本的事項を理解し、他領域との関連を概観する</p> <p>第2回：保育の基本と領域「健康」 保育が養護と教育から成ることを理解し、その中での健康（well-being）を理解する</p> <p>第3回：WHOの健康概念と領域「健康」 WHOが考える健康概念と幼児期までに育ってほしい10の姿の関連を理解する</p> <p>第4回：乳幼児期の形態発達 乳幼児期の形態発達の特徴と保育における注意事項を理解する</p> <p>第5回：乳幼児期の機能発達 乳幼児期の身体機能の発達の特徴を理解し、保育・家庭生活のあり方を考える</p> <p>第6回：乳幼児の生活リズムの現代的課題 乳幼児の生活リズムが乱れていると言われている。現代的課題と保育現場の現状を理解する</p> <p>第7回：乳幼児期の基本的生活習慣づくり（1） 乳幼児の基本的生活習慣をつくるための保育・家庭における工夫を理解する</p> <p>第8回：乳幼児期の基本的生活習慣づくり（2） 特に食習慣に焦点を当て、健康的な食習慣の確立およびアレルギーへの対応について、保育・家庭における工夫の仕方を理解する</p> <p>第9回：乳幼児期の運動発達 胎児期から乳幼児期の運動発達の特徴を具体的に理解する</p>			

第10回：乳幼児期の発達における遊びの重要性（1）

乳幼児期の運動発達を促進するための遊びの重要性と具体的な工夫の仕方を理解する

第11回：乳幼児期の発達における遊びの重要性（2）

前時に続き、運動発達を念頭に置いた遊びの工夫を理解する

第12回：乳幼児期の発達における遊びの重要性（3）

遊びを通じた心理的・社会的発達について理解し、遊び支援の方法をさらに学ぶ

第13回：乳幼児期の安全（1）

危険をリスクとハザードに分けて理解する方法を学んだ上で、安全管理をする上での未満児・以上児の特徴を理解する

第14回：乳幼児期の安全（2）

乳幼児期の事故と怪我の特徴を理解した上で、計画的な安全教育のあり方を学ぶ。特に災害教育としての避難訓練の重要性と具体的なやり方を理解する

第15回：振り返り

これまでの学びを踏まえ、健康的な生活・成長を支える保育者の役割と自身が目指す保育者像を考える。

定期試験：基礎的な知識（正誤問題）及び生活習慣・遊びに関する論述問題を含んだ筆記試験を行う

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
-----------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

定期試験50%、毎回のコミュニケーションカード・授業中の課題への取組50%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

プリントを配布する

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中裕喜 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・人間関係		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 幼児期の人間関係 【到達目標】 ・幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達について幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。			
授業の概要 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。			
授業計画 第1回：現代社会と幼児の人間関係 第2回：3歳未満児における人間関係の発達—親子関係 第3回：3歳未満時における人間関係の発達—親以外の他者との関係 第4回：幼児期の生活の中で見られる人と関わる力の育ち—教師との関係 第5回：幼児期の生活の中で見られる人と関わる力の育ち—他の幼児との関係 第6回：幼児期の生活の中で見られる人と関わる力の育ち—子ども集団 第7回：幼児期の自立心の育ち 第8回：幼児の自立心を育むために 第9回：幼児期の協同性の育ち 第10回：幼児の協同性を育むために 第11回：幼児期の道徳性の育ちと規範意識の芽生え 第12回：幼児の道徳性・規範意識の芽生えを育むために 第13回：幼児期の社会生活との関わり 第14回：幼児の社会生活との関わりを育むために 第15回：幼児の人と関わる力の育ちがもたらすもの 定期試験			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
○	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	

準備学習の内容及びそれに必要な時間

各回の最後に課題を提示するので、それを行い、オンラインで提出（120分）

成績評価方法

定期試験（50％）、各回の課題（50％）にもとづいて評価する。

テキスト

『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド本社

『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省 フレーベル館

参考文献・参考資料等

授業のなかで適宜紹介する。

授業科目名： 子どもと環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・環境		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】領域「環境」の内容を理解するとともに、その背景にある考え方に対して疑問を持って、掘り下げて考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領等に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、他者に対して説明ができること。 ・幼児の発達や学びの過程を理解すると同時に、疑問を持って考えたり調べたりできること。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「環境」のねらいを踏まえて、その全体像を理解することを主たるねらいとする。子どもにとっての環境、心身の発達と環境の関わり、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿との関連などを踏まえて多角的に環境について考え、理解することが求められる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・領域「環境」について 保育所保育指針等の「環境」に関する記載を確認し、乳幼児期における環境の重要性を理解する</p> <p>第2回：情報環境とは何か？ 私たちが包囲する環境にある情報（生態学的情報）について具体例を交えて理解を深める</p> <p>第3回：生態学的情報と発達 乳幼児が育つ過程でどのような生態学的情報が関わっているのかを姿勢制御や移動の発達を具体例にして理解する。保育における環境づくりにおける具体的な環境構成にあり方についても考える</p> <p>第4回：私たちのまわりにある生態学的情報 私たちの周りに実際にある生態学的情報としてアフォーダンス・不変項・遮蔽縁などを具体的に理解する</p> <p>第5回：『センス・オブ・なんだぁ』三宮麻由子著を読む 前回までの理解をさらに深めるために視覚障害者にとっての生態学的情報を著書の中から理解する</p> <p>第6回：心の発達と生態学的情報 ここまでのまとめとして、生態学的情報が乳幼児の心身の発達にとっていかに大切であるかを理解する</p> <p>第7回：心の発達と対人環境 情緒の発達および認知的発達と対人環境の関わりを理解する。キーワードは愛着、前概念的</p>			

思考段階などである

第8回：認知的発達と保育

前時に続き、乳幼児期の認知的発達の特徴を学び、保育における工夫の仕方を具体的に学ぶ。特に壁面構成を中心とした保育室の環境づくりを理解する

第9回：社会性の発達と環境

社会性の発達を社会・文化環境、地域環境などとの関わりから理解する

第10回：障害のある子どもと環境

発達障害の子どもの知覚的な特徴を理解し、その特徴に合わせた環境構成のあり方を理解する

第11回：保育における自然環境

園庭の自然環境を豊かにする取り組みと園外保育での自然環境とのふれあいの仕方を理解する

第12回：保育における環境教育

保育の中でどのように環境教育を導入すればよいか。事例などを交えながらその目指すところを理解する

第13回：環境教育の評価

環境教育は何を資料に、どのように評価するかを理解する。具体的に保育記録を読みながら、評価の基準を理解する

第14回：保育計画の立案 自然環境に触れることを通した環境教育の計画を立案する

第15回：保育計画の共有 前時に立案した内容を小グループに分かれて共有する

定期試験：基礎的な知識（正誤問題）及び生態学的情報・自然環境などに関する論述問題を含んだ筆記試験を行う

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
-----------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

定期試験50%、毎回のコミュニケーションカード・授業中の課題への取組50%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

プリントを配布する

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松崎行代 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・言葉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】乳幼児の言葉の育ちと保育者の指導</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達過程を説明できる。 ・領域「言葉」のねらいと内容を理解し、他領域および小学校「国語科」との関係を説明できる。 ・子どもの発達段階に応じた保育者の態度、かかわり、援助を理解し、具体的な保育者としての指導について考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>言葉の機能および乳幼児期の言葉の発達過程について、理解します。そのうえで、幼児教育における子どもの言葉を育てる指導について、「幼稚園教育要領」領域「言葉」のねらい及び内容から学びます。そして、子どもの言葉を育てる保育の実践に向けた幼児理解と指導の内容および方法について、具体的な事例や教材を通して考え合うディスカッションでの検討を通し、保育を考え実践する力の習得を目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：言葉の機能</p> <p>第2回：乳児期の言葉の育ち</p> <p>第3回：言葉の育ちを考えた乳児へのかかわり</p> <p>第4回：幼児期前期の言葉の育ち</p> <p>第5回：幼児期後期の言葉の育ち</p> <p>第6回：言葉の育ちを考えた幼児へのかかわり</p> <p>第7回：領域「言葉」とは（他領域との関係。小学校「国語科」との関係） 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「(9)言葉による伝え合い」</p> <p>第8回：領域「言葉」のねらいと内容</p> <p>第9回：言葉の育ちを支える保育①（言葉で表現し伝えるちから：子どもとの会話に着目して）</p> <p>第10回：言葉の育ちを支える保育②（言葉で考えるちから：子どもの遊びの場面に着目して）</p> <p>第11回：言葉に対する感覚を豊かにする保育①（絵本・紙芝居・人形劇を通して物語に親しむ）</p> <p>第12回：言葉に対する感覚を豊かにする保育②（書くことを通して人とつながるよろこび）</p> <p>第13回：言葉の育ちに関わる問題の理解①（言葉の発達に課題がある子どもへの配慮）</p> <p>第14回：言葉の育ちに関わる問題の理解②（日本語を母語としない子どもへの支援）</p> <p>第15回：前期のまとめ（授業の振り返り）および確認テスト</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			

PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	反転授業	<input type="radio"/>	ディスカッション、ディベート
グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）				
<input type="radio"/>	授業時間内に講評・解説する			メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを読み、提示された事前課題に取り組む（90分） ・ノートのとまとめ、テキストの読み返しなどをして授業内容を復習する（60分） 				
成績評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業の課題：30%（評価内容：子どもの言葉の発達についての理解。領域「言葉の理解」。授業への積極的な取り組みの態度。） ・授業への参加態度：20%（評価内容：授業内のディスカッションを通した多面的な幼児理解・保育の検討の力の習得）。 ・確認テスト：50%（評価内容：言葉の機能および発達の課程の理解。領域「言葉」と小学校「国語科」の関係についての理解。幼児の言葉を育てる指導についての理解と考える力。） 				
テキスト				
<ul style="list-style-type: none"> ・『保育内容「言葉」と指導法 子どもの心のことばに耳を澄ませて』仲本美央・吉永安里：編著 萌文書林 令和7年 2,000円 ・『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』文部科学省 フレーベル館 平成30年 240円 				
参考文献・参考資料等				
授業中に適宜資料を配布する				

授業科目名： 子どもと表現（造形）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：芦田風馬 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性与創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造形面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要項に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する ・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける 			
<p>授業の概要</p> <p><幼稚園教育要項>および<保育所保育指針>に設定される領域「表現」における「造形」について理解を深め、その視点から子ども達の育ちと保育のあり方を考える。また子ども達の感性や創造性をささえ育てるために、自ら表現者として物づくりや体験を実践し、どのような援助や展開をすべきなのか学びを深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のガイダンスと 作品鑑賞</p> <p>第2回：子どもの発達と造形</p> <p>第3回：水彩絵の具の使用法</p> <p>第4回：季節感のある壁面構成の制作（1）春から夏にかけて</p> <p>第5回：季節感のある壁面構成の制作（2）秋から冬にかけて</p> <p>第6回：季節感のある壁面構成の制作（3）1年間のイベントから考えて</p> <p>第7回：小麦粉粘土を使用した造形</p> <p>第8回：3歳児学級における手作りおもちゃ（動く・音が出る等）の制作</p> <p>第9回：4歳児学級における手作りおもちゃ（動く・音が出る等）の制作</p> <p>第10回：5歳児学級における手作りおもちゃ（動く・音が出る等）の制作</p> <p>第11回：紙工作での表現</p> <p>第12回：アートカードゲーム</p> <p>第13回：モダンテクニックについて</p> <p>第14回：モダンテクニックを活用したコラージュ</p> <p>第15回：作品鑑賞会</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）		反転授業
○	グループワーク	○	プレゼンテーション
			ディスカッション、ディベート
		○	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）	
<input type="radio"/> 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間 作りたいもののイメージが膨らむ様に様々な絵や立体に関するものを調べて活かすことができるようにする（60分）	
成績評価方法 授業への取り組み30% 作品評価50% レポート類20%	
テキスト 幼稚園教育要項解説（平成30年） 文部科学省	
参考文献・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する	

授業科目名： 子どもと表現（音楽）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：菅 道子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生み出す未分化な表現を受け止め、引き出すことができるように子どもの日常生活や遊びの中にある多様な表現（音楽）について理解を深める。 ・領域「表現」のねらいや内容を踏まえながら、自由な子どもの表現を引き出す創造的な表現活動を考案できる実践力を身に付ける。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活における表現の意義を理解する。 ・領域「表現」のねらいや内容について様々な演習を通して理解し、自分自身の表現力を高める。 ・子どもの表現を引き出すことのできる保育内容を考案・実践する力を身に付ける。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」のねらい及び内容について理解するとともに、幼児期における様々な音楽表現について学習し、理解を深める。 ・幼児期の発育・発達の特性を踏まえ、音楽表現の指導方法について探求し、実践力を身に付ける。 			
授業計画 ※講義内容と並行して鍵盤楽器と歌唱の常時学習を実施します。			
第1回：イントロダクション：本授業の目的、計画、評価、課題等について 幼児の音楽表現の可能性について			
第2回：幼稚園教育要領領域「表現」のねらいと内容の基本構造			
第3回：音楽表現のねらいと内容：幼児を取りまく音の世界（音環境）			
第4回：音楽表現のねらいと内容：遊びの源流（1）（ことば遊び、オノマトペ）			
第5回：音楽表現のねらいと内容：遊びの源流（2）（ふれあい遊び、わらべうた遊び）			
第6回：音楽表現のねらいと内容：ことばと絵と音の融合（1）（絵本による音楽遊び・ICT活用）			
第7回：音楽表現のねらいと内容：ことばと絵と音の融合（2）（紙芝居による音楽遊び）			
第8回：演習課題：絵本の物語に音楽を付けた読み聞かせの発表			
第9回：音楽表現のねらいと内容：ことばと動きと音の融合（リトミックによる身体表現）			
第10回：音楽表現のねらいと内容：ことばと動きと音の融合（オルフ楽器をつかった即興表現）			
第11回：演習課題 ことばと動きと音の融合した表現ワークを発表			
第12回：保育にいかす音楽療法の原理と手法（1） （ひとり一人の承認と流動的な関係性をつくる音楽）			
第13回：保育にいかす音楽療法の原理と手法（2）（半構造化された音楽の中で生まれる即興表現）			
第14回：音楽表現をいかす保育案の構想：保育指導案の作成、準備			
第15回：音楽表現をいかす保育案の実施：模擬保育と振り返り、授業全体の総括			

定期試験			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回講義の資料を読み返し、講義内容を復習しておく（30分） ・ 授業中に次回の授業内容の課題を提示するので、その学習を進めておくこと（90分） ・ 音楽表現にかかわる基礎技能（弾き歌い、遊び歌のレパートリー）の習得を継続的に行うこと（60分） 			
成績評価方法			
授業時の学習記録や課題提出物（40%）、実技発表（30%）、定期試験（30%）			
テキスト			
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（最新版）			
参考文献・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館（最新版） ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館（最新版） ・ 適宜紹介する。 			

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：林 悠子 担当形態：単独		
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】乳幼児期の教育、保育における保育内容の意義の実践的理解</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷を知ること、乳幼児期の教育の意義や今幼児教育・保育に求められていることを理解することができる。（知識・理解） ・乳幼児期の発達の特徴を具体的な子どもの姿から理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に至る過程をイメージすることができる。（汎用的技能） 					
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目について、具体的な子どもの発達の様子を例示し、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容や子ども理解のための視点を学ぶ。 					
<p>授業計画</p> <p>第1回：幼稚園・保育所・認定こども園で行う保育と教育</p> <p>第2回：幼稚園教育要領改訂・保育所保育指針改定の変遷</p> <p>第3回：「環境を通じた教育」とは：環境を構成するポイント</p> <p>第4回：育みたい資質・能力</p> <p>第5回：「遊びを通して学ぶ」①「遊び」の中の「学び」</p> <p>第6回：「遊びを通して学ぶ」②事例研究（ICT活用を含む）</p> <p>第7回：乳幼児期の発達特性に応じた保育内容</p> <p>第8回：乳幼児期の発達特性に応じた保育形態：個と集団</p> <p>第9回：保育内容の全体像の理解①子どもの発達と5領域</p> <p>第10回：保育内容の全体像の理解②事例研究（ICT活用を含む）</p> <p>第11回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①10の項目について</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿②事例研究（ICT活用を含む）</p> <p>第13回：領域の考え方①保育内容の実践的理解</p> <p>第14回：領域の考え方②事例研究（指導計画と実践）（ICT活用を含む）</p> <p>第15回：まとめ：保育内容の構造の理解</p> <p>定期試験は実施しない</p>					
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）					
	PBL（課題解決型学習）	○	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）	
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間	
準備学習：事前に指定する幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当箇所を目を通しておく。(2時間)	
授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を復習する。(2時間)	
成績評価方法	
授業内・事後課題50%、期末課題50%	
テキスト	
文部科学省「幼稚園教育要領解説」（平成30年）、厚生労働省「保育所保育指針解説」（平成30年）	
参考文献・参考資料等	
随時配布する。	

授業科目名： 健康領域指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 幼児期の特性をふまえた幼児教育の内容的・方法的特質を理解し、保育実践における保育内容「健康」に関連する保育のあり方を具体的に理解するとともに、保育現場での実践に資する能力を身に付けること。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や学びの過程を主体的に理解し、具体的な保育場面を想定して遊びを構想する技能を身に付ける。 ・ 身体を動かして遊ぶ、考えて遊ぶ、ルールに沿って遊ぶ、作って遊ぶなど遊びの具体を保育の中で活かす能力を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の向上を本授業のねらいとする。幼児が健やかに成長し、健全な生活習慣を身につけるために、その行動が心身諸側面の発達の特質にどのように影響するかを踏まえ、健全な成長発達にふさわしい生活と遊びを考える。特に遊びに着目して、遊びが幼児の主体的な活動となるために、保育における遊びの具体とその充実方法を講義と実践を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：保育における「健康」とは 幼児教育・保育の基本と領域「健康」のねらいおよび内容の理解</p> <p>第2回：基本的な生活習慣を支える援助法（1） 幼児期の「リズム」を支える：お昼ごはん・おやつを具体例として</p> <p>第3回：基本的な生活習慣を支える援助法（2） 幼児期の「片付け」を支える：遊びの片付けを具体例として</p> <p>第4回：基本的な生活習慣を支える援助法（3） 幼児期の「寝る」を支える：午睡を具体例として</p> <p>第5回：運動遊びを支える援助法（1） 「道具を使った遊び」の具体：新聞紙を活用して</p> <p>第6回：運動遊びを支える援助法（2） 「伝承遊び」の具体：コマ回し、けん玉、竹馬などを活用して</p> <p>第7回：運動遊びを支える援助法（3） 「ルールのある遊び」の具体：リレー遊びを具体例として</p> <p>第8回：運動遊びを支える援助法（4） 「ボールを使った遊び」の具体：ドッジボールを具体例として</p>			

第9回：ゲーム遊びを支える援助法（1）

「得点を競う遊び」の実際：お手玉投げ競争を具体例として模擬保育を実践する

第10回：ゲーム遊びを支える援助法（2）

「クイズ遊び」の実際：色あてゲームを具体例として模擬保育を実践する

第11回：手・歌遊びを支える援助法（1）

「朝、元気になる手・歌遊び」を調べ、模擬保育を実践する

第12回：手・歌遊びを支える援助法（2）

「お昼ごはんの前の手・歌遊び」を調べ、模擬保育を実践する

第13回：工作遊びを支える援助法（1）

「紙コップ」を使った工作遊び：紙コップけん玉をつくる保育計画の立案と模擬保育の実践をする

第14回：工作遊びを支える援助法（2）

「新聞紙」を使った工作遊び：新聞紙ヨーヨーをつくる保育計画の立案と模擬保育の実践をする

第15回：まとめ：授業の中で実践した遊びを踏まえて、4歳/5歳児を想定した活動計画を作成する

（ICT活用を含む）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

レポート（第15回授業で作成した活動計画を踏まえた1日の保育計画を作成する）50%、毎回のコミュニケーションカード25%、授業中の課題への取組25%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

文部科学省「幼稚園教育要領解説」（最新版）

プリントを配布する

授業科目名： 健康領域指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 幼児期の特性をふまえた幼児教育の内容的・方法的特質を理解し、保育実践における保育内容「健康」に関連する保育のあり方を具体的に理解するとともに、保育現場での実践に資する能力を身に付けること。健康領域指導法Ⅰでの学びを踏まえ、さらに発展させて現場での実践に資する実践力の育成を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や学びの過程を主体的に理解し、具体的な保育場面を想定して遊びを構想する技能を身に付ける。 ・ 身体を動かして遊ぶ、考えて遊ぶ、ルールに沿って遊ぶ、作って遊ぶなど遊びの具体を保育の中で活かす能力を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の育成を本授業のねらいとする。幼児が健やかに成長し、健全な生活習慣を身につけるために、その行動が心身諸側面の発達の特質にどのように影響するかを踏まえ、健全な成長発達にふさわしい生活と遊びを考える。特に遊びに着目して、遊びが幼児の主体的な活動となるために、保育における遊びの具体とその充実方法を講義と実践を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：保育における「健康」とは 生活習慣の土台の発達及び運動の発達の全体像を概観する。</p> <p>第2回：基本的生活習慣を支える援助法（1） 幼児期の「休息」を支える：室内での生活スペースづくりを具体例として</p> <p>第3回：基本的生活習慣を支える援助法（2） 幼児期の「着替え」を支える：0-1歳の身支度を具体例として</p> <p>第4回：基本的生活習慣を支える援助法（3） 幼児期の「排泄」を支える：トイレの掲示物をつくってみよう</p> <p>第5回：運動遊びを支える援助法（1） 「道具を使った遊び」の具体：マットを使った遊びを活用して</p> <p>第6回：運動遊びを支える援助法（2） 「伝承遊び」の具体：コマ回し、けん玉、竹馬をできるようになる</p> <p>第7回：運動遊びを支える援助法（3） 「ボールを使った遊び」の具体：3歳児にボールを使った遊びを導入する (後半：模擬保育の実践)</p>			

第8回：運動遊びを支える援助法（4）

「なわとびを使った遊び」の具体：大縄から短縄への移行

第9回：ゲーム遊びを支える援助法（1）

リレー遊びのバリエーションを計画し、模擬保育として実践する

第10回：ゲーム遊びを支える援助法（2）

カードなどを使った言葉・数量への関心を生むゲーム遊びの実践（後半：模擬保育）

第11回：集団遊びを支える援助法（1）

集団で力を合わせて遊ぶ：綱引き・玉入れを具体例として模擬保育を実践する

第12回：集団遊びを支える援助法（2）

模擬保育として、4・5歳児に対してドッジボール遊びの導入場面を実践する

第13回：模擬保育を実践する（1）

5歳児を対象とした運動遊びの指導計画を各自が立案し、模擬保育を実践し、良かった点と課題を明らかにする

第14回：模擬保育を実践する（2）

前週と同様、5歳児を対象とした模擬保育を実践し、長所と課題を明らかにする

第15回：まとめ：授業の中で実践した遊びを踏まえて、4歳/5歳児を想定した活動計画を作成する

（ICT活用を含む）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

レポート（授業内容を踏まえ「保育における良い遊び」に関するレポートを作成する）50%、毎回のコミュニケーションカード25%、授業中の課題への取組25%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

文部科学省「幼稚園教育要領解説」（最新版）

プリントを配布する

授業科目名： 人間関係領域指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中裕喜 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 幼児の自立心と人と関わる力を育む 【到達目標】 幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解することで、教師として幼児の自立心と人と関わる力を養えるようになる。			
授業の概要 幼児期前期における人間関係の発達の特徴と課題、教師に求められる援助の視点と具体的な方法について論じる。また、教材研究と指導計画の作成を行い、模擬保育を行う。			
授業計画 第1回：領域「人間関係」とは 第2回：教師との信頼関係 第3回：園生活における安定感を育む援助のあり方を考える 第4回：友達との遊びのはじまり 第5回：友達との遊びを支える援助のあり方を考える 第6回：幼児の自立心 第7回：自立心を育む援助のあり方を考える 第8回：幼児同士のいざこざや葛藤 第9回：いざこざや葛藤に対する援助のあり方を考える 第10回：自他の気持ちの違い 第11回：自他の気持ちの違いに気づく援助のあり方を考える 第12回：社会生活におけるきまり 第13回：領域「人間関係」にかかわる教材研究（PCなどICTの活用） 第14回：領域「人間関係」にかかわる指導案の作成 第15回：模擬保育と振り返り 定期試験			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
○	PBL（課題解決型学習）		反転授業
	グループワーク	○	プレゼンテーション
			ディスカッション、ディベート 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			

各回の最後に復習課題を提示するので、それを行い、オンラインで提出（120分）

成績評価方法

各回の演習・課題（50%）、定期試験（50%）

テキスト

『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド本社

『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省 フレーベル館

参考文献・参考資料等

授業のなかで適宜紹介する。

授業科目名： 人間関係領域指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中裕喜 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 幼児の自立心と人と関わる力を育む 【到達目標】 幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解することで、教師として幼児の自立心と人と関わる力を養えるようになる。			
授業の概要 幼児期後期における人間関係の発達の特徴と課題、教師に求められる援助の視点と具体的な方法について論じる。また、教材研究と指導計画の作成を行い、模擬保育を行う。			
授業計画 第1回：個と集団の育ち 第2回：個と集団の育ちを促す援助のあり方を考える 第3回：協同的な遊び 第4回：協同的な遊びを育む援助のあり方を考える 第5回：異年齢交流の育ち 第6回：異年齢交流の援助を考える 第7回：道徳性・規範意識の芽生え 第8回：道徳性・規範意識の芽生えを育む援助のあり方を考える 第9回：地域の様々な人との関わり 第10回：地域の様々な人との関わる活動を考える 第11回：人と関わる力と小学校以降の学習や生活 第12回：領域「人間関係」にかかわる教材研究（情報機器の活用を含む） 第13回：領域「人間関係」にかかわる指導案の作成 第14回：模擬保育と振り返り 第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的課題 定期試験			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
○	PBL（課題解決型学習）	○	反転授業
	グループワーク	○	プレゼンテーション
			ディスカッション、ディベート 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			

各回の最後に課題を提示するので、それを行い、オンラインで提出（120分）

成績評価方法

各回の演習・課題（50%）、定期試験（50%）にもとづいて評価する。

テキスト

『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド本社

『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省 フレーベル館

参考文献・参考資料等

授業のなかで適宜紹介する。

授業科目名： 環境領域指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 幼児期の特性をふまえた幼児教育の内容的・方法的特質を理解し、保育実践における保育内容「環境」に関連する保育のあり方を具体的に理解するとともに、保育現場での実践に資する能力を身に付けること。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や学びの過程を主体的に理解し、具体的な保育場面を想定して遊びを構想する技能を身に付けること。 ・ 生活・遊びに関わる環境構成の重要性を理解するとともに、具体的に構想する力を高めること。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「環境」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の向上を本授業のねらいとする。幼児が環境と関わって生きていることを理解し、その関わりと心身諸側面の発達との関係を学ぶ。さらに、幼児の成長・発達にふさわしい環境を具体的に考える。また、幼児が生活や遊びを行う中で、主体性の基盤をつくるために、保育における環境との豊かなかかわりを育む環境構成を、講義とともに、グループワークなどを通して対話的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：保育における「環境」の重要性 幼児教育・保育の基本と領域「環境」のねらいおよび内容の理解</p> <p>第2回：こどものまわりにある環境 こどもの周りに多様な環境を概観する。環境＝自然だけではないことを理解する</p> <p>第3回：身近な生活に興味を持つ（1）自然環境 樹木、草花、動物など園庭や身の回りの自然環境の基本を理解する</p> <p>第4回：身近な生活に興味を持つ（2）物的環境 こどもの周りにあるモノを理解する。特に素材や色・形、などに着目する</p> <p>第5回：身近な生活に興味を持つ（3）情報環境（1） 情報環境とは何か？大学周辺でフィールドワークをしながら、子どもの目線で考える</p> <p>第6回：身近な生活に興味を持つ（4）情報環境（2） 新聞紙や水・土などを用いて、子どもと大人のアフォーダンスの違いを理解する</p> <p>第7回：春夏にできる0-2歳児の環境遊び 0-2歳が春夏に素材や自然を楽しむ環境遊びを実践する (タオル生地の心地よさで安心感を持てる模擬保育を行う)</p> <p>第8回：春夏にできる3-6歳の環境遊び 3-6歳が春夏に素材や自然を楽しむ環境遊びを実践する</p>			

(お花を使って色水遊びの模擬保育を行う)

第9回：秋冬にできる0-2歳児の環境遊び

0-2歳が秋冬に素材や自然を楽しむ環境遊びの保育計画を作成する

第10回：秋冬にできる3-6歳児の環境遊び

3-6歳が秋冬に素材や自然を楽しむ環境遊びの保育計画を作成する

第11回：園庭遊びの環境（1）0-2歳児の園庭遊び環境

移動遊びの重要性～シャボン玉を活用した模擬保育を行う

第12回：園庭遊びの環境（2）3-5歳児の園庭遊び環境

ボールと楽しく出会える環境をつくる模擬保育の実践をする（的・枠）

第13回：園庭遊びの環境（3）園庭の環境整備

園庭多様性指標（15項目）～実際の園庭遊びを見てチェックしてみよう

第14回：園庭遊びの環境（4）自然と触れ合う環境づくり

自然の姿から季節を感じる～季節の花・実のなる木を使った遊びの模擬保育を実践する

第15回：授業を通して学んだことをまとめるための室内/屋外遊び環境の保育計画を作成する

4歳/5歳児を想定して、水を使った遊びの活動計画（環境構成）を作成する（ICT活用含む）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

レポート（第15回に作成した活動計画を踏まえた1日を通した保育計画を作成する）50%、毎回のコミュニケーションカード25%、授業中の課題への取組25%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

文部科学省「幼稚園教育要領解説」（最新版）

プリントを配布する

授業科目名： 環境領域指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：炭谷将史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 幼児期の特性をふまえた幼児教育の内容的・方法的特質を理解し、保育実践における保育内容「環境」に関連する保育のあり方を具体的に理解するとともに、保育現場での実践に資する能力を身に付けること。環境領域指導法Ⅰでの学びを踏まえ、さらに発展させて現場での実践に資する実践力の育成を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や学びの過程を主体的に理解し、具体的な保育場面を想定して遊びを構想する技能を身に付けること。 ・ 生活・遊びに関わる環境構成の重要性を理解するとともに、具体的に構想する力を高めること。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「環境」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の育成を本授業のねらいとする。幼児が環境と関わって生きていることを理解し、その関わりと心身諸側面の発達との関係を学ぶ。さらに、幼児の成長・発達にふさわしい環境を具体的に考える。また、幼児が生活や遊びを行う中で、主体性の基盤をつくるために、保育における環境との豊かなかかわりを育む環境のあり方を、講義とともに、模擬授業・グループワークを通して対話的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：保育における「環境」の重要性 環境領域指導法Ⅰの復習を兼ねて、改めて環境構成の必要性を確認する</p> <p>第2回：「保育における環境教育」を考える（1） これまでの経験などから「保育における良い環境」の具体例を出してみよう</p> <p>第3回：「保育における環境教育」を考える（2） 前週の具体例から「保育における環境教育」のポイントを考える</p> <p>第4回：生活環境の中の素材（1）「生活空間」の心地よい素材 あたたかみのある生活空間を作るための工夫作品集を作りながら、素材を学ぶ</p> <p>第5回：生活環境の中の素材（2）「生活空間」の安心を考える 安心できる環境づくり（玄関、廊下、保育室など）の工夫を集め、使える素材を学ぶ</p> <p>第6回：文化環境（1）季節ごとの文化・行事・食を知る（春） 春の文化・行事・食を使った保育計画を立て、模擬保育を実践する（例：春の食べ物）</p> <p>第7回：文化環境（2）季節ごとの文化・行事・食を知る（夏） 夏の文化・行事・食を使った保育計画を立て、模擬保育を実践する（例：七夕）</p> <p>第8回：文化環境（3）季節ごとの文化・行事・食を知る（秋） 秋の文化・行事・食を使った保育計画を立て、模擬保育を実践する（例：紅葉散歩）</p>			

第9回：文化環境（4）季節ごとの文化・行事・食を知る（冬）

冬の文化・行事・食を使った保育計画を立て、模擬保育を実践する（例：クリスマス）

第10回：気になる園児への環境支援（1）

静かな空間で（1人で）過ごしたい園児のための環境づくり

第11回：気になる園児への環境支援（2）

給食に抵抗感があって、落ち着かない園児のための環境づくり

第12回：気になる園児への環境支援（3）

午睡の時に興奮したりしてうまく眠れない園児のための環境づくり

第13回：気になる園児への環境支援（4）

遊びに集中できない園児のための環境づくり（面白い素材を集めてみる）

第14回：保育者としての学ぶ力（1）

保育者として成長する力を育む環境：学び合いの工夫を例に

第15回：保育者としての学ぶ力（2）

地域の人や保護者とつながる環境：つながりを作る具体的な工夫を学ぶ（ICT活用含む）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキスト・資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（60分）

成績評価方法

レポート（授業内容を踏まえ「保育における良い環境」に関するレポートを作成する）50%、毎回のコミュニケーションカード25%、授業中の課題への取組25%

テキスト

特になし

参考文献・参考資料等

文部科学省「幼稚園教育要領解説」（最新版）

プリントを配布する

授業科目名： 言葉領域指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：石上浩美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>(1)ねらい及び内容：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域および「言葉」のねらい・内容を理解する。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、具体的な「言葉」指導場面を構想した保育方法を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1)①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい・内容を理解している。 ②乳幼児期の「言葉」の発達過程を理解し、その指導上の留意点・評価方法を理解している。 ③「言葉」と各領域の内容の関連性、小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)①保育計画の重要性及び情報機器及び教材の活用法を取り入れた保育を構想することができる。 ②具体的な保育場面を構想し、PDCAサイクルを通して自らの保育を改善することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育内容領域「言葉」では、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚 や言葉で表現する力を養う」ことを目的とする。そこでこの授業では、言葉をコミュニケーション及び表現ツールのひとつとして位置づけ、言葉の発達段階に応じた指導方法を修得することを目的とする。たとえば乳児の泣き（叫喚音）や前言後の発声（非叫喚音）には、自らの欲求や要求を養育者に伝達しようとする意図や何らかの理由がある。一方養育者は泣き対して戸惑い、抱いたりあやしたりしながら乳児を理解しようとする。このような言語的相互のやり取りの連続によって愛着が芽生え、三項関係が成立する。このような言語獲得の発達に関する基礎知識と、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、それらをふまえた指導計画の作成、実践、評価の方法を学ぶために、この授業では協同学習の理念と手法に基づいた話し合い活動（LTD：Learning Through Discusson）と、情報機器を活用した授業設計を通して、具体的な「言葉」の指導方略を探究する。このような手法にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業計画・内容・評価方法等説明） 保育の基本とは</p> <p>第2回：保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」</p> <p>第3回：乳児期の言葉の発達（1）叫喚音から非叫喚音の出現</p> <p>第4回：乳児期の言葉の発達（2）初語から二語・多語文へ</p> <p>第5回：幼児期の言葉の発達</p> <p>第6回：児童期の言葉の発達</p>			

第7回：手段としての言葉

第8回：道具としての言葉

第9回：言葉の獲得に関する領域「言葉」と他4領域との関係

第10回：言葉の獲得に関する領域「言葉」と小学校「国語」との接続

第11回：言葉の獲得に関する領域「言葉」指導計画

第12回：言葉の獲得に関する領域「言葉」評価方法

第13回：ICTを活用した領域「言葉」の指導方法（1）幼児教育とICT活用

第14回：ICTを活用した領域「言葉」の指導方法（2）ICTを活用した教材・教具

第15回：発達障がいのある子どもに対する「言葉」の支援 言葉領域指導法 I まとめ

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	○	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

指定テキストの精読（60分）、ミニレポート作成（30分）、ノート整理（30分）

成績評価方法

ミニレポート（20%）、中間レポート（30%）、定期試験（50%）

テキスト

石上浩美編著（2022）『新・保育と言葉－発達・子育て支援と実践をつなぐために－』嵯峨野書院

参考文献・参考資料等

- ・浅井拓久編著（2025）『指導法も一緒に学ぶ保育内容「言葉」（第2版）』教育情報出版
- ・チャイルド本社編集『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社
その他多数あるため適宜紹介する。

授業科目名： 言葉領域指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：石上浩美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>(1)ねらい及び内容：「言葉領域指導法Ⅰ」修得内容を基に、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域および「言葉」のねらい・内容理解を深化する。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：「言葉領域指導法Ⅰ」履修内容を基に、具体的な「言葉」指導場面を構想した保育指導計画を作成し、模擬授業を実施・評価する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1)①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい・内容を理解している。 ②乳幼児期の「言葉」の発達過程を理解し、その指導上の留意点・評価方法を理解している。 ③「言葉」と各領域の内容の関連性、小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)①保育計画の重要性及び情報機器及び教材の活用法を取り入れた「言葉の指導」に関する保育計画（指導案）を作成することができる。 ②保育指導計画（指導案）を基に模擬授業を実施し、PDCAサイクルを通して自らの保育指導計画を改善することができる。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、「言葉領域指導Ⅰ」修得内容を基に、保育計画の重要性及び情報機器及び教材の活用法を取り入れた「言葉の指導」に関する保育計画（指導案）を作成・模擬授業（クラス内発表）を実施する。発表については、PDCAサイクルを通じた相互評価を行うことによって、自らの保育指導計画を改善、グループメンバーの協同によるよりよい指導計画づくりと実践の探究を目指す。この授業では協同学習の理念と手法に基づいた話し合い活動（LTD：Learning Through Discusson）と、情報機器を活用した授業設計を通して、具体的な「言葉」の指導方略を探究する。このような手法・グループ活動にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業計画・内容・評価方法等説明）			
「言葉領域指導Ⅰ」修得内容の確認保育の基本とは			
第2回：言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践			
第3回：気になる子どもに対する言葉の支援			
第4回：言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり			
第5回：小学校国語科における言葉の指導方法			
第6回：ICTを活用した領域「言葉」の指導方法（1）ロイロノートの基礎知識			
第7回：ICTを活用した領域「言葉」の指導方法（2）ロイロノートの実践的活用方法			
第8回：指導計画作成と評価方法（1）保育における評価の意義			

第9回：指導計画作成と評価方法（2）保育評価の実際

第10回：模擬授業第1回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ①）

第11回：模擬授業第2回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ②）

第12回：模擬授業第3回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ③）

第13回：模擬授業第4回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ④）

第14回：模擬授業第5回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ⑤）

第15回：模擬授業第6回 ICTを活用した教材・教具による模擬授業と相互評価（グループ⑥）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業		ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

指定テキストの精読（60分）、ミニレポート作成（30分）、ノート整理（30分）

成績評価方法

ミニレポート（20%）、中間レポート（30%）、模擬授業（50%）

テキスト

石上浩美編著（2022）『新・保育と言葉－発達・子育て支援と実践をつなぐために－』嗚峨野書院

参考文献・参考資料等

- ・浅井拓久編著（2025）『指導法も一緒に学ぶ保育内容「言葉」（第2版）』教育情報出版
 - ・田中享胤監修・山本淳子編著（2018）『改訂新版実習の記録と指導案』ひかりのくに
- その他多数あるため適宜紹介する。

授業科目名： 表現領域（造形）指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：芦田風馬 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容に指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】 幼児の造形表現活動における基本的な知識や技法の習得。</p> <p>子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶ。また、保育者として必要な造型面の理論・技法・指導法について実技を通して学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要項に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する ・ 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける 			
授業の概要			
<p>領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：幼児画の発達過程と幼児の造形表現の特徴			
第2回：レッジョ・エミリア市の創造性教育			
第3回：様々な描画道具を使用して			
第4回：水彩絵の具で描く			
第5回：土粘土を使用した造形			
第6回：光を使った造形、ICTの活用（プロジェクターの投影を通して）			
第7回：飛び出す仕組みで表す表現①（仕組みを活かして）			
第8回：飛び出す仕組みで表す表現②（本製作）			
第9回：造形表現題材開発①（0～2才にむけて）			
第10回：造形表現題材開発②（3～5才にむけて）			
第11回：造形における環境設定について			
第12回：保育指導案に表す			
第13回：模擬保育①（保育の準備 必要物品等の確認）			
第14回：模擬保育②（グループで模擬保育）			
第15回：模擬保育の振り返り、まとめ			
定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
PBL（課題解決型学習）		反転授業	ディスカッション、ディベート

<input type="radio"/> グループワーク	<input type="radio"/> プレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
<input type="radio"/> 授業時間内に講評・解説する	<input type="radio"/> メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間		
作りたいもののイメージが膨らむ様に様々な絵や立体に関するものを調べて活かすことができるようにする。（60分）		
成績評価方法		
作品課題、授業への取り組み30% 作品等の評価50% レポート類20%		
テキスト		
幼稚園教育要領解説 文部科学省（最新版）		
参考文献・参考資料等		
授業中に適宜資料を配布する		

授業科目名： 表現領域（音楽）指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：菅 道子 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の領域「表現」の内容について音楽を核としながらも総合的に捉え理解する。 ・ 子どもの発達を理解し、そこに内在する表現を引き出すような保育内容と方法を探求する。 ・ 子どもの身近にある遊びや音楽的表現、音楽文化に目を向け、自分なりの発見を重ねていく習慣を身に付ける。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の指導者、保育者として幼児の発達、表現に関する基本的知識を得る。 ・ 保育者として必要な音楽表現にかかわる基礎的スキルを身に付ける。 ・ 音楽・身体・ことばが複合的にあらわれる幼児期の表現特性を受け止め、それを引き出すことのできる保育内容を考案・実践していく力を身に付ける。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育における領域「表現」に関する活動を総合的な視野からとらえ、小学校教育との接続、障害のある児童へも配慮した指導内容と方法について検討する。 ・ また幼稚園教育の指導に必要な音楽の基礎的知識とスキルを身に付ける。 			
授業計画			
第1回：幼稚園教育要領の全体構造の理解と領域「表現」について知る ／子どもの手遊び・歌あそび（1）			
第2回：幼児音楽教育の歴史と幼稚園教育要領の変遷／子どもの手遊び・歌あそび（2）			
第3回：幼児の発達と音楽表現／子どもの手遊び・歌あそび（3）			
第4回：表現活動の内容と方法の検討（1）わらべうたを用いた音楽活動 ／子どもの手遊び・歌遊び（4）			
第5回：表現活動の内容と方法の検討（2）童謡や子どものための歌の意義と実践 ／子どもの手遊び・歌遊び（5）			
第6回：表現活動の内容と方法の検討（3）リズム遊びや身体表現を伴う音楽活動／弾き歌い演習（1）			
第7回：表現活動の内容と方法の検討（4）子どものための楽器遊びの意義と実践（ICT活用を含む） ／弾き歌い演習（2）			
第8回：表現活動の内容と方法の検討（5）お手玉あそびの意義と実践／弾き歌い演習（3）			
第9回：表現活動の内容と方法の検討（6）絵本と音楽を合わせた活動の意義と実践（幼小接続） ／弾き歌い演習（4）			
第10回：表現活動の内容と方法の検討（7）障害のある子どもに配慮した音楽活動（ICTの活用） ／弾き歌い演習（5）			

第11回：表現領域（音楽）を中心とした保育案の作成／弾き歌い演習（6）

第12回：模擬保育に向けた保育案の検討/弾き歌い演習（7）

第13回：模擬保育の実施（1回目）とディスカッション

第14回：保育案の改訂と模擬授業の実施（2回目）とディスカッション

第15回：弾き歌いの発表（8）、授業全体の総括討議

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・ 前回講義の資料を読み返し、講義内容を復習しておく（30分）
- ・ 授業中に次回の授業内容の課題を提示するので、その学習を進めておくこと（60分）
- ・ 音楽表現にかかわる基礎技能（弾き歌い）の習得を継続的に行うこと（60分）
- ・ 日頃から子どもの歌のレパートリー（手遊び歌、わらべうた、童謡等）に慣れ親しみ、遊びのレパートリーを増やすこと（30分）

成績評価方法

授業時の学習記録や課題提出物（40%）、実技発表（30%）、学期末試験（30%）

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（最新版）

参考文献・参考資料等

- ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館（最新版）
- ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館（最新版）

適宜紹介する。

授業科目名： 初等国語科（書写を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三好真史、下野健児
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】国語科の教科構造を、学習指導要領を踏まえて説明できるようになる。			
【到達目標】小学校国語科の各領域に関連する学習指導内容を踏まえた教材研究を行うことができる。小学校国語科の特性に応じた情報通信技術の概要を理解することができる。			
授業の概要			
国語科の教科構造を理解するとともに、学習指導要領における国語科の目標及び内容並びに全体構造を理解する。また、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域に関連する学習指導内容を踏まえ、教材研究上の留意点を理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、授業の進め方、国語科教育の目的について【三好】			
第2回：グループ編成、パブリックコミュニケーションゲーム、国語科教育の動向について【三好】			
第3回：国語学力の基礎・基本、「言葉による見方・考え方」について【三好】			
第4回：音声言語について【三好】			
第5回：文学作品（物語・詩・小説）について【三好】			
第6回：説明的文章について【三好】			
第7回：作文について【三好】			
第8回：言葉の特徴や使い方・情報の扱い方について【三好】			
第9回：読書指導・読み聞かせ、読書へのアニメーションについて【三好】			
第10回：毛筆、硬筆等の書写について【下野】			
第11回：N I Eを生かした国語の授業について【三好】			
第12回：ディベートの授業について【三好】			
第13回：スピーチの授業について【三好】			
第14回：P I S A「読解力」について【三好】			
第15回：レポートの相互評価、授業のふりかえり【三好】			
定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			

事前学習：

授業前に、授業資料を読んでおく。(45分程度)

授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく。(45分程度)

事前にテキストを読んでおく。(30分程度)

事後学習：

授業内容の理解を深める「コミュニケーションカード」に取り組む。(60分程度)

前回までの範囲を復習する。(60分程度)

成績評価方法

毎回のコミュニケーションカード30%、授業中の課題40%（授業中の発言内容10%を含む）、レポート30%

留意事項

- ・レポートの提出期限は厳守する。期限を過ぎたものは、成績評価の対象として認めない。
- ・プリント類は自己責任のもとで管理する。

テキスト

- ・柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法 七訂版』学文社(2023年)¥2,420

参考文献・参考資料等

- ・文部科学省『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 国語編』東洋館出版社(2018年)
- ・国立教育政策研究所『教育研究情報データベース』「学習指導要領の一覧」

<https://erid.nier.go.jp/guideline.html>

授業科目名： 初等社会科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸本 実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 社会		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校学習指導要領社会編が示す小学校社会科の教育内容について、授業で子どもが学ぶ姿をイメージし、子どもが学ぶ意味を理解する。また、それらの内容を小学校の教育内容とすることの社会的意義について考察する。さらに、基盤となる社会諸科学の理論と方法をふまえて、それらの内容について考察し、社会にみられる課題の解決にむけたパフォーマンス課題に取り組み、その探究の成果を発表し、議論する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 小学校学習指導要領社会編が示す小学校社会科の教育内容について、子どもが学ぶ姿をイメージし、子どもが学ぶ意味を理解する。</p> <p>② それらの内容を小学校の教育内容とすることの社会的意義について考察する。</p> <p>③ 基盤となる社会諸科学の理論と方法をふまえて、それらの内容について考察し、社会にみられる課題の解決に向けたパフォーマンス課題に取り組み、その探究の成果を発表し、議論する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校学習指導要領社会編が示す小学校社会科の教育内容について、授業で子どもが学ぶ姿をイメージし、子どもが学ぶ意味を理解する。また、それらの内容を小学校の教育内容とすることの社会的意義について考察する。さらに、基盤となる社会諸科学の理論と方法をふまえて、社会的見方・考え方、地理的見方・考え方、歴史的見方・考え方を働かせて、それらの内容について考察し、社会に見られる課題の解決に向けたパフォーマンス課題に取り組み、その探究の成果を発表し、議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校学習指導要領社会編：内容構成、歴史的変遷、諸外国との比較</p> <p>第2回：地域の地理的環境の特色：自然、交通、人口、産業、文化など</p> <p>第3回：地域の産業の特色：農林水産業、工業、商業、観光など</p> <p>第4回：地域の公共サービスとその課題：上下水道、ごみ処理、安全と防災など</p> <p>第5回：地域の課題の解決を構想するパフォーマンス課題の設定</p> <p>第6回：世界の中の日本の農林水産業と地域の課題</p> <p>第7回：世界の中の日本の工業と地域の課題</p> <p>第8回：世界の中の日本の情報産業や情報化により発展した産業と地域の課題</p> <p>第9回：世界の中の日本の自然災害とその防災と地域の課題</p> <p>第10回：日本と地域の古代</p> <p>第11回：日本と地域の中近世</p> <p>第12回：日本と地域の近現代</p> <p>第13回：日本と地域の政治と租税</p>			

第14回：パフォーマンス課題の相互交流1（世界や日本の中で地域の資源や趣を活かす）

第15回：パフォーマンス課題の相互交流2（世界や日本の中で地域のリスクや制約と折り合う）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

事前に自分で選んだ地域に関するパフォーマンス課題に関する学習をしておくこと（80分）

授業の内容、教師や仲間からのフィードバックをパフォーマンス課題の作品に活かすこと（80分）

ウェブ掲示板などを利用し授業の振り返りを書き、他の書き込みを読むこと（40分）

Kahootによるウェブ教材を復習すること（40分）

成績評価方法

パフォーマンス課題の作品（50%）、授業中のグループワークなどへの貢献（20%）、振り返りやパフォーマンス課題の作品の準備（30%）

テキスト

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』日本文教出版

その他、授業で指定した文献、配布資料

参考文献・参考資料等

授業で指定した文献、配布資料

授業科目名： 初等算数科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井浩史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】算数科の目標である「数理的に捉え見通しを持ち筋道を立てて考察する」ことや「性質などを見だし統一的・発展的に考察する」ことなどの数学に関わる営みを、数学的活動を通して実践していく算数科という教科を理論的に研究し、実践しつなげていくものである。小学校学習指導要領解説算数編をもとに、小学校算数科教育の全体像を系統的に把握するとともに、複数の教科用図書を分析して教材のねらいを多面的に理解する。</p> <p>【到達目標】小学校学習指導要領解説算数編および複数の教科用図書の記述から、学問としての数学を理解するとともに、算数科教育を通して育てたい資質・能力を見だし、それを実現できる教材研究、教材開発をすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、「身の回りの事象から問題を見出し、その問題を数学的に処理し解決したうえで、さらに日常の事象に返して現実的な課題解決を図る」という数学的サイクルを確立するとともに、筋道を立てて論理的に解決する算数のよさを感じ得ることができる算数科教育を理解することをねらいとする。それを踏まえた上で、算数科教育に必要な基礎的な知識を身に付け、児童の思考方法や特徴を知り、教科書教材を読み深めて教材の場面設定や数値の意味と数学的な内容を関連させて理解するなど、実践化に結びつく理論を備えた資質の育成を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：算数科教育の全体像の把握と算数を学ぶ意味</p> <p>第2回：「数と計算」領域の概観（第5学年「整数」の事例から）</p> <p>第3回：「図形」領域の概観（第6学年「図形の拡大と縮小」の事例から）</p> <p>第4回：「測定」領域の概観（第2学年「ながさ」の事例から）</p> <p>第5回：「変化と関係」領域の概観（第6学年「比例と反比例」の事例から）</p> <p>第6回：「データの活用」領域の概観（第4学年「折れ線グラフ」の事例から）</p> <p>第7回：数学的活動の意義</p> <p>第8回：第1学年の内容と指導事例「くりあがりのあるたしざん」</p> <p>第9回：第2学年の内容と指導事例「かけざん」</p> <p>第10回：第3学年の内容と指導事例「10000までのかず」</p> <p>第11回：第4学年の内容と指導事例「変わり方」</p> <p>第12回：第5学年の内容と指導事例「面積」</p> <p>第13回：第6学年の内容と指導事例「データの整理と活用」</p> <p>第14回：内容の取扱いと配慮事項について</p> <p>第15回：小学校算数科教育の現代的課題</p>			

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

○	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の内容を予告しておくので準備学習をしておくこと（2時間）

テキストや資料を読み返し、復習しておくこと（2時間）

成績評価方法

レポート60%、授業に対する参加度・報告内容など40%で評価

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 文部科学省 日本文教出版 平成29年7月 224円
+税

参考文献・参考資料等

適宜、資料配布する。

授業科目名： 初等理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北林雅洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 実験そのものをおもしろがる児童はとて多い。実験のどういうところをおもしろがるのか、受講生自身が実際に実験を実施することを通して探っていく。理科の授業には実験が欠かせない。この点で他の教科とは大きく異なる。理科の授業づくりのためには、実験・観察を適切に実施できるようになっている必要がある。しかし、実験には危険を伴うものがあり、準備や片付けにも手間がかかるため敬遠する小学校教員も多い。手間はかかっても実験をしっかりやっていきたい、そのように受講生が思えるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 小学校理科の基本的な実験について、実施することができる。</p> <p>(2) 実験を効果的に安全に実施するうえで留意すべき点を説明できる。</p> <p>(3) 児童が実験のどういうところをおもしろがるのか、具体的に説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は実験・実習を中心に進める。毎回、小学校理科で基本となる、あるいは重要な実験・観察について、受講生が実際に実施し、効果的で安全な実施方法と必要な技能についての理解を図る。あわせて、小学校理科を指導するうえで必要となる理科の内容に関する理解を深める。毎回、授業後にミニレポートを作成して提出する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：虫メガネ（生き物の観察、虚像と実像）</p> <p>第2回：光学顕微鏡①（花粉の観察）</p> <p>第3回：光学顕微鏡②（葉の気孔の観察）</p> <p>第4回：光学顕微鏡③（水の中の小さな生き物の観察）</p> <p>第5回：実体顕微鏡（砂の観察）</p> <p>第6回：天体望遠鏡（太陽・月の観察）</p> <p>第7回：音の実験</p> <p>第8回：金属の実験</p> <p>第9回：電気の実験</p> <p>第10回：磁石の実験</p> <p>第11回：空気の実験</p> <p>第12回：物の重さと体積の実験</p> <p>第13回：アルコールランプ（事故の危険性と対策）</p> <p>第14回：三態変化の実験</p> <p>第15回：酸性とアルカリ性（塩酸の希釈、リトマス試験紙）</p>			

定期試験は実施しない。			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
次回の実験について、学習指導要領において対応する学年とその内容を把握し、解説を読んで理解しにくかったことなどをまとめておく（120分）			
授業後にミニレポートを作成する（120分）			
成績評価方法			
毎回のミニレポートの内容（100%）			
テキスト			
特になし。			
参考文献・参考資料等			
小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）			
小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月、文部科学省）			
その他、授業中に適宜資料を配布する。			

授業科目名： 初等生活科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：北林雅洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】生活科は、具体的な活動や体験を通して児童が気付いたことに依拠して授業をつくり、自立への基礎を養う教科である。授業づくりにおいては、児童の気付きの中でも特に「おもしろい」と思える気付きが重要になる。おもしろい気付きが得られる体験活動の代表的なものを、受講者自身が直接体験してみることを通して、児童の「おもしろい」に共感できるセンスを磨くことを目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 生活科で児童にとっておもしろい気付きが得られる体験活動を実施できる。</p> <p>(2) それらの活動において児童はどういうところにおもしろがるのか、具体的に説明できる。</p> <p>(3) 受講生自身も、生活の中でいろいろなおもしろい気付きが得られるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、生活科で児童が体験する活動を、受講生が実際に体験してみる活動を中心に進める。毎回の授業の最後に活動を通して得られた気付きを簡潔に報告し合い、他の受講生の気付きを参考にして次の授業までに追加の活動を各自で実施し、得られた気付きを次の授業の冒頭で簡潔に報告し合う。第6回と第9回では、小学校教員の視点に立って、指導上の工夫点について検討する。気付いたことを表現する活動を通して気付きが深まることも、受講生自身が取り組んでみることで理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活科の活動内容と気付き</p> <p>第2回：コマを使った遊び</p> <p>第3回：磁石や輪ゴムを使った遊び</p> <p>第4回：ストローなどで笛をつくる</p> <p>第5回：空気を使った遊び</p> <p>第6回：自然や物を使った遊びの工夫</p> <p>第7回：大学構内の探検（自然に注目して）</p> <p>第8回：大学構内の探検（身近な人々、社会に注目して）</p> <p>第9回：大学構内の探検の工夫</p> <p>第10回：地域探検（大学の東側）</p> <p>第11回：地域探検（大学の西側）</p> <p>第12回：地域探検（大学の南側）</p> <p>第13回：地域探検（大学の北側）</p> <p>第14回：地域探検における気付きの発表方法の検討</p> <p>第15回：地域探検における気付きの発表</p>			

定期試験は実施しない。		
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）		
<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク	
フィードバックの方法（いずれかに○）		
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間		
事前に、授業の冒頭で報告する内容をまとめておく（60分）		
授業後に、他の受講生の気付きを参考にして次の授業までに追加の活動を各自で実施する（180分）		
成績評価方法		
レポート試験（80％）、授業の発表内容（20％）		
テキスト		
特になし。		
参考文献・参考資料等		
小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）		
小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年6月、文部科学省）		
その他、授業中に適宜資料を配布する。		

授業科目名： 初等音楽科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菅 道子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等音楽科の指導ができるよう、必要な音楽の基礎的知識を得るとともに技能を身に付ける。 ・得られた音楽の基礎的知識・技能の力を活用して他者と音楽を楽しみ、協同創造できるような実践力を身に付けられることを目指す。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽にのってリズムをとったり、動いたり、即興表現したりする身体表現力を身に付ける。 ・音楽を理解するために必要な楽典の基礎、楽譜を読んで歌ったり弾いたりできるソルフェージュ力を身に付ける。 ・音楽科を指導するために必要なピアノの弾き歌いの力、歌唱の基礎力を身に付ける。 ・音楽科を指導するために必要な器楽領域で扱う打楽器、旋律楽器、和楽器等の理解と初歩的スキルを身に付ける。 ・身に付けた音楽の基礎的知識・技能を活用して他者と音楽を共有し、協同創造できるような実践力を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等音楽科の指導ができるように、音楽の基礎的な知識（楽典、楽譜の見方・読み方、楽器の種類奏法）と技能（ピアノ弾き歌い、歌唱、器楽、音楽づくり等）を身に付けることを目指す。 ・上記の学習を通して、各自の音楽に対する理解力、表現力を高める。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：身体や声を使ったリズム遊び、音楽づくり（原初的な音楽の体験）</p> <p>第2回：楽典の基礎（1）五線、音名、音符、休符／弾き歌いの演習（1） （楽譜の見方、低学年用共通教材）</p> <p>第3回：楽典の基礎（2）拍と拍子、音程、記号／弾き歌いの演習（2）（低学年用共通教材）</p> <p>第4回：楽典の基礎（3）音階と和音／弾き歌いの演習（3）（低学年用共通教材）</p> <p>第5回：歌唱表現の基礎（1）（発声法、楽譜の見方）／弾き歌いの演習（4）（中学年用共通教材）</p> <p>第6回：歌唱表現の基礎（2）（低学年用共通教材 楽曲分析と表現の工夫）／弾き歌いの演習（5） （中学年用共通教材）</p> <p>第7回：歌唱表現の基礎（3）（中学年用共通教材 楽曲分析と表現の工夫）／弾き歌いの演習（6） （中学年用共通教材）</p> <p>第8回：歌唱表現の基礎（4）（高学年用共通教材 楽曲分析と表現の工夫）／弾き歌い演習（7） （中間発表）</p> <p>第9回：打楽器の基礎（1）無音程打楽器（カスタネット、タンブリン、鈴等の音色と奏法） ／弾き歌いの演習（8）（中学年用共通教材）</p>			

第10回：打楽器の基礎 (2) 有音程打楽器 (木琴、鉄琴、オルフ楽器等の音色と奏法)

／弾き歌いの演習 (9) (高学年用共通教材)

第11回：旋律楽器の基礎 (リコーダーまたは鍵盤ハーモニカの音色と奏法) ／弾き歌いの演習 (10)

(高学年用共通教材)

第12回：和楽器の基礎 (大太鼓、摺り鉦の音色と奏法) ／弾き歌いの演習 (11) (高学年用共通教材)

第13回：音楽づくりの基礎 (1) (声を使った即興表現・ICTを活用した音楽づくり)

／弾き歌いの演習 (12) (自由選択教材)

第14回：音楽づくりの基礎 (2) (楽器を使った音楽づくり) ／弾き歌いの演習 (13) (自由選択教材)

第15回：指揮法の基礎／弾き歌いの発表 (14) (自由選択教材)

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)

	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法 (いずれかに○)

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・講義内容について資料等を読み返し、復習しておく (30分)
- ・音楽の基礎的な知識については実技演習の中でも活用し、分からないところなどを復習しておく (60分)
- ・音楽の基礎技能について日々の練習を継続すること (90) 分

成績評価方法

授業時の参加度・実技演習への取り組み (30%)、弾き歌いの中間・終了発表 (30%)、学期末試験 (40%)

テキスト

吉田武男監修『初等音楽科教育』(Minerva初めて学ぶ教科教育第7巻) (2025) ミネルヴァ書房

『小学校学習指導要領』(2017年3月告示、文部科学省)

『小学校学習指導要領解説(音楽編)』(2017年6月、文部科学省)

参考文献・参考資料等

適宜紹介します。

授業科目名： 初等図画工作科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：芦田風馬 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 小学校図画工作科教育を行うための理論と実践			
【到達目標】 学習指導要領図画工作科の目標にある「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする」ということを大切にする。どのようにすれば、目標を実現する授業は可能なのか、実際の小学校の題材にふれ、制作する中で、指導内容や指導方法についての理解を深める。			
授業の概要			
小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 図画工作科の目標			
第2回：子どもの描画の発達（ローウェンフェルドの描画分類をもとに絵画を分類する）			
第3回：表現イ 絵画（1）クロッキー（心のこもった線で絵を描く）			
第4回：表現イ 絵画（2）彩色の方法（クロッキーの作品に色を入れる）			
第5回：表現イ 絵画（3）モダンテクニック（画面作りの技法を知る）			
第6回：表現イ 絵画（4）モダンテクニック・コラージュ （クロッキーの作品をモダンテクニックの画面に貼りつける）			
第7回：表現イ 粘土（1）テラコッタ粘土による造形（粘土造形の技法を知る）			
第8回：表現イ 粘土（2）テラコッタ粘土による造形（作品を作り素焼きする）			
第9回：表現ア 造形遊び（1）造形遊びの目標（木片を使った造形遊びを楽しむ）			
第10回：表現ア 造形遊び（2）低・中・高学年における活動内容（新聞紙を使った造形遊びを考える）			
第11回：表現イ 木工（1）電動糸鋸を使った立体造形 （「つるしてアート」の作品を作る<下絵を描く 切り取る>）			
第12回：表現イ 木工（2）電動糸鋸を使った立体造形 （「つるしてアート」の作品を作る<切り取る 磨く>）			
第13回：表現イ 粘土（3）テラコッタ粘土による造形（素焼きの作品に釉薬をかけ本焼きする）			
第14回：表現イ 木工（3）電動糸鋸を使った立体造形 （「つるしてアート」の作品を作る<色を塗る 組み立てる>）			
第15回：鑑賞 相互鑑賞 対話型鑑賞 アートゲーム型鑑賞 まとめ			
定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
PBL（課題解決型学習）		反転授業	ディスカッション、ディベート

○ グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間 シラバスに示されている学習内容について、学習指導要領や参考文献などをもとに事前に予習したり復習したりすること（4時間）		
成績評価方法 授業内課題（50%）、毎回の授業の気付き小レポートを提出（20%）、図画工作科内容論に関するレポートを提出（30%）		
テキスト 小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編		
参考文献・参考資料等 授業中に適宜配布する		

授業科目名： 初等家庭科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸田蘭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】 小学校家庭科を担当するために必要となる基礎的知識と技能を習得する。小学生を取り巻く家庭生活の実態や問題点を知り、小学生と自分自身の生活を捉え直し、生活の改善を図ることができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>(2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</p> <p>(3) 家庭科の学習評価の考え方を理解している。</p> <p>(4) 家庭科の背景となる学問領域と関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p>			
授業の概要			
現代の小学生の家庭生活をめぐる諸課題を理解した上で、家族と家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境の各内容に関する基礎的技術を身に付け、授業実践に活用できる。			
授業計画			
第1回：現代の小学生の家庭生活をめぐる諸課題と家庭科教育の現状			
第2回：家族と家庭生活の内容（1）家庭と仕事			
第3回：家族と家庭生活の内容（2）家族や地域の人々とのかかわり			
第4回：食生活の内容（1）食事の役割と栄養を考えた食事			
第5回：食生活の内容（2）調理の基礎「ごはんのみそ汁」について			
第6回：食生活の内容（3）調理の基礎「ゆでる調理といためる調理」について			
第7回：衣生活の内容（1）手縫いの基礎			
第8回：衣生活の内容（2）ミシン縫いの基礎			
第9回：衣生活の内容（3）衣服の着用と手入れ			
第10回：住生活の内容（1）季節に合った住まい方の工夫			
第11回：住生活と環境の内容（1）清潔な住まい方			
第12回：消費生活と環境（1）消費者の役割と買い物			
第13回：消費生活と環境（2）ICTを活用した授業について			
第14回：家族と家庭生活（3）生活の課題と実践（冬休みの課題あり）			
第15回：小学校学習指導要領（家庭）の目標と内容			
定期試験は行わない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）	
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間 事前の説明を受けて小学校学習指導要領解説書〈家庭編〉（平成29年7月告示）の次時の授業に関連する部分を読んでおく（4時間）	
成績評価方法 レポート（80%）、成果物・作品等（20%）	
テキスト 小学校学習指導要領解説書〈家庭編〉（平成29年7月告示）105円 文部科学省検定教科書『新しい家庭5・6』東京書籍7（2024年）301円	
参考文献・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する	

授業科目名： 初等体育科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三好真史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】本講義では、小学校体育で行われる体づくり運動および器械運動の演習を中心として、生涯スポーツに必要な運動ができるようになることをねらいとする。体を動かす楽しさや心地よさを味わいつつ、自己や他者の体の様子に気づき、自己が体験したことがない運動ができるようになる。</p> <p>【到達目標】他者と協同しながら様々な運動に取り組み、器械運動の技の組み合わせや動きを工夫し、発表会で発表することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年においては、運動習慣の低下が社会問題になっており、運動の果たす役割が重要視されている。運動好きな子どもを育てるためには、授業の中で運動に興味を持たせ、できる喜びを感じさせる必要があり、教師の資質が問われることになる。本講義では、児童の発育や発達を理解しながら、安全に楽しく運動に親しませることができるよう、様々な運動を体験し、理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方について） 体育の指導技術について</p> <p>第2回：基本の運動・体づくり運動（ペアやグループで行うアクティビティ）</p> <p>第3回：基本の運動・体づくり運動（場や器具を用いるアクティビティ）</p> <p>第4回：基本の運動・体づくり運動（ボールを使ったアクティビティ）</p> <p>第5回：基本の運動・体づくり運動（オニあそびのアクティビティ）</p> <p>第6回：マット運動（実技と補助指導） 前転、開脚前転、後転、伸膝後転</p> <p>第7回：マット運動（実技と補助指導） 基本の運動の実技テスト 壁倒立、倒立ブリッジ、側方倒立回転、ロンダート</p> <p>第8回：鉄棒運動（実技と補助指導） ふりおり、片足ふみこしおり、前回りおり、足抜き回り、かかえこみ前回り</p> <p>第9回：鉄棒運動（実技と補助指導） またぎこしおり、こうもり倒立おり、さかあがり、膝かけふりあがり、</p> <p>第10回：跳び箱運動（実技と補助指導） 開脚とび、かかえこみとび</p> <p>第11回：跳び箱運動（実技と補助指導） 台上前転、伸膝台上前転</p> <p>第12回：マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動 場を選択して練習会</p> <p>第13回：マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動、基本の運動の実技テスト（追試） 場を選択して発表会</p> <p>第14回：記録映像の鑑賞、課題研究のふりかえりとフィードバック、レポートの作成</p> <p>第15回：レポートの相互評価、体育の学習内容と教材・教具論について</p>			

定期試験は実施しない		
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）		
	PBL（課題解決型学習）	反転授業
○	グループワーク	○ プレゼンテーション
		ディスカッション、ディベート 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておく。（60分程度） ・授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく。（60分程度） ・授業内容の理解を深める「コミュニケーションカード」に取り組む。（60分程度） ・日頃から自らの身体のあり方やその表現様式をできる限り意識しておくこと。体の各部位の柔軟性を高められるよう、ストレッチ等に取り組む。（60分程度） 		
成績評価方法		
コミュニケーションカードの内容30%、発表会の内容40%（基本技を10%として含む）、レポート課題30%		
留意事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出期限は厳守する。期限を過ぎたものは、成績評価の対象として認めない。 ・プリント類は自己責任のもとで管理する。 		
テキスト		
プリントを配布する。		
参考文献・参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 体育編』東洋館出版社（2018） ・三村寛一編『子どもにおける「体づくり運動」の基礎と実践』嵯峨野書院(2022年) ・岡出美則、友添秀則、岩田靖編『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2021年） ・三好真史『運動嫌いの子どもも楽しめる！体力アップに効果絶大！体育あそび101』学陽書房(2019年) ・三好真史『体育が苦手な教師でも必ずうまくいく！マット・鉄棒・跳び箱指導の教科書』学陽書房(2018年) 		

授業科目名： 初等英語科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：Beh Siewkee 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な基礎知識の修得と必要な英語運用力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の音声や文章を通じて、外国の文化・習慣について理解できる。 ・日本の文化・習慣について、小学校英語教育の文脈で簡単な英語で説明できる。 ・小学校の英語授業を担当するのに必要な英語スキルを身につけ、5分程度の英語によるプレゼンテーションを行うことができる。 ・プレゼンテーションの際、英語での説明を論理的に構成し、明瞭に話すことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、小学校英語教育を志す学生を対象に、『Let's Have Fun Teaching English』を用い、英語4技能の向上を目指す。特に「英語でのコミュニケーション力」と「指導スキルの基盤」となる英語力を強化する。</p> <p>話す・聞く：ペアワークやディスカッションを通じて会話力を向上し、スモールトークやプレゼンを実践。</p> <p>読む：読解活動を通じて語彙力を高め、教育現場で役立つ知識を習得。</p> <p>聞く：会話や授業音声を活用し、実践的なリスニング力を強化。</p> <p>書く：作文や発表資料作成を通じて、論理的な英語表現を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業運営方針） 本コースの到達目標、指導方法及び学生に対する評価に関する内容を中心に</p> <p>第2回：English Teaching Methodologies</p> <p>第3回：Teaching Listening</p> <p>第4回：Teaching Speaking</p> <p>第5回：Teaching Reading</p> <p>第6回：Teaching Writing</p> <p>第7回：Activities to Get Children Involved(Game)</p> <p>第8回：Activities to Get Children Involved(Songs)</p> <p>第9回：Activities to Get Children Involved(Quizzes)</p> <p>第10回：Activities to Get Children Involved(Chants)</p> <p>第11回：Story Telling及びプレゼンテーション</p> <p>第12回：Developing Children's Thinking Skills</p>			

第13回 : Teaching Phonics

第14回 : Evaluation

第15回 : 前期の総括・振り返りおよび確認試験（ミニテスト）

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・2単位の修得には、15回の授業時間内での学習に加え、合計60時間の事前、事後学習が必要です。30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習（復習）を目安に学習を取り組んでください。
- ・この授業では以下の学習を行ってください。

<予習>1. 指定した内容の音読をする。 2. 教科書を事前に読み、分からない単語を調べ、文章の意味を考えておく。 3. スモールトークの準備をする。

<復習>1. 本時で学習した音のつながりや語彙を覚える。

成績評価方法

●ミニテスト50% ●プレゼンテーション30% ●授業への参加態度 20%

テキスト

・Let's Have Fun Teaching English—From Theory to Practice（ここからはじめよう児童英語！—理論から実践へ）著者 小原弥生、豊田典子、高橋まり、Steven Rogers

参考文献・参考資料等

- ・文部科学省『学習指導要領解説 外国語活動・外国語』、平成29年7月
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、平成29年6月

授業科目名： 初等国語科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三好真史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】国語科の目標、学習指導、評価のあり方を理解する。 【到達目標】 ・教材に応じた適切な学習指導の展開・方法を考えることができる。 ・自ら作成した学習指導案にもとづいて、実際に授業を展開することができる。			
授業の概要 国語科の目標論、評価論、授業構成論、授業展開や授業評価について学ぶ。指導案の作成、検討及び模擬授業を通して、国語科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的の形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業の進め方、国語科教師の力量形成について 第2回：グループ編成、学習指導要領、国語科教育の評価、学習指導案の作成について 第3回：国語科の教材づくりと教材研究について、グループでの教材研究 第4回：文学作品（物語）の模擬授業：ICTの活用を含む（授業内容の検討および討議） 第5回：文学作品（詩）の模擬授業：ICTの活用を含む（授業内容の検討および討議） 第6回：説明的文章の模擬授業：ICTの活用を含む（授業内容の検討および討議） 第7回：言葉の特徴や使い方の模擬授業：ICTの活用を含む（授業内容の検討および討議） 第8回：授業づくりのポイント、学習指導案の作成、グループでの教材研究 第9回：文学作品（物語）の模擬授業：ICTの活用を含む（修正された授業内容の検討および討議） 第10回：文学作品（詩）の模擬授業：ICTの活用を含む（修正された授業内容の検討および討議） 第11回：説明的文章の模擬授業：ICTの活用を含む（修正された授業内容の検討および討議） 第12回：言葉の特徴や使い方の模擬授業：ICTの活用を含む（修正された授業内容の検討および討議） 第13回：模擬授業のふりかえり、国語科の学習指導論について 第14回：書写の授業づくりについて 第15回：レポートの相互評価、国語科教育の現状と課題、授業のふりかえり 定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	○ プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する

準備学習の内容及びそれに必要な時間**事前学習：**

授業前に、授業資料を読んでおく。(45分程度)

授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく。(45分程度)

事前にテキストを読んでおく。(30分程度)

事後学習：

授業内容の理解を深める「コミュニケーションカード」に取り組む。(60分程度)

前回までの範囲を復習する。(60分程度)

成績評価方法

コミュニケーションカード30%、模擬授業の内容40%(指導案の内容10%を含める)、最終レポート30%

留意事項

- ・レポートの提出期限は厳守する。期限を過ぎたものは、成績評価の対象として認めない。
- ・プリント類は自己責任のもとで管理する。

テキスト

- ・文部科学省『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 国語編』東洋館出版社(2018) ¥262

参考文献・参考資料等

- ・柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法 七訂版』学文社(2023)

授業科目名： 初等社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸本 実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・社会		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】学習指導要領をふまえ、時代が求める小学校社会科の教育課程・教育目標・教科内容・単元・授業設計および学習と評価のデザインについて「責任ある主体性（エージェンシー）」をキーコンセプトとして考え、それをふまえて、小学校社会科の単元を一つ選び、単元案と本時案（学習指導案）・教材開発・対話イメージの作成と模擬授業を実施し、それらについて相互評価・自己評価を行い、プランを改善する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解する。</p> <p>② 学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに社会的見方・考え方を働かせた学習指導について理解する。</p> <p>③ 様々な学習指導理論（責任ある主体性を育てる社会科学学習論を含む）を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>時代が求める小学校社会科の教育課程・単元・授業設計および学習と評価のデザインについて、次の3つの「責任ある主体性（エージェンシー）」をキーコンセプトとして考える。①思考における責任ある主体性、②学習評価における責任ある主体性、③市民的熟議への参加における責任ある主体性。これらをふまえて、授業で指定した小学校社会科の単元リストとから一つの単元を選び、単元案と本時案（学習指導案）・教材開発・対話イメージの作成と模擬授業を行い、それらについて相互評価・自己評価を行い、プランを改善する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における小学校社会科の目標・内容・全体構造と「責任ある主体性」</p> <p>第2回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた社会科の授業設計の重要性：タキノノミーを活用した思考のエージェンシーの発達保障</p> <p>第3回：社会科の学習評価：形成的アセスメントとしてのフィードバックによる学習評価エージェンシーの発達保障</p> <p>第4回：発展的な学習内容の探究と学習指導への位置付け：市民的熟議への参加による市民のエージェンシーの発達保障</p> <p>第5回：社会科の背景となる学問領域における社会的・地理的・歴史的な見方・考え方と教材研究</p> <p>第6回：3年社会の教科内容と実践研究の動向及び学習指導案</p> <p>第7回：4年社会の教科内容と実践研究の動向及び学習指導案</p> <p>第8回：5年社会の教科内容と実践研究の動向及び学習指導案</p> <p>第9回：6年社会の教科内容と実践研究の動向及び学習指導案</p>			

第10回：情報活用能力を育てるICT活用と授業設計

第11回：1時間の授業資料・板書計画と形成的評価を組み込んだ学習指導案の作成

第12回：社会的見方・考え方を働かせエージェンシーを育てる社会科の模擬授業と授業改善の視点

第13回：地理的見方・考え方を働かせエージェンシーを育てる社会科の模擬授業と授業改善の視点

第14回：歴史的見方・考え方を働かせエージェンシーを育てる社会科の模擬授業と授業改善の視点

第15回：授業設計の振り返りと学習指導案の改善及び本授業のまとめ

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

事前にテキスト・資料を読んでおくこと（30分）

中間レポート（教材研究・単元案・本時案・対話イメージ）を作成すること（90分）

Kahootによるウェブ教材の復習（30分）

学生ポータルシステムを利用した毎回の授業の振り返りと相互交流（30分）

作成した中間レポートを教師や仲間からのフィードバックをふまえて改善すること（60分）

成績評価方法

期末レポート40%、中間レポート30%、毎回の授業の振り返りと相互交流30%

テキスト

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説，社会編』日本文教出版

その他、授業で指定した文献、配布資料

参考文献・参考資料等

授業で指定した文献、配布資料

授業科目名： 初等算数科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井浩史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】算数科の目標である「数理的に捉え見通しを持ち筋道を立てて考察する」ことや「性質などを見いだし統合的・発展的に考察する」ことなどの数学に関わる営みを、数学的活動を通して実践していく算数科という教科について、実際に教材研究、学習指導案作成、指導細案作成、教材作成、板書計画作成、模擬授業実施、授業研究の過程を通して、授業を実践する一連の過程を具体的に体験し、理解するとともに、学校現場での実践的意欲を高める。それを踏まえた上で、算数科教育に必要な基礎的な知識を身に付け、児童の思考方法や特徴を知り、教科書教材を読み深めて教材の場面設定や数値の意味と数学的な内容を関連させて理解するなど、実践化に結びつく理論を備えた資質の育成を目指す。</p> <p>【到達目標】算数科における具体的な授業を構成していく基礎的な知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、小学校学習指導要領に示された算数科の目標を踏まえ、身の回りの事象から問題を見出し、その問題を数学的に処理し解決したうえで、さらに日常の事象に返して現実的な課題解決を図るといった数学的サイクルを確立するとともに、筋道を立てて論理的に解決する算数のよさを感じることが出来る算数科指導法を理解することをねらいとする。</p> <p>教科用図書を系統的に分析し、「課題把握、見通し、探究、振り返り」の学習過程において、常態的に協働的な学びを取り入れた授業のあり方を追究することをねらいとする。学習指導案作成を複数パターンで行い、作成意図によって指導方法や身に付ける力も異なることを体験し、教師の算数科に対する教材観や指導観の重要性を理解した実践者となる資質を育む。さらに、算数科の授業で多様な特性を有する児童を生かすための指導の工夫を探る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（各領域の内容の概観）</p> <p>第2回：各学年の系統と深い学び</p> <p>第3回：授業者の主張が見える算数科学習指導案とは</p> <p>第4回：子どもの変容が見える算数科学習指導案とは</p> <p>第5回：授業の流れが見える板書とは</p> <p>第6回：子どもが生きる板書とは</p> <p>第7回：発問をディスコースから考える</p> <p>第8回：子どものための授業中の学習評価とは</p> <p>第9回：模擬授業で実践する単元の教材分析をする</p> <p>第10回：学習指導案を作成する</p> <p>第11回：指導細案、教材、板書計画を作成する（ICTを活用した実践計画）</p>			

第12回：模擬授業（ICTの活用を含む）を実践する 1 低学年の指導
 第13回：模擬授業（ICTの活用を含む）を実践する 2 中学年の指導
 第14回：模擬授業（ICTの活用を含む）を実践する 3 高学年の指導
 第15回：第1～14回のまとめと振り返り
 定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の内容を予告しておくので準備学修をしておくこと（2時間）

資料、ノートを読み返し、復習しておくこと（2時間）

成績評価方法

レポート60%、授業に対する参加度・報告内容など40%で評価

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 文部科学省 日本文教出版 平成29年7月 224円
 +税

参考文献・参考資料等

適宜、資料を配布する。

授業科目名： 初等理科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北林雅洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・理科		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】児童にとってわかりやすくてもおもしろい小学校理科の授業を実施するうえで、重要なポイントとなることは何かを探る。受講生が、理科のおもしろさを再発見し実感するとともに、理科の内容と授業づくりについて理解を深め、実験・観察の効果的な活用法について柔軟に考えられるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 理科を教える目的について、自分の言葉で説得的に説明できるようになる。</p> <p>(2) 児童の自然認識の特徴をふまえて、小学校理科の内容において特に何が重要かを指摘できる。</p> <p>(3) 小学校理科における実験の役割をとらえ、授業における複数のパターンの活用法を構想できる。</p> <p>(4) 学習課題と評価、ノート指導が、理科の授業づくりにおいて果たす役割を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は講義中心に進める。毎回、講義内容のレジュメを配布するので、それを参照しながら理解を深めてもらう。また、実践記録も配布してそれに関するコメントを発表してもらうので、実践記録をじっくり読むとともに、他の受講生のコメントも参考にして、実際の授業の構想力を鍛えてもらう。授業中には演示実験をできるだけ行うが、各受講生が取り組む実験・実習も3種類ほど実施する。情報機器も活用した自分なりのノート作成に取り組んでもらう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：理科の授業における学習課題の役割と作り方</p> <p>第2回：理科の授業づくりに欠かせない評価（模擬授業の実施と改善）</p> <p>第3回：小学校理科のノート指導</p> <p>第4回：実験の意味と理科の授業における役割</p> <p>第5回：小学校理科の物質学習の基本的内容</p> <p>第6回：小学校理科の生物学習の基本的内容</p> <p>第7回：小学校理科の地球学習の基本的内容</p> <p>第8回：小学校理科授業の分析・検討・ICTの活用① 磁石にくっつくもの</p> <p>第9回：小学校理科授業の分析・検討・ICTの活用② 水の沸とう</p> <p>第10回：1時間の理科授業づくり（模擬授業の実施と改善、ICTの活用）</p> <p>第11回：理科の単元指導計画の作成</p> <p>第12回：小学校理科の目標と歴史</p> <p>第13回：理科教育の目的① 人間らしさと科学・技術</p> <p>第14回：理科教育の目的② 経済発展と科学・技術</p> <p>第15回：理科教育の目的③ 環境問題・防災と科学</p>			

定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	グループワーク
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
授業中に次回の内容を予告し、関連資料を指定するので、指定された資料等を読んで、疑問点等を明確にしておく（120分）			
毎回の授業で配布された講義内容のレジュメや実践記録に関する他の受講生のコメントを見直し、授業の内容を自分なりのやり方でノートにまとめる（120分）			
成績評価方法			
レポート試験（80％）、授業の発表内容（20％）			
テキスト			
特になし。			
参考文献・参考資料等			
小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）			
小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月、文部科学省）			
その他、授業中に適宜資料を配布する。			

授業科目名： 初等生活科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中西修一朗 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 生活科の意義を理解するとともに、その実践的力を育む。</p> <p>【到達目標】・学校教育において生活科が有する役割・機能・意義について、基本的概念および実践に即した授業方法を含めて説明できるようになる。 ・生活科の授業および教育課程を設計し、学習指導案に落とし込むことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活科は、スタートカリキュラムの中核をなし、子どもたちの生活経験と学校での学びを接続する重要な科目である。それゆえ教師には、遊びを中心とする経験における子どもたちのさまざまな気づきに対して、敏感に共感することが求められる。本講義では、生活科の役割や意義について歴史を踏まえて理解してもらおう。しかしそのみならず、受講生自身にも、自らの生活を成り立たせている様々な人やものを見つめ直してほしい。そのなかでの自らの身体や感情の動きを繊細にとらえることは、気づきをもたらす授業を設計する基盤となるだろう。最終的には、教員としての実践的力を培うため、自ら授業を計画し、学習指導案に落とし込んでもらおう。さらに模擬授業を行うことで、不足している部分に気づき、授業改善の視座を得られるはずである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活科とは何か 第2回：生活科の目標および全体構造 第3回：生活勉強の歴史 第4回：生活科を探究する①（実践記録の共同検討） 第5回：生活科を探究する②（実践記録の共同検討）（ICTの活用を含む） 第6回：社会生活を探究する① 自分たちの生活を探究しよう（ICTの活用を含む） 第7回：社会生活を探究する② 大学生活をとりまく人々を知ろう（ICTの活用を含む） 第8回：生活の自然を探究する① 周囲の自然の面白さを考えよう（ICTの活用を含む） 第9回：生活の自然を探究する② ものづくりの面白さを考えよう（ICTの活用を含む） 第10回：指導案作成と授業のポイント（評価を含む）（ICTの活用を含む） 第11回：学習指導案の作成と模擬授業①「学校と生活」を中心に 第12回：学習指導案の作成と模擬授業②「家庭と生活」を中心に 第13回：学習指導案の作成と模擬授業③「地域と生活」を中心に 第14回：学習指導案の作成と模擬授業④「自分の成長」を中心に 第15回：生活科において大切なこと 定期試験は実施しない</p>			

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	グループワーク
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
事前学習（予習）として2時間程度、事後学習（復習）として2時間程度を想定している。講義内容に関する質問などは、講義前後に都度受け付ける。			
成績評価方法			
毎回の小課題：45点　最終レポート：55点			
テキスト			
特になし。			
参考文献・参考資料等			
小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）			
小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年6月、文部科学省）			
その他、授業中に適宜資料を紹介、配布する。			

授業科目名： 初等音楽科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菅 道子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教育における音楽科の目的や役割について探求するとともに、小学校教育課程の中で音楽科の位置付けを知り、音楽科教育の授業案を構想・実践していくための力を身に付ける。 ・小学校音楽科の指導ができるよう、必要な音楽の基礎的知識と技能を身に付け、豊かにする。 ・子どもが音楽によってどのように成長していくのか、教師としてどのような支援・指導ができるか講義と演習を通して自分なりの音楽教育観を確立していくことを目指す。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科の目的、内容・方法を学習指導要領の内容もふまえて客観的に理解する。 ・小学校音楽科の指導する上で必要な音楽の基礎的知識や技能、表現力を習得する。 ・小学校音楽科の教科としての授業づくり、他教科や他領域の活動、地域とのつながりを視野にいれた総合的な教育活動の授業づくりを構想できるような実践力を身に付ける。 ・多様な環境に育つ子どもたちへの理解を深め、幼小接続の視点を持ち、マイノリティや障害のある児童等への配慮をもったインクルーシブな音楽教育を構想できるような実践力を身に付ける。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の目的と教育内容・方法については歴史の変遷や音楽教育の原理を含めて学び、基礎的理解を深める。 ・最終的には音楽科の授業を立案・実施・振り返りを通して実践力を身に付ける。具体的には小学校音楽科の教育課程の基準を示した「学習指導要領」の内容について検討し、音楽活動の各領域（表現と鑑賞）間のバランスを考えながら、各学年の発達段階に即した教材を選び、授業構成を検討、授業実践を行う。上記授業は講義とグループ学習による討議も行う。 ・授業初めには、授業実践力の基礎として各自のリズム打ち、ハンドサイン（歌唱指導）等の基礎技能練を行う。 			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション：本授業の目的、計画、評価、課題等について 音楽科教育とは何かについて考える キーワード：音楽、教育、学校、生活、社会、自分の音楽教育観</p> <p>第2回：音楽自分史を通して学校音楽の意義と課題を考える キーワード：音楽自分史、学校、音楽、教育、生活、社会</p> <p>第3回：音楽教育の歴史から初等音楽科の目的を考える キーワード：唱歌、小学校祝日大祭日儀式規程、言文一致唱歌、童謡運動、芸能科音楽</p> <p>第4回：小学校音楽科の成立根拠を教育制度から考える キーワード：教材、教科書、学習指導要領、学校教育法（施行規則）、教育基本法、憲法</p> <p>第5回：音楽科の学習指導要領から目標と内容について学ぶ キーワード：学習指導要領、表現、鑑賞、共通教材、〔共通事項〕、音楽的な見方・考え方</p> <p>第6回：音楽科の学習指導計画と学習指導案について学ぶ キーワード：学習指導計画、学習指導案、教材研究、評価規準、楽曲による題材、ICTの活用</p>			

第7回：音楽科の学習指導計画と学習指導案について学ぶ

キーワード：学習指導計画、学習指導案、教材研究、評価規準、主題による題材

第8回：グループによる学習指導案の作成・模擬授業と振り返り（1）

キーワード：教材研究、学習指導案、歌唱指導、器楽指導、グループディスカッション

第9回：グループによる学習指導案の作成・模擬授業と振り返り（2）

キーワード：教材研究、学習指導案、音楽づくり、鑑賞指導、グループディスカッション

第10回：教科等横断の視点をもった音楽教育実践について学ぶ

キーワード：地域の伝統行事、サウンド・スケープ、環境教育、音楽科授業

第11回：幼小接続ならびに特別支援教育の視点をもった音楽教育実践について学ぶ

キーワード：わらべうた・お手玉遊び、絵本、身体表現、音楽療法的活動、問答型音楽

第12回：グループによる自由な題材設定による模擬授業と振り返り（1）

キーワード：幼小接続、教科等横断

第13回：グループによる自由な題材設定による模擬授業と振り返り（2）

キーワード：ICTの活用、特別支援教育、現代的な諸課題

第14回：学校における音楽教育実践について考える

キーワード：音楽科授業、子ども理解、授業改善、学校教育、音楽文化、カリキュラム編成

第15回：初等音楽科音楽教育の総括

キーワード：初等音楽科教育の成果と課題、展望、音楽科教育観の確立

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・講義内容について資料を読み返し、復習しておく（45分）
- ・授業中に次回の授業内容の課題を予告するので、その準備学習をしておくこと（90分）
- ・音楽基礎技能となるリズムパフォーマンスとハンドサイン等の練習をしておくこと（90分）
- ・授業づくりのための音楽の教材探し音源の吟味などの予習・復習をしておくこと（45分）

成績評価方法

- ・授業時の学習記録や課題提出物（40%）、実技発表（30%）、学期末試験（30%）
- ・授業は講義形態を基本とするが、演習を交えながら行うため、自主的かつグループワーク等での協働的な参加を求めます。

テキスト

- ・吉田武男監修『初等音楽科教育』（Minerva初めて学ぶ教科教育第7巻）2025 ミネルヴァ書房
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版（最新版）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説（音楽編）』東京館出版（最新版）

参考文献・参考資料等

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター篇（2020）『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する資料『小学校音楽』東洋館出版
- ・適宜紹介します。

授業科目名： 初等図画工作科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：芦田風馬 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】図画工作科における学習指導、評価に関する基本的な知識や指導技術の習得 【到達目標】「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる」授業を構築するために必要な教師としての資質や能力を養う			
授業の概要 学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業をする中で、具体的な授業場面を想定した授業設計の力を身に付ける。第1～2回において図画工作科の目標や内容や授業設計の在り方について学び、第3～8回において、題材開発、教材研究、演習等を通し図画工作科の内容・領域の理解を深める。第9～12回において、グループで共通領域の題材を選定し、演習を通しながら各自学習指導案を作成する。第13～15回において、各グループの代表1名が、書き上げた学習指導案をもとに模擬授業を行い、全員で事後研究会をする中で、授業設計の力を身に付けることを目指す。			
授業計画 第1回：図画工作科の目標 第2回：子供の実態を視野に入れた授業設計の在り方について 第3回：A表現ア 造形遊びの目標及び内容について 第4回：A表現ア 造形遊びの題材開発実習 第5回：A表現ア 造形遊びの開発題材発表会（各グループ、パワーポイントで開発題材を発表） 第6回：A表現イ 絵や立体、工作の目標及び内容について（ICT活用題材開発 タブレットを用いて） 第7回：A表現イ ICT活用題材における作品制作（コマドリアニメーション） 第8回：B鑑賞ア 鑑賞の目標及び内容について 第9回：学習指導案に表す①（各グループで題材選定、題材試作） 第10回：学習指導案に表す②（題材設定の理由<児童観・教材観・指導観>について） 第11回：学習指導案に表す③（題材の目標、評価について） 第12回：学習指導案に表す④（指導計画、本時の展開について） 第13回：模擬授業と事後研究会①（授業の準備 板書計画など） 第14回：模擬授業と事後研究会②（グループごとに模擬授業を行う） 第15回：模擬授業と事後研究会③（全体での発表会） 定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	○ プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）	
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間 「造形遊びの研究」、「ICT活用題材の研究」のまとめをパワーポイントで作成し提出すること。（4時間）	
成績評価方法 課題をパワーポイントにまとめ提出（30％）、学習指導案・模擬授業動画の提出（40％）ミニレポートの提出（30％）	
テキスト 小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編	
参考文献・参考資料等 授業内で適宜配布する	

授業科目名： 初等家庭科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸田蘭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・家庭		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校家庭科の特質とその役割を知り、家庭科の学習内容と指導のあり方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>(2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</p> <p>(3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。</p> <p>(4) 当該教科の背景となり学問領域の関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>(5) 子どもの認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。</p> <p>(6) 家庭科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>(7) 学習指導案の校正を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>(8) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導上の諸問題を踏まえ、家族と家庭生活・衣食住の生活・消費生活と環境の内容の指導計画や学習指導案を作成するとともに、授業実践に基づき、基礎的な技能の習得のさえ方や、今日的課題、教材研究や実習題材の扱い方や指導法について指導力を身に付けられるようにする。授業は次のような内容で構成する。教科の歴史的背景・家庭科の意義と役割、学習指導要領の目標と内容、教科書の題材構成、基本的な授業づくり、指導の実際、実習や演習を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得、指導案の作成、模擬授業、具体の評価のあり方などを講義と演習の形態で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：家庭科教育に求められる意義と特性について</p> <p>第2回：学習指導要領の目標と内容 年間指導計画と題材の構成について</p> <p>第3回：家族の一員としての自分をつくる授業づくりについて（家族・家庭生活の内容）</p> <p>第4回：実践的・体験的活動（実習など）に関する授業設計について（衣食住の生活の内容）</p> <p>第5回：持続可能な社会をめざす授業づくり（消費生活と環境）</p> <p>第6回：ICTを活用した授業づくり</p> <p>第7回：社会に開かれた教育課程と家庭科カリキュラム（ICTの活用を含む）</p> <p>第8回：学校の特色を活かした家庭科の学習とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第9回：学習指導計画と評価の方法</p> <p>第10回：学習指導案の作成について</p> <p>第11回：学習指導案の作成</p>			

第12回：授業実践事例から学ぶ

第13回：模擬授業と解説（衣食住の生活）

第14回：模擬授業と解説（家族・家庭生活、消費生活と環境）

第15回：第1～14回の総括・振り返りと小テスト

定期試験は行わない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

事前の説明を受けて小学校学習指導要領解説書〈家庭編〉（平成29年7月告示）の次時の授業に関連する部分を読んでおく（4時間）

成績評価方法

レポート（70%）、学習指導案（20%）、振り返りシート（10%）

テキスト

岸田蘭子『先生も子どもも楽しくなる小学校家庭科』ミネルヴァ書房（2020）2,640円

文部科学省検定教科書『新しい家庭5・6』東京書籍（2024）301円

参考文献・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

文部科学省「小学校学習指導要領解説（家庭編）」（平成29年告示）

授業科目名： 初等体育科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三好真史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 初等体育科にかかわる教師として、体育の授業をどのように授業設定すべきかを考える。			
【到達目標】 初等体育科教育の基礎知識を身に付ける。事故の予防と対策について考え、安全に配慮した体育の授業づくりができるようになる。			
授業の概要			
初等体育科教育における基礎理論、授業づくり、発育発達、指導技術、安全管理について取り上げ、初等体育科教育について体系的に学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、授業の進め方、目標と評価、グループ編成			
第2回：体育科の教育の目標と内容、授業づくりの基礎知識、授業計画の作成について			
第3回：基本の運動、体づくり運動（体ほぐし運動・体力を高める運動）について			
第4回：器械運動（マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動）について			
第5回：陸上運動（幅跳び・高跳び）について			
第6回：ボール運動（ゴール型・ネット型）について			
第7回：表現運動（リズムダンス・創作ダンス）について			
第8回：よい体育の条件について、グループでの教材研究、基本の運動の実技テスト			
第9回：器械運動（マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動）の模擬授業			
第10回：陸上運動（走・跳）の模擬授業			
第11回：ボール運動（ゴール型・ネット型）の模擬授業			
第12回：表現運動（リズムダンス・創作ダンス）の模擬授業、基本の運動の実技テスト（追試）			
第13回：保健の授業づくり（ICT活用を含む）、インクルーシブ体育の授業づくり			
第14回：授業のふりかえり、意見交換、学生によるレポートの執筆、レポートの相互評価			
第15回：体育科教育の現状と課題、講義のまとめ			
定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
・ 授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておく。（60分程度）			

- ・授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく。(60分程度)
- ・授業内容の理解を深める「コミュニケーションカード」に取り組む。(60分程度)
- ・日頃から自らの身体のあり方やその表現様式をできる限り意識しておくこと。体の各部位の柔軟性を高められるよう、ストレッチ等に取り組む。(60分程度)

成績評価方法

コミュニケーションカードの内容30%、実技テスト40%（基本技を10%として含む）、課題30%。

留意事項

- ・レポートの提出期限は厳守する。期限を過ぎたものは、成績評価の対象として認めない。
- ・プリント類は自己責任のもとで管理する。

テキスト

- ・文部科学省『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 体育編』東洋館出版社（2018）¥323

参考文献・参考資料等

- ・岡出美則、友添秀則、岩田靖編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2021）

授業科目名： 初等英語科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：Beh Siewkee 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】			
(1) 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動・外国語、中・高等学校の外国語目標・内容について理解する。			
(2) 主教材の趣旨・構成・特徴について理解する。			
(3) 小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。			
(4) 児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かす。			
(5) コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かす。			
(6) 題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究する。			
(7) 学習到達目標に基づいた指導計画について理解し、学習指導案を立案する。			
【到達目標】			
1. 小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。			
2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。			
3. 実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。			
4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。			
授業の概要			
1. 小学校用の英語指導力を身に付けるための方法・技術の習得と同時に、同じEFL圏の国々の初等英語教育について考察しながら、日本の小学校英語教育にふさわしい教育方法を検討する。			
2. ウォームアップ活動（毎回） いろいろなコミュニケーションの場面に対応できるようになるために、毎回必ず違うパートナーとペアで英語を使ってスマールトークを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 到達目標、指導方法、学生に対する評価に関すること及びphonicsに関する内容を中心に			
第2回：世界の英語 EFL及びESLにおける英語教育及びClassroom Englishに関する内容を中心に			
第3回：東アジアの小学校英語教育について 韓国、中国及び台湾の教育目標、教員、教材及び授業方法などに関する内容を中心に			
第4回：日本の小学校外国語教育について 日本の小学校外国語教育の位置づけ、教育目標及び小・中・高等学校の連携に関する内容を中心に			
第5回：子どもの母語習得及び第二言語習得			

母語習得研究及び第二言語習得研究に関する内容を中心に

第6回：英語の指導法

Task-Based Language Teaching及びTotal Physical Responseの指導法を中心に

第7回：小学校英語の教材・テキストについて

主教材 Let's Try 1 & 2 (3、4年生) 及教科書 (5、6年生) に関する内容を中心に

第8回：授業づくり——活動編Ⅰ「歌・ゲーム」

第9回：模擬授業：3年生

第10回：授業づくり——活動編Ⅱ「クイズ・チャンツ」(ICT活用を含む)

第11回：模擬授業：4年生

第12回：授業づくり——教材づくり編 (ICT活用を含む) 視覚的教材に関する内容を中心に

第13回：模擬授業：高学年

第14回：授業づくり——指導案編 (ICT活用を含む)

学習到達目標に基づいた指導計画や指導案を計画際の注意点に関する内容を中心に

第15回：より良い指導者になるための方法まとめ

全体を振り返って、より良い指導者になる方法に関する内容を中心に

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)

<input type="checkbox"/>	PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法 (いずれかに○)

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

2単位の修得には、15回の授業時間内での学習に加え、合計60時間の事前、事後学習が必要です。この授業では以下の学習を行ってください。

予習：指定された教室英語 (Classroom English) を音読し、覚える。(『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』118ページ～123ページ)

復習：1. 本時の学習内容を振り返り、その内容を再確認する。

2. ミニテスト・スモールトークの準備をする。

成績評価方法

1. ミニテスト 50%
2. 課題・模擬授業 30%
3. 授業への参加態度 (模擬授業時の子ども役としての参加態度も含む) 20%

テキスト

特に定めない。必要な資料を大学のLMSにアップします。

参考文献・参考資料等

- ・『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語』 平成29年7月 文部科学省
 - ・『初等外国語教育』湯川笑子 [編著] (2018) ミネルヴァ書房
 - ・『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』 (2017) 文部科学省
- https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

授業科目名： 観察実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松下晴彦、藤井浩史、 安田誠人、林悠子、芦田風馬、三 好真史、等々力花歩 担当形態：クラス分け・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校もしくは幼稚園の教育現場に赴き、「観察」と「参加」という方法により、子どもの姿をありのままに捉えるとともに、学校園における一日の教育・保育活動の流れや教師の役割について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校・幼稚園の雰囲気を経験し、学校園の学習環境づくりや環境構成について学ぶ。 ② 教育・保育に参加し、小学校・幼稚園における一日の活動の流れを理解する。 ③ 児童・幼児のさまざまな活動を観察し、行動やことばの様子から児童・幼児の思いや発達の状況を理解する力を養う。 ④ 教師の指導・支援・援助・保育の実際を知り、その意図について考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>事前学習において、実習の目的・目標・現場に出る心構え、協力学校園の教育方針や教育計画について学んだ後、実際に小学校・幼稚園に出向く。小学校・幼稚園では、教育・保育に参加しながら、教育・保育の流れ、学習環境づくりや環境構成を理解するとともに、教師の指導・支援・援助・保育の様子や多様な子どものありのままの姿を捉え、教育実践力の基本的な態度や能力を養う。また、記録を通して子ども理解の仕方を深めるとともに、観察した教師の指導・支援・援助・保育の意図を考え、子どもの成長を支える教師の役割を体験的に学ぶことを目的としている。実習終了後は、大学の事後学習にて実習体験の省察を行う。なお、本科目は、全実習の基礎段階として実施される学科必修科目である。また、本授業科目の修得は、「教職体験活動Ⅰ」「教職体験活動Ⅱ」「教職体験活動Ⅲ」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教育実習（幼小）」を履修するための条件となっている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【事前学習】（8時間）</p> <p>事前学習として、次の事項についての指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察実習の目的・目標・現場に出る心構え ・実習生としての遵守事項 ・実習協力学校園の教育理念と取り組みの概要 ・実習計画の立案・観察の視点・実習日誌への記録方法 <p>【小学校・幼稚園における実習参加】3日間（24時間）・8月～9月</p> <p>小学校においては、児童と学習環境についての観察、学校・学級経営等についての観察と支援活動を</p>			

通して、多様な子どもの実態把握と学校実務についての理解を深める。幼稚園においては、指導・保育に参加しながら指導・保育の流れや環境構成を理解し、教師や子どもの姿をよく観察し、保育実践力を身につけるための基本を学ぶ。特に「観察」「参加」を通しての主な活動事項は、次の通りである。

- ・小学校・幼稚園における一日の生活の観察と参加
- ・小学校・幼稚園の教育環境の観察と調査
- ・小学校・幼稚園における一日の流れの把握と教師の指導・支援・援助・保育
- ・教育計画・指導計画の実際の観察
- ・子どもの活動や遊びと教育技術の観察
- ・年齢による発達の違いと個人差の観察と把握
- ・多様な子どもの理解
- ・教師の職務内容の観察と理解
- ・教師の援助とその意図についての理解

※ 実習期間中は実習担当教員が実習巡回を行い、実習先の学校園の教員と連携を取りながら指導を行う。

【事後学習】（8時間）

事後学習として、次の事項についての指導を行う。

- ・観察実習記録をもとに観察実習体験を振り返る。
- ・観察実習体験を報告・共有する。
- ・観察実習体験を今後の学習につなげる視点を得る。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

実習学校園についての事前調査をする（1時間） 実習の手引きの内容を理解しておく（1時間）

事後指導での討論と各自の課題を整理し記録する（8時間）

成績評価方法

実習への取り組み20%、実習日誌50%、その他の提出物（実習終了後のレポートを含む）30%をもとに、総合的に評価する。

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考文献・参考資料等

小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 文部科学省

幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示) 文部科学省

授業科目名： 保育原理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 悠子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 保育所保育の基本を学ぼう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解することができる（知識・理解） 2. 保育に関する法令及び制度を理解することができる（知識・理解） 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解することができる（知識・理解） 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解することができる（知識・理解） 5. 保育の現状と課題について理解することができる（知識・理解） 6. 子どもの保育の展開について具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる（態度・志向性） 			
<p>授業の概要</p> <p>保育所の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会と保育</p> <p>第2回：保育の意義と目的（保育の理念と概念、子どもの最善の利益と保育）</p> <p>第3回：保育の意義と目的（子ども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任）</p> <p>第4回：保育における養護と教育の一体性</p> <p>第5回：保育の思想と歴史的変遷</p> <p>第6回：保育に関する法令・制度②子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけ</p> <p>第7回：保育に関する法令・制度保育の実施体系</p> <p>第8回：保育所保育指針の概要</p> <p>第9回：保育所保育に関する基本原則</p> <p>第10回：保育の内容</p> <p>第11回：保育の環境・方法</p> <p>第12回：子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環</p> <p>第13回：保育の現状と課題（日本の保育の現状と課題）</p> <p>第14回：保育の現状と課題（諸外国の保育の現状）</p> <p>第15回：まとめ：保育所保育の基本を踏まえて保育者になるために必要なこと</p> <p>定期試験</p>			

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく（2時間）			
授業後学習：授業で学んだ内容を振り返りながら課題に取り組む（2時間）			
成績評価方法			
授業内課題・授業後課題50%、期末試験50%			
テキスト			
「保育原理」（第3版）はじめて保育の扉をひらくあなたへ（株）みらい			
参考文献・参考資料等			
適宜配布する。			

授業科目名： 子ども家庭福祉	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：梅谷聡子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 ソーシャルワークの視点で、子ども家庭福祉に関する様々な課題について学びを深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する様々な課題を、環境（人間関係、家庭、地域、文化、法制度等）とのつながりから考察できるようになる。 ・子どもに関わるソーシャルワーク実践のあり方について理解できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>児童・家庭福祉の実践現場では、保育等のケアワークとソーシャルワークが一体となって行われている場合がある。本講義では、ケアワークの現場においても、ソーシャルワークの視点で子どもやその家庭を理解する力を身につけるため、児童福祉の法制度と各分野に関わるソーシャルワーク実践のあり方について学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー授業の進め方について／なぜ児童・家庭福祉を学ぶのか／児童・家庭福祉におけるケアワークとソーシャルワークの関係</p> <p>第2回：子どもの権利を理解するー子ども観の変遷と子どもの権利条約</p> <p>第3回：現代社会と子ども家庭福祉のニーズ</p> <p>第4回：子ども家庭福祉に関する法制度</p> <p>第5回：子ども家庭福祉の行政機構と実施体制</p> <p>第6回：児童虐待の理解と対策</p> <p>第7回：児童虐待に関する事例検討</p> <p>第8回：社会的養護と自立支援</p> <p>第9回：ゲスト講師による講演ー支援の現場から</p> <p>第10回：子育て支援・保育</p> <p>第11回：母子保健による支援</p> <p>第12回：ひとり親家庭福祉サービス・女性支援ージェンダーの視点から</p> <p>第13回：障害のある子どもへの支援</p> <p>第14回：子ども家庭ソーシャルワークの理論と方法</p> <p>第15回：全体のまとめー児童・家庭福祉におけるケアワークとソーシャルワークの専門性</p> <p>定期試験</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
PBL（課題解決型学習）		反転授業	ディスカッション、ディベート

○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から子どもや若者に関する社会問題、ニュースに関心を向けること（90分）。 ・ 配布資料や作成したノートを読み返し、復習すること（60分）。 ・ 関心を持った内容について、授業後に調べ学習を行うこと（90分）。 			
成績評価方法			
定期試験60%、課題レポート20%、毎回のコミュニケーションカード20%			
テキスト			
必要に応じて、資料を配布する。			
参考文献・参考資料等			
伊藤嘉余子、澁谷昌史編『子ども家庭福祉 第2版』ミネルヴァ書房			

授業科目名： 子ども家庭支援論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新川泰弘 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 子ども家庭支援の理論、方法、技術、具体的展開過程、子ども家庭支援事例について学ぶことにより、子ども家庭支援に関する専門的知識を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「知識・技能」</p> <p>(1) 子ども家庭支援の理論について説明できる。</p> <p>(2) 子ども家庭支援の方法と技術について説明できる。</p> <p>(3) 子ども家庭支援の具体的展開について説明できる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 多様な実践事例に対する子ども家庭支援方法を考えることができる。</p> <p>(2) 子ども家庭支援の必要な場面でどの方法と技術を用いるか考え、判断できる。</p> <p>(3) 保育所など児童福祉施設における子ども家庭支援事例を分析し、説明する力が身につく。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 子ども家庭支援の方法、技術、具体的展開に関するDVDを視聴する。</p> <p>(2) 子ども家庭支援に関心を示し、保育所など児童福祉施設を見学する。</p> <p>(3) 保育所など児童福祉施設における子ども家庭支援の理解を深めるため、推薦する関連書籍を読む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子ども家庭支援について事例を通して理解を深めるとともに、子ども家庭支援の理論、方法、技術、具体的展開過程について学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子ども家庭支援とは 授業の進め方、約束事、概要</p> <p>第2回：子どもの育ちと子ども家庭支援・子育て支援の必要性</p> <p>第3回：子ども家庭支援・子育て支援の理念と意義</p> <p>第4回：保育所等のあゆみと子ども家庭支援・子育て支援</p> <p>第5回：少子高齢社会と子育て家庭をめぐる問題</p> <p>第6回：子育て家庭に対する支援の実施体制</p> <p>第7回：次世代育成支援の推進</p> <p>第8回：子ども家庭支援・子育て支援施策</p> <p>第9回：保育所等における子ども家庭支援</p> <p>第10回：保育の専門性を生かした子育て支援</p> <p>第11回：子どもの育ちの喜びの共有</p>			

第12回：多様な家庭の状況に応じた支援

第13回：保育士に求められる基本的態度

第14回：保育士による子ども家庭支援の展開過程

第15回：まとめと課題の整理

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- （1）子ども家庭支援に関連するニュース、雑誌、新聞などを情報収集する（2時間程度）。
- （2）図書館で子ども家庭支援に関する文献や論文を読み、情報収集する（2時間程度）。

成績評価方法

授業内試験およびレポート（80%）、授業の発表内容（20%）

テキスト

才村純・芝野松次郎・新川泰弘編『子ども家庭支援・子育て支援入門』ミネルヴァ書房

参考文献・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

授業科目名： 社会福祉	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：梅木真寿郎 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】社会福祉学の思想的根幹である「人間の尊厳性」(dignity)を起点として、社会福祉が取り扱う射程・対象のあり方について学びます。また、日本ならびに海外の社会福祉の歴史を通じて、福祉的な思想と社会福祉を考える上での論点ならびに理論についても理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】社会福祉とは何か、なぜ必要なのか、どのようにして形成され、現状における課題は何か、などの問いに対して、説明できるようになることとします。また、社会福祉の基礎的概念・理論について理解したうえで、それらが形成されてきた歴史的な背景とその意味について、説明できるようになることとします。</p> <p>以上のことから、利他の精神に裏付けられた社会福祉の営みとそれに資する能力を醸成すると共に、現代的な福祉的課題を的確に捉え、解決策を提起し得る専門的基盤形成をすることが、本科目の到達目標です。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目「社会福祉」は、福祉の分野論(高齢・障害・こども・地域)を理解するうえでの共通基盤である「福祉とは何か」という点について思想やその原理を考える講義です。特に、日々目まぐるしく変化し、かつ複雑化・多様化した現代社会における福祉の課題に対して、試行錯誤のなか展開される福祉政策の在り方を理解することを目的とします。</p> <p>具体的には、①福祉的人間観の起点として「人間の尊厳性」を基軸に置き、社会福祉の形成過程(歴史)や思想的背景(哲学)を理解すること。②代表的な社会福祉理論の基本的な考え方を理解すること。③「社会政策」・「社会保障」・「福祉政策」等の専門用語に親しむとともに、社会福祉の論点など社会福祉学を学ぶ上での基盤を形成すること。</p> <p>以上の3点を軸に講義を展開します。必要に応じて、映像資料などの視聴を通じて、コメントペーパーの提出やグループディスカッションによる意見交換も行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクションー福祉的人間観の起点：「人間の尊厳性」とは何か</p> <p>第2回：社会福祉の原理「社会福祉とは何か」：概念と理念、目的</p> <p>第3回：社会福祉の思想・哲学：自由、平等、博愛そして公正</p> <p>第4回：現代に生じる社会問題：貧困・孤立・差別・社会的排除を中心に</p> <p>第5回：社会福祉の対象と主体：「カリタス、アルムス、アリメンタ」を手がかりに</p> <p>第6回：社会福祉の対象認識と理論：大河内理論、岡村理論、三浦理論etc.</p> <p>第7回：社会福祉の理論史①：戦後日本における本質論争の論点について</p> <p>第8回：社会福祉の理論史②：劣等処遇、平行棒理論、繰り出し梯子理論とは何か</p>			

第9回：社会福祉の歴史① 近代化と福祉：イギリス福祉国家成立の史的展開

第10回：社会福祉の歴史② 戦前日本における社会事業の歴史的展開（明治～大正期）

第11回：社会福祉の歴史③：戦後日本における社会福祉の歴史的展開（GHQの占領下政策を中心に）

第12回：社会福祉の歴史④：日本型福祉社会論と社会福祉基礎構造改革の論点を中心に

第13回：社会福祉の歴史⑤：欧米の社会福祉の歴史的展開：優生思想とノーマライゼーションをめぐって

第14回：社会福祉の歴史⑥：1996年連邦福祉改革におけるワークフェア

第15回：総括：社会福祉の論点と課題

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

事前に次回の該当箇所につき、テキストを読む習慣をつけてください。

学習した内容については、なるべく記憶が新しいうちに復習を行う習慣をつけて講義に臨んでください。

学習時間は、事前学習（120分）・事後復習（120分）を目安に取り組んでください。

成績評価方法

期末試験・筆記試験の得点（85%）、授業への積極的参加（15%）

適宜、コミュニケーションカードを配布し、意見を求める場合があります。

テキスト

室田保夫・倉持史朗・蜂谷俊隆編著『社会福祉(新・基礎からの社会福祉)』ミネルヴァ書房、2018年

参考文献・参考資料等

加藤博史編『福祉とは何だろう』ミネルヴァ書房、2016年

なお、適宜レジュメ等の資料も配布します。

授業科目名： 社会的養護Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木塚勝豊 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】社会的養護システムと今日的な課題について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の理念、歴史、法制度体系について理解を深める。 2. 子ども虐待の定義、実態、対応方法についての基本的理解を深める 3. 社会的養護の実践がどのように実施されているかについての理解を深める。 4. 社会的養護の仕組みを理解し、社会的養護の課題に触れ、その将来像の変化について理解を深める。 5. 社会的養護に関する理解の上で、子ども支援及び保護者支援等の総合的実践力を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>社会的養護の仕組みや考え、歴史的経緯を理解した上で、今日的な課題特に被虐待児への理解を深めて、そこで活躍する保育士、その他専門職の役割、あるべき姿について考えていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・社会的養護とは何かについて学ぶ。</p> <p>第2回：社会的養護の理念と概念～子どもの最善の利益～について学ぶ。</p> <p>第3回：社会的養護の歴史について学ぶ（バーナードホーム、児童の権利に関する宣言、白亜館会議ホスピタリズム論など）</p> <p>第4回：子どもの権利擁護と社会的養護～子どもの権利条約、子どもの権利擁護の取り組み、第三者評価～について学ぶ。</p> <p>第5回：社会的養護の制度と法体系～児童福祉法などの児童福祉関係法～について学ぶ。</p> <p>第6回：社会的養護の仕組みと実施体系～児童福祉の機関、施設～について学ぶ。</p> <p>第7回：家庭的養護と施設養護について学ぶ。</p> <p>第8回：社会的養護の専門職について学ぶ。</p> <p>第9回：施設養護の基本原則～人権の尊重、個別化、親子関係調整、集団力動性の活用、社会参加～について学ぶ。</p> <p>第10回：子ども虐待～子ども虐待の定義と対応の基本～について学ぶ。</p> <p>第11回：子ども虐待と施設内虐待について学ぶ。</p> <p>第12回：子ども虐待防止のための対応～児童虐待の防止等に関する法律、虐待ガイドライン、虐待防止（対応）の手引き～について学ぶ。</p> <p>第13回：施設養護とソーシャルワーク～事例検討～について学ぶ。</p> <p>第14回：社会的養護を担う専門職の倫理～専門職者の資質、倫理綱領～について学ぶ。</p> <p>第15回：社会的養護Ⅰの「全体のまとめ」と「振り返り」を行う。</p>			

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

○	PBL（課題解決型学習）		反転授業	ディスカッション、ディベート
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の授業内容等を予告するので、準備学習をしておくこと（60分）。

次回授業で該当するテキスト、事前配布した資料を熟読しておくこと（60分）

授業で配布したレジュメ、ノートを必要に応じてまとめておくこと（30分）。

テキストを再度読み返すことにより、講義内容を復習しておくこと（30分）。

※準備学習については、事前の課題に対して自分の考えをその根拠とともに考察し、学生同士で意見交換できるように必ず準備をしておくこと。

配布資料を熟読、ノート・レジュメをまとめて講義内容を復習しておく（60分）。

成績評価方法

平常点（受講態度、提出物等を中心に評価する）40%、授業内試験60%

テキスト

小川恭子・坂本健編著『実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ書房 2020年 2,750円

参考文献・参考資料等

必要に応じてプリント、レジュメ等を配布する。

授業科目名： 保育者論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 悠子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 保育者の専門性とは何かを考えよう</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の役割と倫理、制度的な位置付けについて理解することができる（知識・理解） ・ 保育者の専門性について考察し、理解することができる（知識・理解） ・ 保育者の連携・協働について理解することができる（知識・理解） ・ 保育者の資質向上と望ましいキャリア形成について議論を通して理解を深めることができる（態度・志向性） 			
<p>授業の概要</p> <p>保育者の役割と倫理、制度的な位置付けについて学ぶ。また、社会から求められている保育ニーズを知り、保育者としての資質や専門性、連携・協働することの重要性について理解し、保育者として望ましいキャリア形成について学び、保育者になるための自己課題を明確にする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育者の役割と倫理</p> <p>第2回：保育者の制度的位置付け</p> <p>第3回：現在の保育にまつわる問題</p> <p>第4回：保育者の役割を考える：事例研究</p> <p>第5回：専門家として子どもとかわる</p> <p>第6回：保育者の専門性（ゲストスピーカーのお話）</p> <p>第7回：保育のプロセスと質の向上</p> <p>第8回：保育者の連携・協働</p> <p>第9回：保護者・家庭との連携</p> <p>第10回：関連機関や地域との連携</p> <p>第11回：職員間の連携</p> <p>第12回：苦情解決</p> <p>第13回：保育者のライフデザイン</p> <p>第14回：保育者のキャリア形成</p> <p>第15回：保育者にまつわる今日的な課題</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）</p>			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）	
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間 準備学習：テキスト内容の確認と予習（2時間） 授業後学習：内容の復習と授業内容に関する情報収集（2時間）。	
成績評価方法 授業内・授業後課題：50%、期末課題50%	
テキスト 随時指示する	
参考文献・参考資料等 ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（平成30年） ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（平成30年）	

授業科目名： 教職体験活動Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名：松下晴彦、藤井浩史、 岸本実、北林雅洋、菅道子、三好 真史 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】「観察実習」での体験や学内での学修、ボランティア活動等の成果を踏まえ、小学校の教育活動に参加し、児童の学びや活動の実態を観察し理解する力を養うとともに、教職の意義について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校の教育活動に参加し、学習指導や生活指導、教職員の連携について学ぶ。 ② 教育活動に参加し、小学校の状況や一日の流れを理解する。 ③ 児童とさまざまな活動を共にし、行動やことばの様子から児童の思いや発達の状況を理解する力と感覚を養う。 ④ 教師の指導や支援の実際を知り、その意図について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校教育コースの科目として、2年次後期に実施する。本学の近隣に位置する複数の協力校（小学校）を実習校として、特定の曜日（基本的に火曜日を予定）に朝から出向き、登校から5校時までの間、授業や学校・学級経営などの学校実務の補助・支援活動を行う。本実習の際だった特徴は、小学校の特定曜日の教育活動や児童の学びの日常性を体験することにより、学習指導と生活指導を含めた教育実践の実際を包括的に体験し、それらの深い理解につなげることにある。実習校での活動後、大学に戻り、体験活動の振り返りと討議の機会を設け、翌週の活動につなげていく。これらの体験活動と省察を通して、受講生の実践的指導力の基本の育成を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【事前学習（主な指導事項）】（20時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職体験活動の目的、目標、現場に出る心構え ・体験活動参加学生としての遵守事項 ・協力校の概要、教育理念 ・活動計画、観察の視点、参加の視点、体験活動記録への記録方法 <p>【小学校における実習参加（主な活動事項）】12日間（96時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における一日の学校生活の観察と参加 ・小学校の教育環境の観察 ・教育計画・指導計画の実際の観察 ・児童の実態の把握と指導技術の観察 ・学年による発達の違いと個人差の観察と把握 			

- ・多様な児童の理解
- ・教師の職務内容の観察と理解
- ・教師の連携・協働の観察と理解

実習期間中は実習担当教員が適宜実習巡回を行い、実習先の学校の教員と連携を取りながら指導を行う。

【実習事後学習（主な事項）】（10時間）

- ・体験活動の振り返り
- ・体験活動の報告・共有
- ・体験活動を今後の学習につなげる視点を得る。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

実習校についての事前調査をする（1時間）

実習の手引きの内容を把握する（1時間）

体験期間中は、次週への課題を明らかにし、準備しておく（1時間）

事後指導での討論と各自の課題を整理し記録する（15時間）

成績評価方法

体験活動への取り組み20%、体験活動記録50%、その他の提出物（体験活動終了後のレポートを含む）30%をもとに、総合的に評価する。

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考文献・参考資料等

小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省

授業科目名： 教職体験活動Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松下晴彦 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校の教育活動に参加し、体験活動のなかで児童の実態を観察し理解する力を養い、教職の意義について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校の教育活動に参加し、学習指導や生活指導、教職員の連携について学ぶ。 ② 教育活動に参加し、小学校の状況や一日の流れを理解する。 ③ 児童とさまざまな活動を共にし、行動やことばの様子から児童の思いや発達の状況を理解する力と感覚を養う。 ④ 教師の支援の実際を知り、その意図について理解することができる。 ⑤ 教育実習に向けて、教育活動の実践意欲を高める。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校教育コースの科目として、3年次後期に実施する。実習校は、本学の近隣に位置する小学校、もしくは4年次に実施予定の教育実習校とする。「観察実習」や「教職体験活動Ⅰ」の実践現場での経験と学内で学んだ教職に関する専門的知識と技術を基盤に、授業や学校・学級経営と学校実務の補助・支援活動を継続しながら、実践的指導力の研鑽につとめる。また活動記録の作成と省察を通して、多様な子どもを観察する力を身につけ、学校・学級経営の課題について理解を含め、さらには各履修生の児童観や指導観の形成と各自のめざす教員像の確立につなげる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【事前学習（主な指導事項）】（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職体験活動の目的、目標、現場に出る心構え ・ 体験活動参加学生としての遵守事項 ・ 協力校の概要、教育理念 ・ 活動計画、観察の視点、参加の視点、体験活動記録への記録方法 <p>【小学校における実習参加（主な活動事項）】（40時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校における一日の学校生活の観察と参加 ・ 小学校の教育環境の観察 ・ 教育計画・指導計画の実際の観察と補助 ・ 児童の実態の把握と指導技術の観察 ・ 学年による発達の違いと個人差の観察と把握 ・ 多様な児童の理解 ・ 教師の職務内容の観察と理解 ・ 教師の連携・協働の観察と理解 			

実習期間中は実習担当教員が適宜実習巡回を行い、実習先の学校の教員と連携を取りながら指導を行う。

【実習事後学習（主な事項）】（2時間）

- ・体験活動の振り返り
- ・体験活動の報告・共有
- ・体験活動を今後の学習につなげる視点を得る。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

授業時間内に講評・解説する	○ メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---------------	---------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

実習校についての事前調査をする（3時間）

実習の手引きの内容を理解しておく（1時間）

事後指導での討論と各自の課題を整理し記録する（3時間）

体験活動の記録と課題の整理（10時間）

成績評価方法

体験活動への取り組み20%、体験活動記録50%、その他の提出物（体験活動終了後のレポートを含む）30%をもとに、総合的に評価する。

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考文献・参考資料等

小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省

授業科目名： 教職体験活動Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：松下晴彦 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 小学校の教育活動に参加し、教職についての理解を深め、教育実践への意欲を喚起する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校の教育活動に参加し、学習指導や生活指導、教職員の連携について学ぶ。 ② 教育活動に参加し、小学校の状況や一日の流れを理解する。 ③ 児童とさまざまな活動を共にし、行動やことばの様子から児童の思いや発達の状況を理解する。 ④ 教師の支援の実際を知り、その意図について理解することができる。 ⑤ 多様な学校現場の実態を知り、教師としての視野を広げる。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校教育コースの科目として、4年次後期に実施する。実習校は、本学の近隣に位置する小学校をはじめ、4年次に実施の教育実習校や、履修生の卒業後の進路等を見据えた上で調整し決定する。本実習科目は、それまでの学内での専門的知識と技術に関する学びと学外実習の経験を踏まえ、学校教育現場の実際をさらに深く理解するとともに、自身の教師としての資質能力の強みと消極面を認識し、自らの学びの方向性と課題を明確にすることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【事前学習（主な指導事項）】（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職体験活動の目的、目標、現場に出る心構え ・体験活動参加学生としての遵守事項 ・協力校の概要、教育理念 ・活動計画、観察の視点、参加の視点、体験活動記録への記録方法 <p>【小学校における実習参加（主な活動事項）】（40時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における一日の学校生活の観察と参加 ・小学校の教育環境の観察 ・教育計画・指導計画の実際の観察と補助 ・児童の実態の把握と指導技術の観察 ・学年による発達の違いと個人差の観察と把握 ・多様な児童の理解 ・教師の職務内容の観察と理解 ・教師の連携・協働の観察と理解 <p>実習期間中は実習担当教員が適宜実習巡回を行い、実習先の学校の教員と連携を取りながら指導を行う。</p>			

【実習事後学習（主な事項）】（2時間）

- ・ 体験活動の振り返り
- ・ 体験活動の報告・共有
- ・ 体験活動を今後の学習につなげる視点を得る。

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

授業時間内に講評・解説する	○ メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---------------	---------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

実習校についての事前調査をする（3時間）

実習の手引きを理解しておく（1時間）

事後指導での討論と各自の課題を整理し記録する（3時間）

体験活動の記録と課題の整理（10時間）

成績評価方法

体験活動への取り組み20%、体験活動記録50%、その他の提出物（体験活動終了後のレポートを含む）30%をもとに、総合的に評価する。

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考文献・参考資料等

小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省

授業科目名： 国のしくみ（日本国憲法）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2位	担当教員名：磯田文雄 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】日本国憲法は、日本の統治機能の中核に位置する最高法規であるとともに日本の未来を指し示す憲章でもある。日本という国とその市民社会は日本国憲法を中心に据えて運営されるわけであるが、その基本的な性格及び機能について学ぶことが本授業のテーマである。</p> <p>【到達目標】到達目標は15回の授業を終えるころに、日本や世界の風景が変わって見えるようになることである。無味乾燥で平べったく見えていた政治や行政の世界が、立体的に見えそれが動いているのが把握できるようになることである。そして、日本国憲法の精神に基づいて、「分かち合う共同体」の一員として地域と世界で活動していく力を身につけていくことである。競争だけの未来は、格差の拡大と地球環境の破壊をもたらす。日本国憲法の精神が謳うように一人ひとりの人権を大切にし、幸せも苦しみも分かち合う社会を構築していくことが必要である。そのための何らかのヒントを学べたのであれば、本授業の目標を到達したと言える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の三原則は、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重である。</p> <p>国民主権を理解するには、法の支配、民主主義、国民国家、大日本国憲法と日本国憲法の違い、国民主権の内実を考察しなければならない。同時に、三権分立とその実態、大統領制と議院内閣制、国会の仕組みと政党の機能、官邸と各省庁の関係、裁判所の機能とその限界、地方自治と地方公共団体など統治機構の基本を学ぶ必要がある。平和主義については、憲法9条の世界史的意義を理解するとともに、グローバル経済の支配が進展し、「国民国家の黄昏」という現象が進む中、国際平和と人類の福祉を探究する方途を探究することが求められる。基本的人権については、人間の尊厳、人権の限界、法の下での平等、思想及び良心の自由、政教分離、表現の自由、生存権、社会権、教育を受ける権利、労働基本権の理念とその実際について学ぶ。特に、大衆民主主義社会において平等が強く志向される中、人間の自由の尊重をどう担保するか考える。こうした議論を通して憲法に関わる自分自身の見方・考え方を育てるとともに、「分かち合う共同体」の一員として参画する力を身につけてもらいたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法とは</p> <p>第2回：立憲主義とは 国民国家</p> <p>第3回：大日本国憲法</p> <p>第4回：大日本国憲法から日本国憲法へ</p> <p>第5回：日本国憲法の制定</p> <p>第6回：今こそ平和主義を礎に</p> <p>第7回：憲法の改正</p>			

第8回：国民主権 民主制への懐疑論

第9回：政権交代、政党、国民代表制

第10回：三権分立

第11回：議院内閣制と大統領制

第12回：首相の権限の強化

第13回：司法権の意味と範囲

第14回：基本的人権、人間の尊厳

第15回：法の下での平等

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
-----------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

予習：テキスト及び配布したプリントを読み、準備学習をしておくこと（30分）。

復習：毎回の授業終了後、講義を振り返り、講義内容を自分でまとめるとともに、自分の感想又は意見を書いてみる（60分）。

その他：図書館等で関係図書にも目を通し、日本国憲法についての理解を深める（学期中30時間）。

学期の終わりに向けて、講義内容を復習・総括し、自分が学んだこと及び自分の考えをまとめる（学期中15時間）。

成績評価方法

定期試験60%、レポート40%。

留意事項：①講義には必ず出席する。遅刻や途中退出も授業の進行を妨げるので認めない。②実習等のやむを得ない理由で欠席する予定がわかっている場合は、事前に担当者に報告して了解を得る。③プリント類は自己責任で保管する。実習等で休んだ場合は自分で借りてコピーする。④授業中に飲食することやスマホ等を操作することは認めない。⑤登録した受講者以外の受講は認めない。特に必要な場合は、事前に担当者の許可を得ること。

テキスト

必要に応じ配付する。

参考文献・参考資料等

山元一『グローバル化時代の日本国憲法』2019年、2970円

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法第7版』岩波書店、2019年、3520円

佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』ちくまプリマー新書、2007年、780円

磯田文雄『教育行政一分かち合う共同体をめざしてー』ミネルヴァ書房、2014年、3500円

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本清文 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 スポーツの歴史や社会とのさまざまな係わりに理解を深める。</p> <p>【到達目標】 本講義ではスポーツ社会学に理解を深め、スポーツの歴史や社会とのさまざまな係わりに理解を深め、スポーツが社会にどのような影響を与え、どのような役割を担っているのか、これらスポーツにおける問題や課題を理解する事ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会におけるスポーツの役割は多様である。我々の生活の中でもスポーツに関わることが多い。スポーツを「する」のみでなく「観る」こともある。スポーツの観戦は勿論、テレビの番組やニュースなどで観ることは日常である。また、「支える」スポーツとしても、企画や経営からボランティアの立場まである。近年、インターネットの普及により「情報」としてのスポーツは常に速報で入手可能になった。本講義では、運動・スポーツが政治、経済、社会、文化、日常生活と強い係わりを持ち、どのような役割を担っているのか理解することを目的とする。</p> <p>講義中の課題解決にともないグループディスカッションやグループワークを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションおよびスポーツ社会学とは</p> <p>第2回：古代のスポーツ</p> <p>第3回：中世のスポーツ</p> <p>第4回：近代のスポーツ</p> <p>第5回：現代社会におけるスポーツの意義（グループ・ディスカッション含む）</p> <p>第6回：近代オリンピック</p> <p>第7回：パラリンピック</p> <p>第8回：スポーツとハラスメント</p> <p>第9回：スポーツとメディア</p> <p>第10回：スポーツとフィットネス産業</p> <p>第11回：日本の大学スポーツ</p> <p>第12回：アメリカ大学のスポーツ</p> <p>第13回：プロスポーツとマーケット</p> <p>第14回：スポーツツーリズム</p> <p>第15回：後半の総括及びテスト</p> <p>定期試験は実施しない</p>			

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)				
	PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/>	反転授業	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	グループワーク		プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法 (いずれかに○)				
<input type="radio"/>	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間				
<p>事前に資料を配布するので内容を読み確認すること (60分)。</p> <p>資料内容をとともに自己の視点で調べておくこと (60分)。</p> <p>資料を読み直すとともに講義内容を復習する (60分)。</p> <p>講義内容で興味のある所などさらに自分でも調べる (60分)。</p>				
成績評価方法				
<p>テスト100%</p> <p>評価基準：具体的内容を踏まえ理解をしている。</p> <p>留意事項：実習等でやむを得ない理由で欠席する場合は、講義内容の確認を行なうこと。</p> <p>配布プリントに関しては自己責任で保管する。紛失および欠席した場合は、自分で借りてコピーすること。</p>				
テキスト				
<p>プリントを配布する。</p>				
参考文献・参考資料等				
<p>適時指示する。</p>				

授業科目名： 健康学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森山真衣 担当形態：単独	
科 目	教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 この授業では、私たちが健康を維持する上で欠かすことのできない運動を主なテーマとして扱う。</p> <p>【到達目標】 授業を通して、自身の健康維持への意識を高め、健康的な生活習慣を身につけることを目標とする。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、健康を維持するための基盤となる「運動」に主に焦点を当て、運動の重要性とその効果を中心に学習する。理論と実践を通じて、健康維持や生活習慣病の予防、運動習慣の形成を目指す。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：運動生理学の基礎 第3回：運動と筋・骨格系 第4回：運動と脳・神経系 第5回：有酸素運動の効果 第6回：筋力トレーニングの重要性 第7回：トレーニング方法 第8回：運動と栄養 第9回：運動とメンタルヘルス 第10回：運動と老化 第11回：運動と生活習慣病の予防 第12回：年代別の運動 第13回：運動と睡眠 第14回：運動習慣を継続するためには 第15回：授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>				
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）				
	PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	反転授業	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	グループワーク		プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）				
<input type="radio"/>	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間				

次回授業までに疑問点などを自分なりに調べる（120分）。

授業内容を復習する（120分）。

授業中に出た疑問点は出席カードの自由記述欄に自分の意見とともに記載する。

成績評価方法

期末テスト（80%）、毎回の授業のコメント（20%）とする。

テキスト

適宜指示する

参考文献・参考資料等

特になし

授業科目名： 運動科学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森山真衣 担当形態：単独	
科 目	教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 この授業では、私たちの日々の生活を支える「運動」をテーマとして扱う。</p> <p>【到達目標】 到達目標としては、授業を通して①自分の体が動く仕組みを理解し、②日常生活の中で自分の身体や運動に注意を向け、③素朴な疑問を抱き、解決しようとする姿勢を学ぶことを目標とする。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>私たちは、身体を動かす、つまり「運動する」ことによって、外の世界と関わることができる。このように「運動」とは、スポーツ動作のように強度の高いものに限らず、日々の生活の中で欠かすことのできない非常に身近なものである。この講義では、ヒトの運動のしくみについて理解することで、運動を通して自分や他者への理解を深めることを目標とする。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：運動を生み出す骨格筋の役割</p> <p>第3回：運動の計画と実行</p> <p>第4回：環境に合わせて運動が行われる仕組み</p> <p>第5回：運動の知覚① 視覚</p> <p>第6回：運動の知覚② 体性感覚</p> <p>第7回：全身運動の制御</p> <p>第8回：全身運動の学習</p> <p>第9回：意識的な学習と無意識的な運動の学習</p> <p>第10回：運動の学習の種類 報酬と罰</p> <p>第11回：身体運動は脳でどのように表現されるのか</p> <p>第12回：効果的な運動の練習方法</p> <p>第13回：運動のバイオメカニクス</p> <p>第14回：運動科学の最先端</p> <p>第15回：授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>				
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）				
	PBL（課題解決型学習）	○	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）				
○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	

準備学習の内容及びそれに必要な時間

次回授業までに疑問点などを自分なりに調べる（120分）。

授業内容を復習する（120分）。

成績評価方法

期末試験（80%）と毎回の授業のコメント（20%）とする。

テキスト

適宜指示する

参考文献・参考資料等

適宜指示する

授業科目名： 体育実技X	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三好真史 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】本講義では、体づくり運動および器械運動を中心として、生涯スポーツに必要な運動ができるようになることをねらいとする。運動遊びや器械運動に対する理解を深め、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。また、自己や他者の体の様子に気付き、自己が体験したことがない運動ができるようになる。</p> <p>【到達目標】他者と協同しながら様々な運動に取り組み、器械運動の技の組み合わせや動きを工夫し、発表会で発表することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年においては、運動習慣の低下が社会問題になっており、運動の果たす役割が重要視されている。運動好きな子どもを育てるためには、授業の中で運動に興味を持たせ、できる喜びを感じさせる必要があり、教師の資質が問われることになる。本講義では、幼児期の発育や発達を理解しながら、安全に楽しく運動に親しませることができるよう、様々な運動を体験し、理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方について）子どもの生理学的特徴と現代的課題について</p> <p>第2回：基本の運動・体づくり運動（ペアやグループで行うアクティビティ）</p> <p>第3回：基本の運動・体づくり運動（場や器具を用いるアクティビティ）</p> <p>第4回：基本の運動・体づくり運動（ボールを使ったアクティビティ）</p> <p>第5回：マット運動（実技と補助指導）前転、開脚前転、後転、伸膝後転</p> <p>第6回：マット運動（実技と補助指導）壁倒立、倒立ブリッジ、側方倒立回転、ロンダート</p> <p>第7回：鉄棒運動（実技と補助指導）ふりおり、片足ふみこしおり、前回りおり、足抜き回り、かかえこみ前回り</p> <p>第8回：鉄棒運動（実技と補助指導）またぎこしおり、こうもり倒立おり、さかあがり、膝かけふりあがり</p> <p>第9回：跳び箱運動（実技と補助指導）開脚とび、かかえこみとび</p> <p>第10回：跳び箱運動（実技と補助指導）台上前転、伸膝台上前転</p> <p>第11回：マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動 場を選択して練習会</p> <p>第12回：マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動 場を選択して発表会</p> <p>第13回：基本の運動の実技テスト・体づくり運動（オニあそびのアクティビティ）</p> <p>第14回：記録映像の鑑賞、課題研究のふりかえりとフィードバック、レポートの作成</p> <p>第15回：レポートの相互評価、子どもの運動学的特徴と現代課題について</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			

	PBL (課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
フィードバックの方法 (いずれかに○)					
<input type="radio"/>	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する		
準備学習の内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておく。(30分程度) ・授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく。(30分程度) ・授業内容の理解を深める「コミュニケーションカード」に取り組む。(30分程度) ・日頃から自らの身体のあり方やその表現様式をできる限り意識しておくこと。体の各部位の柔軟性を高められるよう、ストレッチ等に取り組む。(30分程度) 					
成績評価方法					
コミュニケーションカードの内容30%、発表会の内容40% (基本技を10%として含む)、レポート課題30%					
留意事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出期限は厳守する。期限を過ぎたものは、成績評価の対象として認めない。 ・プリント類は自己責任のもとで管理する。 					
テキスト					
プリントを配布する。					
参考文献・参考資料等					
<ul style="list-style-type: none"> ・三村寛一 編『子どもにおける「体づくり運動」の基礎と実践』嵯峨野書院(2022) ・三好真史『体育が苦手な教師でも必ずうまくいく！マット・鉄棒・跳び箱指導の教科書』学陽書房(2018) ・三好真史『運動嫌いの子どもも楽しめる！体力アップに効果絶大！体育あそび101』学陽書房(2019) ・三好真史『写真と動画で丸わかり！跳び箱指導のすべて』東洋館出版(2022) 					

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：有吉淳一郎、菰田 真由美、Marie-Claude TORIDA、 吉江孝美
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】既習内容の整理、異文化理解の促進、総合的英語力の向上			
【到達目標】英語学習を通して、英米を始めとする諸外国の異文化理解を深めるとともに、英語運用能力を確実に身につける。			
授業の概要			
英語は世界の共通語であり、みなさんの世界を広げてくれます。この授業では、英文エッセイを読み進めていくことで日本文化と諸外国の文化の違いについて理解を深め、そしてコミュニケーションに必要となる総合的な英語運用能力の向上を目指します。トピックは、学校生活、ライフスタイル、風習など、大変身近な興味深い内容となっています。語彙、表現、作文、リスニングなどの演習を通じ、高校までの既習内容の確認も適宜行います。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
Unit 1 College Sports: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 2 回：Unit 1 College Sports: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第 3 回：Unit 2 Homework: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 4 回：Unit 2 Homework: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第 5 回：Unit 3 Tidying Up: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 6 回：Unit 3 Tidying Up: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第 7 回：Unit 4 School Schedules: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 8 回：Unit 4 School Schedules: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第 9 回：Unit 5 Baths: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 10 回：Unit 5 Baths: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第 11 回：Unit 6 Mamachari: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第 12 回：Unit 6 Mamachari: 2 Conversation からユニットの最後まで			
(読解・語彙・文法・作文・リスニング)			

第13回：Unit 7 Vegetarian Diet: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)

第14回：今学期の振り返りおよび確認試験

第15回：確認試験のフィードバックと解説、および主要文法事項のポイント復習

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法 (いずれかに○)

○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
-----------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキストの単語の意味調べなど (30分)。

単語、表現、英文の内容、文法事項などの振り返り (30分)。

成績評価方法

平常点 (授業への取り組みや予習の状況、テキスト持参など) 50%+テスト50%

留意事項: 単位取得には3分の2以上の出席が必須。出席について不正があった場合には、理由にかかわらず単位は認められません。その他留意事項は初回に述べます。

テキスト

『Enjoying Different Cultures グローバル化の中で学ぶ日本文化』Arnold Arao他 (南雲堂)、2021年、2000円

参考文献・参考資料等

なし

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：有吉淳一郎、菰田 真由美、Marie-Claude TORIDA、 吉江孝美
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】既習内容の整理、異文化理解の促進、総合的英語力の向上			
【到達目標】英語学習を通して、英米を始めとする諸外国の異文化理解を深めるとともに、英語運用能力を確実に身につける。			
授業の概要			
英語は世界の共通語であり、みなさんの世界を広げてくれます。この授業では、英文エッセイを読み進めていくことで日本文化と諸外国の文化の違いについて理解を深め、そしてコミュニケーションに必要となる総合的な英語運用能力の向上を目指します。トピックは、学校生活、ライフスタイル、風習など、大変身近な興味深い内容となっています。語彙、表現、作文、リスニングなどの演習を通じ、高校までの既習内容の確認も適宜行います。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション Unit 8 Paid Days Off: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第2回：Unit 8 Paid Days Off: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第3回：Unit 9 Greetings: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第4回：Unit 9 Greetings: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第5回：Unit 10 Napping in Public: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第6回：Unit 10 Napping in Public: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第7回：Unit 11 Parenting Styles: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第8回：Unit 11 Parenting Styles: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第9回：Unit 12 Gender Segregation: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第10回：Unit 12 Gender Segregation: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			
第11回：Unit 13 Japanese Hospitality: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)			
第12回：Unit 13 Japanese Hospitality: 2 Conversationからユニットの最後まで (読解・語彙・文法・作文・リスニング)			

第13回：Unit 14 Tax: 1 Reading (読解・語彙・文法・リスニング)

第14回：今学期の振り返りおよび確認試験

第15回：確認試験のフィードバックと解説、および主要文法事項のポイント復習

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法 (いずれかに○)

<input type="radio"/> 授業時間内に講評・解説する	<input type="radio"/> メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
-------------------------------------	---

準備学習の内容及びそれに必要な時間

テキストの単語の意味調べなど (30分)。

単語、表現、英文の内容、文法事項などの振り返り (30分)。

成績評価方法

平常点 (授業への取り組みや予習の状況、テキスト持参など) 50%+テスト50%

・留意事項：単位取得には3分の2以上の出席が必須。出席について不正があった場合には、理由にかかわらず単位は認められません。その他留意事項は初回に述べます。

テキスト

『Enjoying Different Cultures グローバル化の中で学ぶ日本文化』Arnold Arao他 (南雲堂)、2021年、2000円

参考文献・参考資料等

なし

授業科目名： 学校教育における情報基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久富 望 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 <p>【授業のテーマ】情報活用能力は、教科の枠を超えた学習の基盤にあるものとして位置付けられている。本授業では、この情報活用能力を中心に、デジタル機器を用いた授業を、網羅的に体験する。その体験を通じ、デジタル機器を用いれば、教師にはどのような授業のやり方ができるようになり、児童・生徒たちはどのような学習のやり方が可能になるか、さらには学校がどのように変わっていく可能性があるかについて、体験しながら考える機会を提供する。そのうえで、情報活用能力の全体像を再度捉え、全体を振り返る。以上の活動を通じ、学校教育における情報システムについての基礎的な知識・体験を提供し、受講者の考えの基盤を作ることが本授業のテーマである。</p> <p>【到達目標】学校教育におけるICTを活用した授業デザイン・教材などに触れながら、学校教育における情報システムのあり方について、有用性や問題点について自らの考えをもち、議論を行えるようになることを目指す。</p>			
授業の概要 本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触りながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。また、途中からは簡単なプレゼンテーションを受講生が行う場合もある。以上のような、一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業を毎回行うことにより、本授業を受講すること自体が、学校教育におけるデジタル機器の利活用を模擬的に体験する機会となることを狙っている。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 機械操作の苦手な人も想定しながら、学校教育における情報端末の状況について取り上げる 第2回：情報活用能力の全体像と位置付け 学習指導要領における情報活用能力の位置付けについて、歴史も踏まえ、取り上げる 第3回：一斉指導において児童・生徒側に求められる「情報活用能力」 一斉指導において児童・生徒側に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる 第4回：一斉指導において指導側に求められる「情報活用能力」 一斉指導を行う際に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる 第5回：個に応じた指導において児童・生徒側に求められる「情報活用能力」 個に応じた指導において児童・生徒側に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる 第6回：個に応じた指導において指導側に求められる「情報活用能力」 個に応じた指導を行う際に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる。			

第7回：協働的な学びにおいて児童・生徒側に求められる「情報活用能力」

協働的な学びにおいて児童・生徒側に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる

第8回：協働的な学びにおいて指導側に求められる「情報活用能力」

協働的な学びにおいて指導側に求められる情報活用能力を実践的に取り上げる

第9回：探究的な学びにおいて求められる「情報活用能力」

探究的な学びにおいて見られる情報活用能力を実践的に取り上げる

第10回：その他の「情報活用能力」(1)

ここまでで取り上げられていない科目の学習内容に見られる情報活用能力を取り上げる。

第11回：その他の「情報活用能力」(2)

授業外の学校活動に見られる情報活用能力を実践的に取り上げる。

第12回：情報活用能力の体系的な把握(1)

情報活用能力のうち、主に「知識及び技能」について取り上げる。

第13回：情報活用能力の体系的な把握(2)

情報活用能力のうち「知識及び技能」以外の点について取り上げる。

第14回：プログラミング体験

学校教育におけるプログラミング教育について概観し、実際にプログラムに触れる。

第15回：クロージング

ICTを活用してこれまでの提出物を整理し、これまでの議論を振り返り、最終課題に取り組む

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

各授業において、文献・資料を事前に読む、授業内容の整理に各1時間程度、授業案の作成や考案に2時間程度が必要である。ただし、一部の授業ではプログラミングの試行錯誤と考察に代替される。

成績評価方法

第14回まで毎回の授業内に課す課題（60％）と、最終課題（40％）により評価する。

テキスト

特になし。授業資料は毎授業において配布する。

参考文献・参考資料等

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター、西岡加名恵「世界と日本の事例で考える学校教育×ICT」明治図書、2023

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下晴彦 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】第1に、教育についての基本的な概念について理解するとともに、教育を成り立たせている諸要因とそれらの相互関係について理解する。第2に、教育の歴史と歴史において出現した多様な教育理念についての基礎的な知識を身につけ、人類が辿ったさまざまな教育のあり方や学校の変遷について理解する。第3に、教育に関するさまざまな思想や、それらが具現化する多様な教育理念、教育制度、学校のあり方について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>教育概念について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育学の諸概念、教育の本質、教育の目標について理解している 2 子ども・教師・家庭（家族）・学校・社会など、教育を成り立たせている要素とそれらの相互関係について理解している。 <p>教育の歴史について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族や社会など社会史の観点から教育の歴史を理解している。 2 近代教育制度の成立と展開について理解している。 3 現代社会における教育課題を歴史的な観点から理解している。 <p>教育思想について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族や子どもをめぐる教育思想を理解している。 2 学校や学びをめぐる教育思想を理解している。 3 影響力のあった教育思想家について知見を得ている。 			
<p>授業の概要</p> <p>専門職としての教育職に就くにあたっては、教育と教育に関連する諸概念と理念についての知見と深い理解を有することが基本的な要件である。この講義では、この要件を満たすために、人類が歩んできた教育の歴史や思想を学びながら、教育の意義や教育を成り立たせるものについての知見を得るとともに、さらに、教育問題を解明し解決へと展開するための洞察力を養うことを目的とする。より具体的には、人類の歴史において、意図的な教育がどのように意識され実践されてきたか、また現代社会に特有な教育に対する見方や考え方がどのように出現し、人々に共有されるようになったかについて概説する。次に、教育思想や教育哲学の潮流を概観し、特に現代教育に対し大きな影響のあった教育思想・哲学を重点的に考察していく。最後に、近代の国民国家の形成、近代教育制度の成立、子どもと家族、社会、国家の関係性、個人と国家、21世紀の人材育成等、社会問題・教育課題について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 教育とは何か</p>			

第2回：教育の原初形態（産育習俗とその歴史）

第3回：古代ギリシアの教育文化：ソクラテス・プラトン・アリストテレス

第4回：古代ローマの教育・中世キリスト教世界と教育思想

第5回：教育的世界の誕生：コメニウスの教育思想

第6回：教育する家族の誕生

第7回：西洋近代の教育思想・子ども観：ロック・ルソー・カント

第8回：近代教育（普通教育）の誕生：ペスタロッチの教育思想

第9回：西洋近代の教育思想・子ども観：フレーベル・ヘルバルト

第10回：19世紀から20世紀の教育思想：新教育運動

第11回：デューイとイリイチの思想：コモンズの回復

第12回：社会的探究の教育学：デューイの教育理論・幼児教育論

第13回：日本の教育の展開：近世から明治期

第14回：日本の教育運動史・幼児教育運動史

第15回：日本の教育：戦後から現代までの展開・総括

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

○	PBL（課題解決型学習）		反転授業		ディスカッション、ディベート
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	○	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	---	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

講義資料の内容をよく理解し、資料に示されている課題に取り組む。（1時間）

授業内容について復習し、各自の興味と関心のもとに探究を深める。（1時間）

授業中に提示された課題について考察し、自分の文章でまとめておく。（2時間）

成績評価方法

レポート試験（70％）小テスト（リアクション・ペーパー）（30％）

具体的には、授業中に適宜課す小テスト、もしくはリアクション・ペーパーと期末に課すレポート試験のそれぞれの得点から総合的に評価する。

テキスト

松下晴彦他編著『教育原理を組みなおすー変革の時代を超えてー』名古屋大学出版会、2021年

参考文献・参考資料等

真壁宏幹編『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中 善則 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 求められている教育者像をグループで討議し、自分なりにつくろう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 ・教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ・教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ・学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、グループを編成し、グループワークを中心にアクティブ・ラーニング型の授業で行い、学生たち自身で、「めざす教員像」を構築していくことを目標とするものである。内容は、教職の意義や教員の役割、職務内容などの理解を図り、教職の基本的な知識を習得する。また、中高教員の魅力や教育の難しさを議論し合い、そのなかで、いま教員にそのなかで、いま教員に求められているものを明らかにしていく。“教育とは何か”“教員とは何か”を考える機会とし、「教職」という職業を選択していく決意を高めていってもらいたい。グループワーク等で、受講生の積極的な発言や参加を期待する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～教員とは？（教育観の変遷をふまえ）</p> <p>第2回：教員の仕事①～自分の夢をみつめる</p> <p>第3回：教員の仕事②～こどもと出会う前に</p> <p>第4回：教員の仕事③～学級経営方針</p> <p>第5回：教員の仕事④～教員の一日の活動実態</p> <p>第6回：教員の仕事⑤～教員のライフコース、力量形成</p> <p>第7回：（ビデオ視聴と議論）教員の一年</p> <p>第8回：学級経営（優れた実践指導記録の読み方（幼小中高等学校））</p> <p>第9回：（現場教員から学ぶ）今、求められる教員像（外部講師）</p> <p>第10回：教師の身分と服務</p> <p>第11回：教員の協働と地域・専門家との連携（チーム学校）</p> <p>第12回：「教職の意義とは？」「教員の役割とは？」の課題づくり～学習成果発表会に向けて</p> <p>第13回：教職についての質問づくり～グループ活動</p> <p>第14回：学習成果発表会</p> <p>第15回：「めざす教員像」のまとめ</p>			

定期試験は実施しない。			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
<input type="radio"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	プレゼンテーション
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="radio"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
<p>準備学習の内容及びそれに必要な時間</p> <p>発表時は、事前準備が必要。</p> <p>また、グループで決めた課題は、次時までには必ず行ってくる（120分）。</p> <p>なお、適宜、宿題を課す。授業後、配布プリント及び参考文献を読み、自身で内容をふりかえり、深めること（120分）。</p>			
<p>成績評価方法</p> <p>コミュニケーションカード30%、授業での発表・ワーク50%、レポート20%</p> <p>欠席する場合は、事前に連絡すること。この授業は、グループ討議などアクティブ・ラーニング形式で、仲間とともに考察や作業する時間を多く設定する。また、毎回書くコミュニケーションカードは、次の時間に返却、フィードバックする。既存の学説を踏まえて、自身の目指す教員像を述べているかを評価する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>参考文献・参考資料等</p> <p>『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房 2020年5月</p>			

授業科目名： 教育社会・制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川裕之 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的または経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】現代の公教育制度に関する基礎的な知識を身につけるとともに、学校と地域・家庭との連携や、学校安全に関する基礎的な事項について理解する。さらに、公教育制度をめぐる諸課題について広い視野から捉えられるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度の歴史や原理・理念に関する基礎的な知識を身につけている。 ・公教育制度を支える教育関係法規に関する基礎的な知識を身につけている。 ・学校と地域・家庭との連携についての基礎的な知識を身につけている。 ・学校安全に関する基礎的な知識を身につけている。 ・公教育制度をめぐる諸課題について広い視野から考えることができる。 			
授業の概要			
<p>本授業ではまず、公教育制度がどのような経緯をたどって成立し、現在のかたちになったのかについて歴史的に追っていく。さらにその背後に存在する公教育制度の理念や基本的な原理について理解した上で、それらを支える法的な仕組みについて学んでいく。次に、公教育制度を支える教育行政の基本構造や課題について学ぶとともに、開かれた学校を実現するための取り組みについて地域や家庭との連携、学校安全の観点から考える。その上で、不登校の問題など公教育制度をめぐる今日的課題を取り上げ、公教育制度の限界と可能性について考える。最後に、諸外国の教育制度のあり方について学び、わが国と比べることを通じて教育制度に対する視野を広げていく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 公教育制度の成立過程（1）－近代以前の教育－			
第2回：公教育制度の成立過程（2）－近代公教育の誕生－			
第3回：公教育制度の原理と理念（1）－3つの基本原理－			
第4回：公教育制度の原理と理念（2）－原理を支える法的仕組み－			
第5回：単元別到達度テスト（第1回） 教育行政の組織と運営（1）－中央教育行政の仕組み－			
第6回：教育行政の組織と運営（2）－地方教育行政の仕組み－			
第7回：教育行政の組織と運営（3）－教育行財政の仕組み－			
第8回：単元別到達度テスト（第2回） 開かれた学校をめざして（1）－学校と地域－			
第9回：開かれた学校をめざして（2）－学校と家庭－			
第10回：開かれた学校をめざして（3）－学校と安全－			
第11回：公教育制度のゆらぎと可能性			
第12回：単元別到達度テスト（第3回） 諸外国の教育制度（1）－アメリカ－			
第13回：諸外国の教育制度（2）－フランス－			

第14回：諸外国の教育制度（3）－韓国－

第15回：単元別到達度テスト（第4回） 半期の総括

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておくこと。（各回1時間）

授業で紹介した参考文献を図書館などで入手して読んでおくこと。（合計15時間）

授業で配付した資料を読み直し、復習をしておくこと。（各回1時間）

単元別到達度テストに向けて、各単元の総復習をおこなうこと。（合計15時間）

成績評価方法

成績評価については、①平常点：授業態度ならびに授業中の質問や応答、学生同士のディスカッション等への参加度（40%）、②各回のコメントシート（20%）、③単元別到達度テスト（40%）に基づいて総合的に評価する。

テキスト

授業中に資料を配付する。

参考文献・参考資料等

授業中に随時紹介する。

授業科目名： 心身の発達と学習の心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山口(杉山)真希 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 保育・教育に関わる子どもの心身の発達や学びの過程について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 幼児、児童の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義、発達を捉える視点を理解している。 ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・ 養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 <p>(2) 幼児、児童の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 ・ 保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育の基礎的理解に関する科目の一つとして位置づけられている。また、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育の対象の理解に関する科目の一つである。</p> <p>授業では、心理学の研究成果に基づく幼児、児童、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識、理論について概説する。子どもの各発達段階における心理的特性、主体的な学習を支える上で保育・教育者に求められる知見・考え方を理解することを目的として開講される。講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見の発表の時間を設ける。授業終了時には、授業内容のまとめ、考察の記述を求め、その内容は次回授業内でフィードバックする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション／発達を学ぶ意義</p> <p>第2回：心身の発達の概念及び教育における発達理解について：発達理論と子ども観・保育観</p> <p>第3回：心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用について：子どもの発達と環境</p> <p>第4回：運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について①（乳児期）</p> <p>第5回：運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について②（幼児期）</p> <p>第6回：運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について③（児童期）</p>			

- 第7回：運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について④（青年期）
 第8回：学習の理論と保育・教育への応用①（古典的条件づけ、オペラント条件づけ）
 第9回：学習の理論と保育・教育への応用②（認知学習の過程、観察学習、効果的な学習）
 第10回：学習と記憶
 第11回：主体的学習を支える動機づけ①（外発的動機づけ・内発的動機づけ）
 第12回：主体的学習を支える動機づけ②（学習性無力感）
 第13回：主体的学習を支える指導方法・学習評価の在り方
 第14回：主体的学習を支える集団づくり
 第15回：全体のまとめ／幼児、児童及び生徒の心身の発達と保育・教育
 定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

本科目に関連する文献を随時紹介し、必読文献については資料配布を行う。配布・紹介された文献を検討し、自分の考えをまとめる（一週間に150分程度）。

講義資料やノートを読み直し、講義内容を振り返る（一週間に90分程度）。

成績評価方法

①平常点、②期末試験の得点に基づいて、総合的に評価する。

具体的には、平常点＝授業中の課題提出、議論での意見発表など授業に対する参加・取り組みの得点（40点）＋期末試験（60点）で評価する。

テキスト

特定の教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。参考資料も随時紹介する。

参考文献・参考資料等

「やさしい発達と学習」外山紀子・外山美樹（2010）有斐閣アルマ ISBN:978-4641123946 1980円

「教職ベーシック 発達・学習の心理学【新2版】」柏崎秀子 編著（2024）ISBN: 978-4779307386 2200円

「実践に生かす保育の心理学」原口喜充 編著（2023）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623095223 2750円

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安田誠人 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 特別の支援を要する子どもについての指導のあり方や支援の実際について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達について理解し、説明することができる。 2. 特別の支援を必要とする児童に対する教育課程や支援の方法について理解し、説明することができる。 3. 障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある児童の学習上の困難とその支援について理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>障害の特性並びに心身の発達、教育課程並びに支援の方法を学ぶ。具体的には、①インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び主な法令の内容、②発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害並びにそれに伴う困難の特性、③発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性並びに学習の過程、④発達障害及び軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法、⑤「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけ並びに内容、⑥特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義・方法、⑦特別支援教育コーディネーター、関係機関及び家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性、⑧母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある児童生徒に関する実態把握の方法並びに組織的な対応の必要性について、知識の習得と理解の深化を目指す。さらに、障害の当事者の手記や当事者への調査研究などを通して、障害児の困難と発達支援に関する学びを深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・インクルーシブ教育・特別な教育的ニーズについて、国際的な潮流について知り、その理念や意味することについて学ぶ</p> <p>第2回：特別支援教育の支援体制・教育課程について学ぶ</p> <p>第3回：共生社会とインクルーシブ教育の構築に向けた取り組みについて学ぶ</p> <p>第4回：特別支援学校の役割と機能等について学ぶ</p> <p>第5回：通常学校における「気になる子ども」の理解と特別支援教育について学ぶ</p> <p>第6回：通特別支援学級の機能と役割について学ぶ</p> <p>第7回：通常学校における「合理的配慮」について学ぶ</p> <p>第8回：通級による指導と通級指導教室について学ぶ</p>			

第9回：「自立活動」の教育課程上の位置づけ並びに内容について学ぶ

第10回：保護者との連携、関係機関との連携について学ぶ

第11回：就学前から小学校への移行支援について学ぶ

第12回：障害の診断や判断について知り、就学にかかわる仕組み等について学ぶ

第13回：特別な教育的ニーズを持つ子どもたちの生活上および学習上の困難について学ぶ

第14回：発達障害のある子どもの心理的特性などの理解と支援の在り方について学ぶ

第15回：特別支援教育の成果と課題について考える

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の授業内容等を予告するので、準備学習をしておくこと（60分）。

次回授業で該当するテキスト、事前配布した資料を熟読しておくこと（60分）

授業で配布したレジュメ、ノートを必要に応じてまとめておくこと（30分）。

テキストを再度読み返すことにより、講義内容を復習しておくこと（30分）。

※復習・振り返り・小レポート課題を配布するので、次回授業又は指定日時までに作成、提出すること（60分）。（※は随時配布する）

配布資料を熟読、ノート・レジュメをまとめて講義内容を復習しておく（60分）。

成績評価方法

平常点（受講態度10%、グループワーク等への発表・発言など積極的参加10%） 20%

復習・振り返り・小レポート課題 20%

試験 60%

テキスト

杉本 敏夫監修 立花直樹他編著『特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮』ミネルヴァ書房 2023年 2,800円

参考文献・参考資料等

花熊 暁・川住隆一・苅田知則 編著 『特別支援教育免許シリーズ 特別支援教育概論』建帛社 2020年

必要に応じてプリント、レジュメ等を配布する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 裕 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 教育課程に関する理論と実践</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能（教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義など）を習得すること。</p> <p>② ①をふまえて、今後の教育課程のあり方についての自分なりの考えを持つことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における教育課程に関する議論や実践事例の検討などを通して、教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義など、教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得するとともに、今後の教育課程のあり方についての自分なりの考えを持てるようにするための機会を提供することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導要領の概要とその意義</p> <p>第3回：教育課程編成の目的と基盤</p> <p>第4回：教育課程の構造と教育課程編成の基本原理</p> <p>第5回：教育課程の歴史①：江戸時代から終戦まで</p> <p>第6回：教育課程の歴史②：戦後初期から2008・2009年版学習指導要領まで</p> <p>第7回：教育課程の歴史③：2017・2018年版学習指導要領の要点</p> <p>第8回：教科・領域の役割と関連</p> <p>第9回：教育課程編成の具体像とその要点</p> <p>第10回：社会に開かれた教育課程</p> <p>第11回：カリキュラム・マネジメントの意義と要点</p> <p>第12回：教育課程の評価と改善</p> <p>第13回：他国の教育課程</p> <p>第14回：今後の教育課程のあり方について考える</p> <p>第15回：講義全体のふりかえりとまとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
○	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート

○ グループワーク	○ プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
<p>準備学習の内容及びそれに必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回必ず配付資料等を読み直して復習を行い、不明な点があれば質問するなどして理解しておくようにすること（各回30～60分程度）。 ・ 教育課程編成に関わる資料の収集や分析、発表資料の作成等を中心に、授業外での相当の準備が必要となる（3～4時間程度）。 <p>※ 上記の時間はあくまで目安であるため、「講義内容の修得」をめざし、自身にとって必要な質と量の学習に取り組むこと。</p>		
<p>成績評価方法</p> <p>講義中に提出を求める小レポートやワークシートなど（60%）、および、まとめのレポート（40%）をもとに、総合的に評価する。</p> <p>ただし、「まとめのレポートの提出」を、単位認定の最低要件とする。</p>		
<p>テキスト</p> <p>テキストは定めず、講義中に適宜資料を配付する。</p>		
<p>参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木村裕、古田薫編著『教育課程論・教育評価論』ミネルヴァ書房、2022年 ・ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 <p>※ これ以外の参考書・参考資料については、講義中に適宜紹介する。</p>		

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 裕 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼） 教育の方法及び技術（小）		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 授業づくりに関する理論と実践			
【到達目標】			
① 自分なりの「めざす授業」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。			
② 自分なりの暫定的な「めざす授業像」を確立するとともに、その実現をめざして、到達目標①の内容もふまえながら学習指導案を作成できるようになること。			
③ 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善できるようになること。			
授業の概要			
学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得するとともに、それらを用いた実践分析および授業づくりを行う機会を提供することを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学習指導案の目的とその概要			
第3回：授業の構成要素と教育方法			
第4回：実践事例の検討（1）：探究型の授業における教育方法の理論と実践			
第5回：「資質・能力」をめぐる教育目標論と実践への活かし方			
第6回：教材研究の理論と実践			
第7回：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの理論と実践			
第8回：教育評価の理論と実践			
第9回：学習指導案の作成			
第10回：授業研究の進め方とその意義			
第11回：実践事例の検討（2）：情報機器を活用した授業における教育方法の理論と実践			
第12回：授業における教師の役割			
第13回：学習指導案の相互検討と改善			
第14回：実践記録の具体像とその理論			
第15回：講義全体のふりかえりとまとめ			
定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
○	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート

○ グループワーク	○ プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
<p>準備学習の内容及びそれに必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回必ず配付資料等を読み直して復習を行い、不明な点があれば質問するなどして理解しておくようにすること（各回30～60分程度）。 ・ 教材研究の実施や学習指導案の作成等を中心に、授業外での相当の準備が必要となる（3～4時間程度）。 <p>※ 上記の時間はあくまで目安であるため、「講義内容の修得」をめざし、自身にとって必要な質と量の学習に取り組むこと。</p>		
<p>成績評価方法</p> <p>講義中に提出を求める小レポートやワークシートなど（60%）、および、まとめのレポート（40%）をもとに、総合的に評価する。</p> <p>ただし、「まとめのレポートの提出」を、単位認定の最低要件とする。</p>		
<p>テキスト</p> <p>テキストは定めず、講義中に適宜資料を配付する。</p>		
<p>参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田中耕治、鶴田清司、橋本美保、藤村宜之『新しい時代の教育方法〔第3版〕』有斐閣、2024年 ・ 木村裕、古田薫編著『教育課程論・教育評価論』ミネルヴァ書房、2022年 ・ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 <p>※ これ以外の参考書・参考資料については、講義中に適宜紹介する。</p>		

授業科目名：ICTを活用した教育の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：久富 望 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小）		
授業のテーマ及び到達目標 <p>【授業のテーマ】ICTの発展に伴い学校教育を取り巻く環境は大きく変わり、学校教育がどうあるべきかという根本から問い直されている。コロナ禍においてGIGAスクール構想が前倒しされて以降の変化は特に大きい。その源流には、学習指導要領において「情報活用能力」が「言語能力」「問題発見・解決能力」などと並び「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられていることにある。本授業では、学校教育等においてICTを活用できる人材を育てることを目的として、ICTの活用状況について知見を深め、プログラミングの体験も得ながら、ICTを活用した教育の有用性や問題点をテーマに授業を実施する。</p> <p>【到達目標】学校教育におけるICTを活用した授業デザイン、教科書や教材、学校作りなどについての具体的な事例を知り、1人1台環境における教育観・学習観の変化について学び、ICTを活用した教育について正しい知識に基づいた自らの考えを持ち、議論を行えるようになることを目指す。</p>			
授業の概要 本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触りながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。以上のような、一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業を毎回行うことにより、本授業を受講すること自体が、ICTを活用した教育を体験する機会となることを狙っている。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 本授業の背景、授業計画と進め方について概観する。 第2回：教育の情報化の歴史とGIGAスクール構想の概要 GIGAスクール構想に至るまでの歴史を踏まえ、GIGAスクール構想そのものについて理解する 第3回：GIGAスクール構想による教育現場の変化(1) GIGAスクール構想による、教室の環境や生徒の学び方の変化について理解する 第4回：GIGAスクール構想による教育現場の変化(2) GIGAスクール構想による、教師と児童・生徒の関係の変化について理解する 第5回：GIGAスクール構想による教育現場の変化(3) GIGAスクール構想における、教育観や学習観の変化について理解する 第6回：1人1台環境における学び(1) 1人1台環境によって可能になった授業の進め方について実践的に取り上げる 第7回：1人1台環境における学び(2) 1人1台環境によって可能になった教科学習の例について実践的に取り上げる			

第8回：1人1台環境における学び(3)

1人1台環境によって可能になった教科外学習の例について実践的に取り上げる

第9回：1人1台環境の維持・管理

1人1台環境による、学校環境の維持・管理の変化について取り上げる

第10回：情報モラル教育

警察が行っている事例を踏まえ、学校教育における情報モラル教育の取り組みについて理解する

第11回：プログラミング体験(1)

プログラミングの基礎を体験し、どのような場合にプログラミングが有効に働きうるか理解する

第12回：プログラミング体験(2)

プログラミングの一部を変更しながら、どのような学習が可能になりうるか理解する

第13回：教育データ利活用

教育データ利活用について概観し、学習・指導の変化について考察する

第14回：教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）と未来の学校文化

教育DXについて、DXの定義に基づいて取り上げ、未来の学校文化について考察する

第15回：クロージング

ICTを活用してこれまでの提出物を整理し、これまでの議論を振り返り、最終課題に取り組む

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

各授業において、文献・資料を事前に読む、授業内容の整理に各1時間程度、授業案の作成や考案に2時間程度が必要である。ただし、一部の授業ではプログラミングの試行錯誤と考察に代替される。

成績評価方法

第14回まで毎回の授業内に課す課題（60%）と、最終課題（40%）により評価する。

テキスト

石井英真、河田祥司「GIGAスクールのなかで教育の本質を問う：子ども主語の学びと現場主語の改革へ」日本標準、2022

この他、授業資料を適宜配布する。

参考文献・参考資料等

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター、西岡加名恵「世界と日本の事例で考える学校教育×ICT」明治図書、2023

川嶋ホーン瑤子「グローバル化、デジタル化で教育、社会は変わる」東信堂、2021

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」

授業科目名： 子ども理解の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：等々力花歩、山口 (杉山) 真希 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論と方法		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 幼児理解に関する知識や方法を学ぶこと			
【到達目標】			
1. 幼児理解の意義および幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。			
2. 幼児理解を深めるための教師の基本的な姿勢や方法について理解している。			
3. 個々の子どもや保護者に対する基本的な対応の方法を理解している。			
授業の概要			
教育や保育では、一人ひとりの子どもの行動や発達の特性について理解し、それに応じた指導や援助を行うことが重要である。この授業では、子ども理解の理論とその方法について学ぶ。具体的には、子どもの心身の発達に関する知見や、観察などの子どもを理解するための方法についての知識を身につける。また、発達や学びの過程において生じる子どものつまづきへの対応や理解の方法、保護者や家庭との関わり方などについても理解を深め、幼児理解の理論と方法について体系的に学ぶことを目指す。授業は講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見発表の時間を設ける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：幼児理解の意義【等々力】			
第2回：生活や遊びの中での学び【山口】			
第3回：乳幼児の発達【等々力】			
第4回：子ども同士の関わりと育ち【等々力】			
第5回：集団における育ち【山口】			
第6回：保育者の役割と幼児理解のための基本的な姿勢【山口】			
第7回：幼児理解のための方法①：観察【等々力】			
第8回：幼児理解のための方法②：質問紙、面接、検査【山口】			
第9回：幼児理解のための方法③：保育の記録【等々力】			
第10回：幼児理解のための方法④：対話、自己理解【等々力】			
第11回：幼児のつまづきについての理解と対応【山口】			
第12回：特別な配慮を要する子どもの理解と対応【山口】			
第13回：子育てや家庭を取り巻く現状【等々力】			
第14回：保護者との関わりや家庭との連携の基本【等々力】			
第15回：授業全体のまとめ【等々力】			
定期試験			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			

PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に次回の内容を予告するので、準備学習をしておく（60分）。 ・配布資料などをもとに講義内容を振り返り、内容をまとめる（90分）。 ・図書館やウェブで関連文献に目を通し、幼児理解についての学びを深める（学期中 30 時間）。 			
成績評価方法			
①平常点（授業中の課題提出、授業に対する参加・取り組みの得点）（40点）、②期末試験（60点）の得点に基づいて、総合的に評価する。			
テキスト			
随時指示する。プリントを配布する			
参考文献・参考資料等			
「幼児理解の理論と方法（乳幼児教育・保育シリーズ）」神長 美津子・岩立 京子・岡上 直子・結城 孝治 編著 光生館 2019年出版 1,980円			

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小泉隆平 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 (2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 (3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 (2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 (3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 (4) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、子どもたちが抱えるさまざまな悩みや問題に対して、教師や専門家が寄り添いながら成長を支援する教育活動の一環です。教育相談は生徒指導の重要な柱とされ、児童生徒が自己理解と自己決定を深め、健全な成長を促すことを目的としています。授業では、個別の支援のあり方を重視し、学業面だけでなく、心の問題、家族関係、将来の不安など、幅広い分野での相談を扱います。また、児童生徒の自己理解・自己選択を促すことで、単なる問題解決ではなく、児童生徒が自分を理解し、適切な行動を選択できるような支援のあり方を扱います。具体的には、カウンセリングの基本的な態度、校内連携、外部関係機関との連携、発達の支援や不登校やいじめへの支援、進路相談、児童虐待や家庭問題の早期発見と対応などを扱います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校における教育相談の意義と課題</p> <p>第2回：教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念</p>			

第3回：児童生徒の不適応や問題行動の意味
 第4回：児童生徒の発するシグナルに気づき把握する方法
 第5回：学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性
 第6回：カウンセリングの基礎的な態度や技法
 第7回：傾聴を目指した基礎的な態度
 第8回：一致・受容を目指した基礎的な態度
 第9回：共感的理解を目指した基礎的な態度及び保護者との協働的な関係
 第10回：いじめの理解と教育相談の進め方
 第11回：不登校の理解と教育相談の進め方
 第12回：虐待や非行の理解と教育相談の進め方
 第13回：教育相談とチーム学校
 第14回：教育相談と校内連携
 第15回：外部専門機関との連携
 定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に配布する資料の内容を前もって理解しておく。（1回あたり約2時間）

成績評価方法

レポート(80%)、授業での発表内容(20%)

テキスト

生徒指導提要改訂版（文部科学省）

参考文献・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（幼小）		単位数：2単位		担当教員名：藤井浩史、菅道子、北林雅洋、岸本実、三好真史、等々力花歩	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	50人（2クラス実施）				
教員の連携・協力体制 授業の立案・実施に際し、教科および教科の指導法の担当教員と本授業の担当教員の間で連携を図るとともに、京都府・京都市教育委員会、連携協議会委員、小学校長経験者との連携・協力体制をとる。					
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 受講生のこれまでの履修状況をふまえ、自らの強みや特性を認識するとともに、不足している知識や技能等を補い、教員として必要な知識や技能をさらに高めることを目標とする。授業では、教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③子ども理解や学級経営、④教科内容等の指導力を軸に、教員としての総合的な力量形成をめざす。 【到達目標】 1. 教員が有すべき使命感や責任感、教育的愛情について理解している。 2. 教員が有すべき社会性や対人関係能力について理解している。 3. 教員が有すべき子ども理解や学級経営の仕組みと方法について理解している。 4. 教員が有すべき教科内容の理解と指導力について理解している。					
授業の概要 教員養成段階で習得すべき最小限必要な資質能力である上記4つの事項の力量形成を組み込んだ内容の授業とする。授業形態は、履修カルテをもとにしたグループ討議、事例研究、模擬授業と授業研究、ロールプレイング等を取り入れた実践的な授業形態をとる。授業開始時に、受講生は各自の課題意識を研究レポート課題として設定し、授業の展開の中で吟味を重ね、授業の最終段階で、研究レポートとして発表し、討議し、成果を共有する。また授業に際しては、小学校校長経験者や現職教員と積極的な協力体制をとり、主として教職全般に関する科目で扱われる内容と教科に関する科目で扱われる内容を統合した複合的な観点から受講生の力量形成を図るとともに、入職への円滑な移行を見据えた実践的な指導もあわせて行う。					
授業計画 第1回：授業の趣旨と授業計画の説明 第2回：教師に求められる力量 第3回：教職課程全体のふりかえりと自身の学習の省察 第4回：学習の成果と課題の相互検討 第5回：各自の研究レポート課題の設定 第6回：教員に求められる使命感や責任感、教育的愛情の再考 第7回：教員に求められる社会性や対人関係能力の再考 第8回：子ども理解や学級経営の仕組みと方法の再考					

第9回：教員に求められる教科内容の理解と指導力（ICTの活用を含む）の再考
 第10回：研究レポートの発表の準備
 第11回：研究レポートの発表とグループ討議（教員としての使命感や責任感、教育的愛情）
 第12回：研究レポートの発表とグループ討議（教員としての社会性と対人関係能力）
 第13回：研究レポートの発表とグループ討議（子ども理解・学級経営）
 第14回：研究レポートの発表とグループ討議（教科内容の理解と指導力（ICTの活用を含む））
 第15回：演習全体のふりかえりとまとめ
 定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』（最新版）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）

『小学校学習指導要領』（最新版）

学生に対する評価

研究レポート30%、発表・実技40%、授業内課題・取り組みの姿勢30%

いずれも教員として最小限必要な資質能力が身についているかどうかの観点から評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 保育・教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名： 炭谷将史、林悠子、芦田風馬、山口真希	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	30人				
教員の連携・協力体制 授業の立案・実施に際し、領域および領域の指導法の担当教員と本授業の担当教員の間で連携を図るとともに、京都府・京都市教育委員会、連携協議会委員、認定こども園・幼稚園園長経験者との連携・協力体制をとる。					
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 受講生が自身のこれまでの学びの記録や実習をふり返り、その成果を確認するとともに、保育者・教員としての自分の課題とその解決方法を明確にする。保育・教育の現状と課題を理解した上で、保育者・教員としての自分のキャリア形成を展望する。 【到達目標】 ① 保育者・教員に求められる専門的知識および技術、的確な知識に基づく判断力、対人関係能力、責任感や倫理観の形成などについて自らの学習体験をふり返り、その成果と課題を明確化する。 ② 保育・幼児教育に関する情報を収集し、現状を理解・分析することで、保育者・教員として課題に対応するための基礎力を養う。 ③ 保育・幼児教育に対する使命感や責任感、子どもに対する教育的愛情を持ち、子ども理解に基づいた適切な支援と指導・学級経営ができるようにする。					
授業の概要 保育・教職実践演習は、保育者・教員を目指して学んできた授業および実習の集大成である。これまでの学びの記録（教職履修カルテ、実習日誌等）や実習における体験により、自らの保育者・教員としての資質や実践力を振り返る。さらに振り返りに基づくディスカッションをとおして、自己と参加者相互の理解を深めつつ、保育者・教員としての課題とその解決方法を明確にする。また授業開始時に、受講生は各自の課題意識を研究レポート課題として設定し、授業の展開の中で吟味を重ね、授業の最終段階で、研究レポートとして発表し、討議し、成果を共有する。現代の幼児教育の実態や課題、子育てを取り巻く社会的状況、現代社会における保育者・教員の役割を正しく認識した上で、自分のキャリアについて展望を持てるようにする。					
授業計画 第1回：授業の趣旨と授業計画の説明 第2回：保育者・教員に求められる力量 第3回：教職課程全体のふりかえりと自身の学習の省察 第4回：学習の成果と課題の相互検討 第5回：各自の研究レポート課題の設定 第6回：幼児教育・保育の現代的課題（ICTの活用を含む）と教育実践・保育実践の諸相 第7回：さまざまな保育・教育実践から学ぶ（ICTを活用した実践を含む） 第8回：子ども理解と子ども支援					

第9回：保育者・教員のコミュニケーション能力と対人関係能力

第10回：子ども理解に基づく評価の考え方

第11回：子育て家庭に対する支援及び地域社会との連携

第12回：幼保小の接続と課題

第13回：保育者・教員の責任感や倫理観

第14回：保育者・教員としての社会性や対人関係能力

第15回：教員育成指標について

定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料等を配付する

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』（最新版）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）

『小学校学習指導要領』（最新版）

学生に対する評価

研究レポート30%、発表・実技40%、授業内課題・取り組みの姿勢30%

いずれも教員として最小限必要な資質能力が身についているかどうかの観点から評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 道徳教育の理論と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下晴彦 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】第1に、道徳の歴史と思想を学び、学校教育において道徳教育を実践するための基本的な理論と方法について知識と理解を得ること、第2に、道徳教育の全面主義の意義を理解し、教科としての道徳の授業を実践するために必要な指導能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>道徳の理論について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳とは何かについて自らの考えを明確にし、また説明できる 2 道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の諸問題について理解している。 3 現行の学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容を理解している。 <p>道徳教育の指導法について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2 道徳科の特質を活かした多様な指導方法の特徴を理解している。 3 道徳科における教材研究をもとに、授業案作成に活用することができる。 4 授業のねらいや指導過程を綿密にデザインし、道徳科の学習指導案を作成することができる。 5 道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方を理解している。 6 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育は、教育基本法並びに学校教育法に定められた教育の基本精神を踏まえ、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を育成することを目的とした教育活動である。この授業では、道徳や倫理についての知見を学び、学校教育全体で実践される道徳教育、また教科として実践される道徳科授業について、授業目標の設定や指導計画、教材研究・開発、学習指導案の作成、模擬授業のデザイン、道徳教育の評価等の諸点において、道徳教育の専門的知見と実践的指導力を身につけることを目的とする。1) 道徳教育の歴史と現行の道徳教育の考え方、特に教科化の理念と考え方を理解する。2) 道徳性発達理論やそれに基づく授業理論について学び、「読む・聞く」道徳の授業から「考え、議論する」道徳の授業への転換を理解し、また道徳の授業をデザイン・実践・評価していく力を身につける。講義の後半では、資料をもとに教材研究や指導案の作成、教授方法、評価方法について、受講生がそれぞれ具体的に取り組み、教育実践現場（初等教育）における道徳の時間の指導のあり方について、体感的に学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 道徳教育とはなにか 道徳教育がめざすこと</p> <p>A: 各自の道徳教育の体験を振り返る (注 A: アクティビティ、以下同様)</p>			

- 第2回：道徳教育の歴史（1）明治期から第二次世界大戦まで
 第3回：道徳教育の歴史（2）戦後から現代まで
 第4回：道徳性と発達についての心理学的研究
 第5回：道徳性発達理論とポスト・コールバーグ理論 A:道徳的ジレンマを体験する
 第6回：社会的認知理論の現在：道徳の領域と社会の領域 A:私たちの社会的行動
 第7回：討議と道徳的判断を重視した授業実践と方法 A:教材「手品師」の分析
 第8回：現行の道徳教育の要点：現行の学習指導要領概説
 第9回：「考え、議論する」道徳の授業とその指導法 A:教授法について考える
 第10回：価値の相対化と道徳教育の役割 A:現代社会の特徴を考える
 第11回：道徳教育の教材研究と授業設計 A:教材「手品師」の指導案作成
 第12回：道徳教育の評価方法とその課題
 第13回：道徳教育の教材研究：「ブランコ乗りとピエロ」他 A:教材研究・授業設計と模擬授業
 第14回：道徳教育の教材研究：「ブラッドリーの請求書」他 A:教材研究・開発と模擬授業
 第15回：道徳教育の現状と課題：本講義全体の総括

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

○	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

講義資料の内容について理解を深め、また資料に示されている課題に取り組む（1時間）

授業内容について資料を使いながら復習する（1時間）

各回に提示される課題について考察し論述形式でまとめておく（2時間）

成績評価方法

レポート試験（70%）、小テスト（リアクション・ペーパー）（30%）

具体的には、授業中に適宜課す小テスト、もしくはリアクション・ペーパーと期末に課すレポート試験のそれぞれの得点から総合的に評価する。

テキスト

授業中に適宜配布する。

参考文献・参考資料等

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』

（これらは、インターネット上で、閲覧・ダウンロード可）

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習 の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 裕 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】「総合的な学習／探究の時間」および「特別活動」に関する理論と実践</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 学校教育における「総合的な学習／探究の時間」および「特別活動」の位置づけや意義、実践に向けて取り組むべき課題、取り組みの具体像や議論などを理解する。</p> <p>② ①をふまえて自分なりのめざす実践のあり方についての考えを持つことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における「総合的な学習／探究の時間」および「特別活動」の位置づけや意義、実践に向けて取り組むべき課題（目標や内容、指導方法や指導計画、評価方法など）、取り組みの具体像や議論などを理解したうえで、それをふまえて自分なりのめざす実践のあり方を構想するための、基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。そのために、学習指導要領の内容や関連する議論、具体的な実践事例などに検討を加えたり、自身のめざす実践のあり方について他の受講生と議論を行ったりする機会を設定する予定である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導要領における「総合的な学習／探究の時間」「特別活動」の目標・内容・特質</p> <p>第3回：教育課程における「総合的な学習／探究の時間」「特別活動」の位置づけと各教科等との関連</p> <p>第4回：学級活動・ホームルーム活動と合意形成や意思決定に向けた指導</p> <p>第5回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と取り組みの方向性</p> <p>第6回：家庭や地域と連携した特別活動の実践</p> <p>第7回：特別活動の特質と教育評価の進め方</p> <p>第8回：集団の自治の力を育てる特別活動の意義と指導のあり方</p> <p>第9回：「総合的な学習／探究の時間」における教育評価の進め方</p> <p>第10回：「総合的な学習／探究の時間」と教科等との関連</p> <p>第11回：探究力の育成方法について考える</p> <p>第12回：自身のめざす「総合的な学習／探究の時間」の提案</p> <p>第13回：自他のめざす「総合的な学習／探究の時間」の検討</p> <p>第14回：地球市民の育成と「総合的な学習／探究の時間」「特別活動」</p> <p>第15回：講義全体のふりかえりとまとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			

<input type="radio"/> PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> グループワーク	<input type="radio"/> プレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）		
<input type="radio"/> 授業時間内に講評・解説する	<input type="radio"/> メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
<p>準備学習の内容及びそれに必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回必ず配付資料等を読み直して復習を行い、不明な点があれば質問するなどして理解しておくようにすること（各回30～60分程度）。 ・書籍等を用いた調査や資料の作成等を中心に、授業外での相当の準備が必要となる（3～4時間程度）。 <p>※ 上記の時間はあくまで目安であるため、「講義内容の修得」をめざし、自身にとって必要な質と量の学習に取り組むこと。</p>		
<p>成績評価方法</p> <p>講義中に提出を求める小レポートやワークシートなど（60%）、まとめのレポート（40%）をもとに総合的に評価する。</p> <p>ただし、「まとめのレポートの提出」を、単位認定の最低要件とする。</p>		
<p>テキスト</p> <p>テキストは定めず、講義中に適宜資料を配付する。</p>		
<p>参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（平成29年7月） ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』（平成29年7月） <p>※ これ以外の参考書・参考資料については、講義中に適宜紹介する。</p>		

授業科目名： 生徒指導の理論と方法（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中 善則 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】 生徒指導の理論及び方法を体系的に学び、生徒指導を進めていくための知識・技能や素養を身につけること。また、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、その視点に立った教育実践を行うための知識・技能や素養を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の現場において生徒指導の果たす役割の重要性を認識する。 ・ 学校が抱える諸問題から生徒指導を考え、適切に対応できる能力を培う。 ・ 進路指導とキャリア教育の重要性を認識し、その実践方法を身につける。 ・ 生徒指導における学校や教師の基本的な姿勢や取り組み方を身につける。 ・ 改訂された「生徒指導提要」の内容理解を図り、生徒指導の意義や原理を理解する。 ・ 生徒指導において、家庭・地域・専門機関との連携の重要性を理解し、協働的に取り組む姿勢を身につける。 			
授業の概要			
<p>現在の学校教育現場では、生徒を取り巻く環境に急激な変化が生じ、さまざまな問題を抱えている。その基本的原因を、いじめ・少年非行問題等の事例研究を通して追究し、生徒指導の意義、構造、方法、基盤等についての理解を深め、子どもを大切に、諸問題に組織的に適切に対応できる能力の育成を目指すことを目的とする。とくに、従来の生徒指導のイメージを覆し、教育課程や生徒指導体制を重視しながら、個々のこどもの自己実現を図る生徒指導教員のあり方を深く追究する。また、生徒指導においては家庭・地域・関係機関との連携も不可欠であり、その意義と具体的な実践の在り方についても学ぶ。さらに、キャリア教育の視点を学習し、その視点からの生徒指導のあり方を構想していく。講義とともに、グループワーク等での受講生の積極的な発言や参加を期待します。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（「生徒指導のイメージ」について）</p> <p>第2回：生徒指導の意義と構造（生徒指導とキャリア教育・教育相談の連関性を含めて）</p> <p>第3回：生徒指導の方法と基盤（ガイダンスとカウンセリング、同僚性等）</p> <p>第4回：子ども理解を核にした生徒指導</p> <p>第5回：学校教育の諸問題①（いじめ・少年非行問題についてのロールプレー）</p> <p>第6回：学校教育の諸問題②（理論研究）</p> <p>第7回：学校教育の諸問題③（実践記録分析）</p> <p>第8回：今日的な生徒指導上の課題への対応（インターネットや性に関する課題、虐待への対応）</p> <p>第9回：生徒指導の課題に関する討議（特に暴力行為・不登校等）</p>			

第10回：生徒指導・進路指導・キャリア教育と教育課程

第11回：進路指導・キャリア教育の意義と方法

第12回：キャリア教育教育の実践と最新動向（「キャリア・パスポート」の活用とキャリア・カウンセリング）

第13回：チーム学校による生徒指導体制（進路指導・キャリア教育を含めて）

第14回：個別の課題に対する生徒指導（自殺・中途退学・多様な背景を持つ児童等）

第15回：生徒指導のまとめ（生徒指導の取り組み上の留意点と法制度等の運用体制、初回の「生徒指導のイメージ」との変容についての議論）

定期試験は実施しない。

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

課題準備やその発表時は、相当の事前準備が必要。次回までの課題を確実に行うこと（120分）。また、授業後、テキスト、配布プリント及び参考文献を読み、自身で内容をふりかえり、深めること。特に、生徒指導のイメージの変化について、自己自身でのふりかえりを、講義期間を通して行ってほしい（120分）。

成績評価方法

個人課題70%、発表・グループワークの成果30%

欠席の場合は、事前に連絡のこと。また、授業項目ごとに記すふりかえりシートは、返却、フィードバックする。

テキスト

『生徒指導提要』（令和4年12月）文部科学省

参考文献・参考資料等

『（小学校）、（中学校・高等学校）キャリア教育の手引き』（令和4,5年）文部科学省

授業科目名： 障害児教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安田誠人 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎的理解に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】特別支援教育における必要な知識と具体的指導の実際を学ぶことを講義の目標とする。特に、特別支援教育の歴史や教育のあり何を学び、特別支援教育の思想を学ぶことを基本として講義を行う。その中で、支援を必要とする知的障害等の児童生徒の実態と学習指導要領における教育課程や教育法規や条約等を理解し、特別支援教育の基礎を学ぶことを講義のテーマとする。</p> <p>【到達目標】小学部から高等部もしくは卒業後の社会生活を見通した指導や支援のあり方を理解し、特別支援教育において実践可能な基礎的知識を身につけることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、特別支援学校教諭免許取得のための必須講義であることから、特別支援教育の歴史や理念など基礎的知識を学び、特別支援教育の教育内容や教育方法を学ぶ。そして、特別支援学校教員として必要な、特別支援教育対象児の実態把握や特別支援教育対象児の特性や具体的教育実践について学ぶことを目的とする。適宜DVD等を利用し、教育の実際を通して学ぶことを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・特別支援教育の歴史と特別支援教育体制の構築について学ぶ 第2回：特別支援教育の意義と制度について、特別支援教育の場と学校制度について学ぶ 第3回：特別支援教育の法規と学習指導要領、学校教育法等の成立と学習指導要領改訂の歴史について学ぶ 第4回：特別支援教育の実際、就学相談と教育相談及び対象児の実態把握の方法について学ぶ 第5回：特別支援教育における教育の場、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室、通常学級について学ぶ 第6回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について学ぶ 第7回：特別支援学校における自立活動について学ぶ 第8回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（視覚障害及び聴覚障害）について学ぶ 第9回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（発達障害および情緒障害）について学ぶ 第10回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（知的障害）について学ぶ 第11回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（肢体不自由及び重度重複障害）について学ぶ 第12回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（病弱及び身体虚弱）について学ぶ 第13回：特別支援教育における実態把握と教育内容及び教育方法（医療的ケア児及び外国籍児、貧困児）について学ぶ</p>			

第14回：保護者との連携、関係機関との連携について学ぶ

第15回：特別支援学校教育の今後の課題と展望、特別支援教育の目ざすものについて学ぶ

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する		メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	--	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の授業内容等を予告するので、準備学習をしておくこと（60分）。

次回授業で該当するテキスト、事前配布した資料を熟読しておくこと（60分）。

授業で配布したレジュメ、ノートを必要に応じてまとめておくこと（30分）。

テキストを再度読み返すことにより、講義内容を復習しておくこと（30分）。

※復習・振り返り・小レポート課題を配布するので、次回授業又は指定日時までに作成、提出すること（60分）。（※は随時配布する）

配布資料を熟読、ノート・レジュメをまとめて講義内容を復習しておく（60分）。

成績評価方法

平常点（受講態度10%、グループワーク等への発表・発言など積極的参加10%）20%

復習・振り返り・小レポート課題20%

試験60%

テキスト

杉本 敏夫監修 立花直樹他編著『特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮』ミネルヴァ書房 2023年 2,800円

参考文献・参考資料等

花熊 暁・川住隆一・苅田知則 編著 『特別支援教育免許シリーズ 特別支援教育概論』建帛社 2020年

必要に応じてプリント、レジュメ等を配布する。

授業科目名： 知的障害児の心理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山口(杉山)真希 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理、生理及び病理に関する科目（ 中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】知的障害のある幼児、児童又は生徒の心理特徴や発達上の「問題」の背景を理解する視点を得る。幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ、認知の特性を把握する方法を知り、家庭や関係機関との連携について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、それらの相互作用について理解している。</p> <p>(2) 観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ、認知の特性を把握する方法を理解している。</p> <p>(3) 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。</p>			
授業の概要			
<p>本科目は、特別支援教諭免許状を取得するための必修科目であり、知的障害者に関する教育の領域に位置付けられる科目の一つである。知的障害のある幼児、児童又は生徒が抱える生活や学習場面における「問題」の背景を正しく認識し、教育的対応を組み立てていくための基礎知識を学ぶ。具体的には、知的障害の定義やアセスメント、発生要因、感覚・認知・学習・運動・言語といった心理的特性と学習支援である。知的機能、適応機能のアセスメントについては、心理・知能検査を体験し、方法について実践的に理解していく。また、グループでの事例検討、映像視聴など、実際をより良く知り、受講生自身がじっくり問題に向き合えるような学習活動を想定している。子どもの行動背景への多角的な視点を得ること、指導や配慮を検討するにあたり、保護者や各専門機関との連携が必要であることの理解、適切な教育を考える力を養うことを目的として開講される。</p>			
授業計画			
第1回：発達と障害の概念、知的障害の定義・診断基準			
第2回：知的機能とは、知的機能のアセスメント			
第3回：適応機能とは、適応機能のアセスメント			
第4回：知的障害の発生要因			
第5回：知的障害と感覚・知覚の特性			
第6回：知的障害と注意の特性			
第7回：知的障害と記憶の特性			
第8回：知的障害と言語・コミュニケーションの発達			
第9回：知的障害と運動発達			
第10回：知的障害児の学習と指導（1）読み書き			

第11回：知的障害児の学習と指導（2）数

第12回：知的障害教育における教育課程

第13回：知的障害児教育の歴史、インクルーシブ教育と合理的配慮

第14回：知的障害と問題行動、分析とアプローチ

第15回：家庭や医療機関との連携、個別の教育支援計画

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

本科目に関連する文献を随時紹介し、必読文献については資料配布を行う。配布・紹介された文献を検討し、自分の考えをまとめる（一週間に150分程度）。

講義資料やノートを読み直し、講義内容を振り返る（一週間に90分程度）。

成績評価方法

①平常点、②期末試験の得点に基づいて、総合的に評価する。

具体的には、平常点＝授業中の課題提出、議論での意見発表など授業に対する参加・取り組みの得点（40点）＋期末試験（60点）で評価する。

テキスト

特定の教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。参考資料も随時紹介する。

参考文献・参考資料等

「知的障害児の心理・生理・病理：エビデンスに基づく特別支援教育のために 第2版」

勝二 博亮編著（2023）北大路書房 ISBN:978-4762832390 2970円

授業科目名： 知的障害児の生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松河理子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】知的障害を医学的観点から概観する。</p> <p>【到達目標】乳幼児期から学齢期にかけての子どもの精神発達の評価について、神経心理学的視点から見立てる力を養う。また、知的障害の原因となる疾患、病態生理についての医学的な知識を身につけ、成長発達に必要な特別支援教育をプランニングする力をつける。医療倫理的な側面から障害をとらえることや、福祉体験等を通して、知的障害児/者のQOLについても考察する。教育・福祉・医療分野のそれぞれの特性と連携・協働について、事例から理解を深める。現代社会における障害についてのテーマを設定し、ディスカッションおよび発表を取り入れ、他者の考え方を知り自分の考えを深める機会とする。</p>			
授業の概要			
<p>ヒトの精神発達の道筋を神経学的に学び、知的障がいの原因疾患と病態の生理・病理を主に医学的見地からとらえる。また、出生前診断など現代の医療を取り巻く倫理的側面や、知的障害児/者の医療と教育、福祉の連携など、幅広く障害について検討する。これに基づき、生活の主体者としての支援のあり方を考える。</p>			
授業計画			
第1回：知的障害の概念・定義			
第2回：ヒトの定型的な発達			
第3回：ヒトの定型的な精神発達			
第4回：ヒトの発生（遺伝子、染色体、胎児）			
第5回：知的障害の原因疾患			
第6回：知的障害に関連する疾患：ダウン症			
第7回：発達障害の理解と支援			
第8回：出生前診断と医療倫理①：概念と定義			
第9回：出生前診断と医療倫理②：今後の課題			
第10回：予防接種			
第11回：知的障害に関する当事者研究・発表①：知的発達症の研究			
第12回：知的障害に関する当事者研究・発表②：知的発達症の支援			
第13回：知的障害に関する当事者研究・発表③：神経発達症の支援			
第14回：知的障害に関する当事者研究・発表④：ノーマライゼーション			
第15回：知的障害に関する当事者研究・発表⑤：インクルーシブ社会			
定期試験は実施しない			

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)		
<input type="checkbox"/>	PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート	
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク	
フィードバックの方法 (いずれかに○)		
<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間		
授業において学んだことを復習すること (60分)。授業で学んだことを基礎に、知的障害関連して自身が興味をもったことの情報資料収集を行い、発表およびディスカッションを行う。その準備をしておく (3時間)。		
成績評価方法		
参加態度 (20%)、ディスカッション (20%)、資料作成 (20%)、発表 (20%)、レポート (20%) により総合的に評価する。		
テキスト		
なし		
参考文献・参考資料等		
授業中に適宜資料を配布する		

授業科目名： 肢体不自由児の心理・生理 ・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大畑光司 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（ 中心領域：肢、含む領域：知・病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】本講義では、肢体不自由児の原因疾患についての基礎的知識を享受した上で、生活場面でその障害が引き起こしうる問題について、相互ディスカッションを通して考える。</p> <p>【到達目標】肢体不自由児の内包する生活場面での問題について柔軟に想像出来るようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、肢体不自由児の原因疾患（脳性麻痺、二分脊椎など）についての医学的な基礎的知識を享受し、さらに生活場面でその障害が引き起こしうる問題について、相互ディスカッションを通して考えることを目的にしている。集中講義にて、座学を行なった後、グループディスカッションと発表を通して、子供達の抱える生活場面での考え方と肢体不自由児教育における役割を相互に確認する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：乳幼児期の発達とその病態</p> <p>第2回：学童期から成人までの成長と病態</p> <p>第3回：ディスカッション（乳児期に生じる母親の葛藤について）</p> <p>第4回：ディスカッション（肢体不自由児における家族の問題）</p> <p>第5回：ディスカッション（肢体不自由児における教育の問題）</p> <p>第6回：脳性まひの病態</p> <p>第7回：二分脊椎の病態</p> <p>第8回：筋ジストロフィー症の病態</p> <p>第9回：ディスカッション（進行性疾患とその心理）</p> <p>第10回：ディスカッション（参加と障害について）</p> <p>第11回：ダウン症児の病態とその問題</p> <p>第12回：発達性協調運動障害の病態とその問題</p> <p>第13回：ディスカッション（運動障害と心理）</p> <p>第14回：ディスカッション（肢体不自由者の病態が心理に及ぼす影響）</p> <p>第15回：ディスカッション（総括：本講義を通じて感じたことについて）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○ ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			

○ 授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
準備学習の内容及びそれに必要な時間 資料に基づいた講義の復習（120分）、前回までの範囲の復習（120分）	
成績評価方法 ディスカッションを踏まえた内容についてのレポート課題により評価する	
テキスト なし	
参考文献・参考資料等 適宜指示する	

授業科目名： 病弱児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 合田友美、西田千夏、落合利佳 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理、生理及び病理に関する科目（ 中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】病弱児・者の心理・生理・病理を総合的に理解するため、病気や障害とそれらが生活や心理に与える影響を概説する。そして、医療・福祉・教育の連携を踏まえた支援方法について探求する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病弱児・者の心理的・生理的特徴と代表的な疾患について説明できる。 2. 病弱児・者の生活上の困難や心理的な負担を理解し、対応方法を考察できる。 3. 病弱児・者を支えるための制度を理解し、多職種連携の重要性を説明できる。 4. 病弱児・者の社会参加を促すための環境整備や支援のあり方について具体的に提案できる。 			
授業の概要			
<p>代表的な病気や障害について、定義、概念、原因、病態生理、症状、治療法、援助方法について教授する。授業時間の都合上、学習する疾患は極めて代表的なものに限られるが、病弱児・者の心理・生理・病理とその家族への影響について理解し、生活上の諸問題を解決するための礎となる基本的能力の習得を目指す。</p>			
授業計画			
第1回：病気・障害のある児・者とその家族とは【合田】			
第2回：外傷のある児・者の心理・生理・病理と生活【合田】			
第3回：神経疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【西田】			
第4回：重症心身障害のある児・者の心理・生理・病理と生活【西田】			
第5回：発達障害のある児・者の心理・生理・病理と生活【西田】			
第6回：慢性疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【合田】			
第7回：急性疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【合田】			
第8回：循環器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【落合】			
第9回：悪性新生物・血液疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【落合】			
第10回：内分泌疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【落合】			
第11回：運動器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【合田】			
第12回：アレルギー疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【西田】			
第13回：消化器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【合田】			
第14回：腎疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活【西田】			
第15回：第1回～第14回の講義の総括・振り返りおよび確認試験【合田】			

定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
事前学習：前回までの範囲を熟読しておくこと（60分程度）			
事前に配布資料を読んでおくこと（60分程度）			
事後学習：講義内で提示する復習課題に取り組むこと（2時間程度）			
成績評価方法			
確認試験（70%）、コミュニケーションカード（30%）			
テキスト			
講義時に随時資料を配付する			
参考文献・参考資料等			
講義の中で適宜紹介する			

授業科目名： 知的障害児教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川島民子、玉村公 二彦 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法に関する科目（ 含む領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】知的障害教育における特徴的な教育課程を学び、その教育課程を実践する上で有効な教材・教具を作成することを通して、知的障害教育について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解：特徴的な教育課程を理解することができる</p> <p>技能：教育課程を実践する上で有効な教材・教具を作成することができる</p> <p>思考・判断・表現：教育課程や教材・教具の特徴についての気付きを得ることができる</p> <p>関心・意欲：特徴的な教育課程や教材・教具について理解しようとするすることができる</p>			
授業の概要			
<p>前半は、教育課程を中心に学びます。知的障害教育の特徴である教科等を合わせた指導を中心に、概要やポイント・留意点、授業づくり、指導の実際について学びます。</p> <p>後半は、実際に身近な素材を使って教材・教具づくりをすることを通して、知的障害教育の特徴について実技を通して学んでいきます。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 身近な事例を通して知的障害教育を考える【川島】			
第2回：知的障害教育の教育課程について 教育課程とは、知的障害教育の教育課程の特徴【玉村】			
第3回：教科等を合わせた指導とは【川島】			
教育課程上の位置付け、法的根拠、必要性、各教科等の目標と内容との相互関連や各学部や各段階の繋がり全体像			
第4回：教科別の指導との関連、領域別の指導との関連【川島】			
各教科、道徳、特別活動、自立活動それぞれの目標と内容と、各教科等を合わせた指導との相互関連や各学部や各段階の繋がり			
第5回：教科等を合わせた指導【玉村】			
生活単元学習・作業学習・遊びの指導・日常生活の指導それぞれの指導と各教科等の目標と内容との相互関連や各学部や各段階の繋がり			
第6回：教科等を合わせた指導の取組における留意点【川島】			
各学部や各段階の繋がりを踏まえた年間計画や週日程日課、できる状況づくり			
第7回：教科等を合わせた指導の授業づくりと展開【川島】			
各学部や各段階の繋がりを踏まえた単元計画の立案や授業展開			
第8回：教科等を合わせた指導のポイントと実際①【川島】			

日常生活の指導（生活科を中核としながら各教科等の目標や内容との相互関連、各学部や各段階の繋がり）と実際の実践例

第9回：教科等を合わせた指導のポイントと実際②【川島】

生活単元学習（各教科の目標と内容との相互関連、各学部や各段階の繋がり）と実際の実践例

第10回：教科等を合わせた指導のポイントと実際③【川島】

作業学習（各教科の目標と内容との相互関連、各学部や各段階の繋がり）と実際の実践例

第11回：教材・教具づくり① 教材・教具の紹介、作成する教材の選択【川島】

＜グループ活動＞（学部、段階を踏まえて）

第12回：教材・教具づくり② 教材・教具づくり【川島】

＜グループ活動＞（学部、段階を踏まえて）

第13回：教材・教具づくり③ 教材・教具づくりと発表【川島】

第14回：教材・教具づくり③ 発表【川島】

第15回：知的障害教育の今後の展望【川島】

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

PBL（課題解決型学習）		反転授業	ディスカッション、ディベート
グループワーク	○	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・テキストや講義資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと（120分）
- ・事前にテキストを読んでおくこと（120分）

成績評価方法

定期テスト（60%）、教材づくりと発表（20%）、振り返り（10%）、授業態度（10%）

テキスト

特別支援教育「領域・教科を合わせた指導」のABC 名古屋恒彦 東洋館出版社 2010年 2200円

参考文献・参考資料等

なし

授業科目名： 肢体不自由児教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷 浩一、玉村公 二彦 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（ 中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】 肢体不自由児に指導を実施していく際の基本的な知識や技能を習得する。技能に関しては、臨床動作法の成立過程や基礎的知識、さらにはその効果などを視聴覚教材を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 以下の諸点が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) わが国における肢体不自由児教育の成り立ちや概要 2) 特別支援教育における「自立活動」の概要 3) 脳性マヒの障害の概要 4) 臨床動作法の具体的な考え方や手技 5) 特別支援教育の現場での臨床動作法の実践例の理解 			
授業の概要			
<p>肢体不自由児教育の歴史、障害の発生原因や状態に関する知識、特別支援教育において肢体不自由児に活用できる指導技術、教育の過程を通じての肢体不自由児の心理など、肢体不自由児教育に必要な知識と技術の両面を学習する。なお、授業時間中は毎回必ず質疑応答の時間を設けることで、学生の能動的な学習意欲を高めることに努める。</p>			
授業計画			
第1回：肢体不自由児教育の歴史【谷】			
第2回：肢体不自由児教育の現状【谷】			
第3回：肢体不自由児療育の歴史（肢体不自由児教育との関連性を踏まえて）【谷】			
第4回：肢体不自由の理解と教育課程【玉村】			
第5回：肢体不自由の障害特性を踏まえた指導内容【玉村】			
第6回：肢体不自由の障害特性を踏まえた指導方法【玉村】			
第7回：肢体不自由児の自立活動—歴史的な流れ【谷】			
第8回：肢体不自由児教育での「自立活動」におけるカリキュラムマネジメント【谷】			
第9回：肢体不自由児教育における指導上の配慮【谷】			
第10回：肢体不自由児の学習上又は生活上の困難を踏まえた教材、自助具等の活用法【谷】			
第11回：肢体不自由教育における自立活動の指導法【谷】			
第12回：肢体不自由教育における身体の動きの指導とコミュニケーションの指導【谷】			
第13回：肢体不自由児教育の実践例と学習指導案の作成【谷】			
第14回：肢体不自由児教育での「個別の指導計画」の作成と合理的配慮【谷】			
第15回：多職種との連携、期末テスト【谷】			

定期試験は実施しない			
アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）			
	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
フィードバックの方法（いずれかに○）			
○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する	
準備学習の内容及びそれに必要な時間			
参考文献（3冊）のいずれかか全部を事前に熟読する（4時間程度）。			
成績評価方法			
3～4回の講義終了ごとに実施する「小テスト」（30%）、期末テスト（授業内）（50%）、授業中の態度や質疑応答に対する的確度（20%）で評価する			
テキスト			
なし（授業中に適宜資料を配布する）			
参考文献・参考資料等			
1) 安藤隆男・藤田継道 2023 よくわかる肢体不自由教育（第2版） ミネルヴァ書房			
2) 檜木暢子・笠井新一郎・花井丈夫 2021 運動機能の困難への対応 建帛社			
3) 成瀬悟策 動作訓練の理論—脳性マヒ児のために 1985 誠信書房			

授業科目名： 病弱児教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：太田容次 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（ 中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】「病気の子どもへの理解と指導」をテーマに、病弱・身体虚弱児教育の現状と課題を知り、こうした子ども達への教育の意義について学び、病・虚弱児への望ましい支援のあり方について考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病・虚弱児教育の教育課程編成の構造を理解し、指導・支援に必要な知識と技能を習得する。 ② 個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した演習により指導・支援のための理論と方法を学ぶ。 ③ 学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。 			
授業の概要			
<p>病・虚弱児の教育について、「病気の子どもへの理解と指導」をテーマに、病弱・身体虚弱児教育の現状と課題を知り、こうした子ども達への教育の意義について学ぶ。また、学習指導要領を踏まえつつ、病院入院中の子どもに対する特別支援学校や小中学校の院内学級、さらには地元の小中学校にある病・虚弱児学級(特別支援学級)など、それぞれのあり方と違いについて学び、病・虚弱児への望ましい支援のあり方について考える。具体的には、地域支援や関係機関との連携を通して、病気の子どもが地域で生きていくための手立てを考察する。</p>			
授業計画			
第1回：病弱・身体虚弱とは 病弱教育の現状と課題			
第2回：病弱・身体虚弱児の身体発達から見た心理社会的な課題			
第3回：病気の自己管理への支援とターミナル期にある子どもの支援			
第4回：病弱・身体虚弱児の実態把握			
第5回：病弱教育に応じた教育課程編成と教科			
第6回：各教科の指導の工夫① 小学部・中学部段階における指導の工夫			
第7回：各教科の指導の工夫② 高等部段階における指導の工夫			
第8回：病弱・身体虚弱児の進路指導と職業教育			
第9回：自立活動の具体的指導と個別の指導計画			
第10回：病弱・身体虚弱児の教育を支援する情報教育機器等の活用			
第11回：病弱・身体虚弱児におけるインクルーシブ教育			
第12回：特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能			
第13回：病弱・身体虚弱者への生涯にわたる一貫した支援と個別の教育支援計画①			

保健・福祉との連携

第14回：病弱・身体虚弱者への生涯にわたる一貫した支援と個別の教育支援計画②

医療・労働との連携

第15回：病弱・身体虚弱者への地域支援

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）		反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク		プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

	授業時間内に講評・解説する	○	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--	---------------	---	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

毎回の受講にあたっては、

予習：テキスト該当ページを読み、ノートに学んだこと疑問をまとめる（120分）

復習：講義を振り返り事前のノートを見返し、事前の疑問等を整理し振り返る（120分）

を各自行うものとして進める。

成績評価方法

本講義では、卒業後に病気の子どもを指導・支援できる“特別支援学校教員”として、基礎的・基盤的な専門性と実践力をつけるための主体的な学修を期待していますので、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、授業で示すルーブリックを基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート（40%） 到達目標①②に対応

毎回のミニコメントシート（40%） 到達目標①②③に対応

グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価（20%） 到達目標③に対応

また、出席していても参加度が低い場合、例えば、寝ている、指示以外の場面でスマホ等を操作している、私語をしているなどの場合は、欠席等とみなす。2/3以上出席し主体的に学んでいる者を評価の対象とする。

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト 編著 日本育療学会 編集 山本昌邦・島 治伸・滝川 国芳、ジアース教育新社、9784863716186、1980円

参考文献・参考資料等

その他必要な資料は授業中配布する。

授業科目名： 特別支援教育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川島民子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法に関する科目（ 中心領域：知、含む領域：肢・病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】特別支援教育は、特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものです。そこで、通級による指導も含めた通常の学級での学びの場を想定し、これまで蓄積されてきた様々な指導法や児童生徒を捉えるための方法についての理解を目指します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解：特徴的な指導法や児童生徒を捉えるための方法について理解することができる 技能：指導法や児童生徒を捉えるための方法について基本的な実践方法を習得することができる 思考・判断・表現：指導法や児童生徒を捉えるための方法についての気付きを得ることができる 関心・意欲：指導法や児童生徒を捉えるための方法についてについて理解しようとするすることができる</p>			
授業の概要			
<p>これまで蓄積されてきた主な指導方法について、通常の学級の児童生徒を想定しながら学びます。通級による指導を活用している児童生徒も多いので、前半は自立活動の観点を中心に進めます。後半は現場で取り入れられることが多い指導法や児童生徒を捉えるための方法について扱います。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 身近な事例を通して特別支援教育を考える</p> <p>第2回：自立活動とは 通級による指導の場において学ぶ自立活動について理解します</p> <p>第3回：環境の把握：コグトレ 認知の特性についての理解と対応に関して有効的な指導法について学びます</p> <p>第4回：環境の把握：感覚過敏 感覚についての理解と対応に関して有効的な指導法について学びます</p> <p>第5回：心理的な安定：自己理解 障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関して有効的な指導法について学びます</p> <p>第6回：身体の動き：感覚 身体の動きに関する有効的な指導法について学びます</p> <p>第7回：コミュニケーション：PECS コミュニケーションに関する有効的な指導法について学びます</p> <p>第8回：人間関係の形成：SST、表情ゲーム 人間関係の形成に関する有効的な指導法について学びます</p> <p>第9回：授業のユニバーサルデザイン すべての子どもがたのしく「分かる・できる」を実感できるように工夫された授業デザイン</p>			

について学びます

第10回：機能的アセスメント

子どもの行動の意味をその行動の前後の環境から本人視点で考える方法を学びます

第11回：ABC分析

児童生徒の「行動 (Behavior)」だけでなく、行動が生じる前にどのようなきっかけや状況があるか (先行事象：Antecedent) と、行動をした後にどのような周囲の反応や状況があるか (結果事象：Consequence) について整理し、適切な行動ができていない理由を推測する方法を学びます

第12回：インリアルアプローチ

発達障害やコミュニケーションに困難さを抱える子どもたちに効果があるとされる指導法について学びます

第13回：TEACHプログラム

米ノースカロライナ州で1972年以来行われているASD (自閉スペクトラム症) の当事者とその家族を対象とした生涯支援プログラムについて学びます

第14回：キャリア発達支援

一人一人の子供が「自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する」ことを促すキャリア発達支援について学びます

第15回：特別支援教育の今後の展望

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入 (当てはまるものがあれば○)

<input type="checkbox"/>	PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法 (いずれかに○)

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・テキストや講義資料を読み返し、講義内容を復習しておくこと (120分)
- ・事前にテキストを読んでおくこと (120分)

成績評価方法

定期テスト (60%)、発表 (20%)、振り返り (10%)、授業態度 (10%)

テキスト

授業内容に応じた資料を配布する

参考文献・参考資料等

随時紹介する

授業科目名： 視覚障害総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：正井隆晶 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 視覚障害幼児児童生徒の学びの場と実態把握・指導・支援と教材教具の工夫について			
【到達目標】			
1. 視覚の生理、病理及び心理の基礎的な事項と眼の働きや見え方、視機能検査法を理解し、幼児児童生徒の視覚障害の程度や状態を適切に把握することができる。			
2. 視覚障害教育の学びの場や自立活動を含めた教育課程の特色とカリキュラムマネジメントの必要性、また、特別支援学校教育要領の内容や個別の指導計画について理解している。			
3. 視覚障害児童生徒の教科学習や自立活動の指導内容と指導上の配慮事項を理解している。			
4. 家庭と医療機関を含めた関係機関との連携の必要性を理解している。			
5. 視覚障害教育で使用する視覚補助具、教材・教具について使用方法等を理解している。			
授業の概要			
視覚障がいの生理、病理及び心理について解説し、理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障がい教育の指導内容や方法では、視覚支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・視覚に障がいのある幼児児童生徒の教育の場と教育課程（視覚障害教育の場／制度／教育課程／カリキュラムマネジメント／個別の指導計画等） 【次回に向けて】 眼の構造と視機能や視覚の発達について調べておきましょう			
第2回：眼の生理と視機能（眼の構造と視機能／視細胞／視路／視覚の発達） 【次回に向けて】 視機能評価の方法や種類について調べておきましょう			
第3回：視機能評価の基礎知識（視力検査の方法／遠見視力・近見視力／視力値とその意味／視野検査の方法／視野と視細胞） 【次回に向けて】 視覚障がいをもたらす疾病について調べておきましょう			
第4回：眼の病理と視覚障害（視覚障害の病理／白濁の障害／網膜の障害／視神経の障害／視路の障害／脳における障害） 【次回に向けて】 障がい理解のシミュレーションについて調べておきましょう			
第5回：弱視シミュレーションの注意点と意義（弱視シミュレーションと注意点／支援を考えるためのシミュレーションの在り方） 【次回に向けて】 視覚支援学校における実態把握について調べておきましょう			
第6回：視覚支援学校における実態把握1（視覚管理及び弱視の心理的特徴） (視覚障がいとは／盲と弱視の定義／教育的視機能評価)			

【次回に向けて】弱視への教育的配慮の基本について調べておきましょう

第7回：弱視への指導（1）（弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫／授業設計と学習指導案）【次回に向けて】自立活動／弱視レンズ／拡大読書器といった文言について調べておきましょう

第8回：弱視への指導（2）（自立活動の指導／弱視レンズ／拡大読書器／PC／ADL）

【次回に向けて】点字の歴史や日本の点字について調べておきましょう

第9回：点字についての学び（点字の歴史／日本点字の読み／点字に関連する道具／視覚支援学校での点字指導）【次回に向けて】盲への教育的配慮の基本について調べておきましょう

第10回：視覚支援学校における実態把握2（盲の心理的特徴）

（盲のシミュレーションと注意点／支援を考えるためのシミュレーションの在り方／点字・感覚能力検査）【次回に向けて】盲への教育的配慮の基本について調べておきましょう

第11回：盲への指導（1）（盲への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫／授業設計と学習指導案）【次回に向けて】盲への墨字指導／触察の指導について調べておきましょう

第12回：盲への指導（2）（自立活動の指導／墨字・漢字／触察の指導／PC／ADL）

【次回に向けて】視覚障がい児者の歩行指導について調べておきましょう

第13回：視覚支援学校の歩行指導（視覚障がい児者にとっての歩行とは／歩行のための基礎的能力・歩行能力／歩行補助具・環境）

【次回に向けて】盲聾重複障がいと視覚・知的重複障がいについて調べておきましょう

第14回：重複障がいへの指導（盲聾重複障害／視覚・知的重複障害への指導／重複障害の教育課程／家庭や関係機関との連携）

【次回に向けて】視覚支援学校の職業課程やセンター的機能について調べておきましょう

第15回：職業課程と視覚支援学校のキャリア教育・センター的役割（教育相談）

（職業課程と中途視覚障害者／キャリア教育・個別の教育支援計画／センター的役割と教育相談）第1～15回のまとめと小テスト

定期試験は実施しない

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

- ・次の授業までに調べておく「授業課題」を課すので、2時間程度取り組むこと。
- ・授業中に行う小テストでは「まとめプリント」と「授業課題」のみを参照可とするので、毎回2時間程度、復習として説明を書き加えるなどしてプリントを充実させるよう取り組んでおくこと。

成績評価方法

毎回の「予習プリント」と「授業課題」（40%）と「小テスト」で評価する（60%）

テキスト

レジュメを配布する。

参考文献・参考資料等

講義中に適宜指示する。

授業科目名： 聴覚障害総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高井小織 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域外に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】聴覚障害教育に携わる教員に必要な基本的事項について学び、社会自立と社会を担う聴覚障害児者の育成に必要な指導と支援の在り方を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害教育を学ぶにあたり、基礎知識として必要な聴覚器の解剖・生理、障害の種類と程度などを理解する。 ・聴覚障害について、言語発達と幅広いコミュニケーションの中で障害特性を理解し、補聴器・人工内耳、また手話や書記言語を含む多様なコミュニケーションについて概要を理解し、実践できる。 ・聴覚障害教育の歴史と現状、地域による制度やその特徴について理解する。 ・発達段階に沿って、聴覚障害教育現場で求められる基本的な資質を養う。障害の特性を活かした授業のカリキュラムや自立活動の編成ができる実践力を養う。 			
授業の概要			
<p>聾学校（特別支援学校・聴覚）・難聴学級・通級教室・制度外、など、聴覚障害児・生徒の実態は非常に幅が広い。また聴覚は、狭義の聴力だけを指すものではなく、コミュニケーション・発達・言語、また周囲の関係性についてなど、その人の生き方の根本に関わるものである。本授業では、現時点でできるだけ正確で幅広い知識・情報とともに、教員としての視野や地域での連携についての態度や行動力を培うことを目指す。各授業の導入には、日常で使う手話や聴覚障害に関するトピックスをとりあげる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：聴覚のふしぎと魅力①…聴覚心理学から 聴覚の幅広いとらえ方 グループワーク</p> <p>第2回：聴覚のふしぎと魅力②…脳で聴く 聴覚と言葉 コミュニケーションのポイント</p> <p>第3回：聴覚障害の基礎知識①…聴覚障害の程度と分類、聴覚伝導路、聴覚障害の代表的疾患・原因</p> <p>第4回：聴覚障害の基礎知識②…新生児聴覚スクリーニング 中軽度の課題 発達障害・視覚障害・知的障害などとの合わせもった事例とその支援</p> <p>第5回：障害認識と自立活動…自己開示と自己権利擁護意識の発達 若者の「トリセツ」の事例から</p> <p>第6回：補聴器・人工内耳①…補聴器の概要・調整機能と評価、補聴支援システム 人工内耳の仕組み</p> <p>第7回：補聴器・人工内耳②…当事者からのメッセージ ご自身の療育・教育のふりかえりと現在合理的配慮について</p> <p>第8回：手話・指文字について①…聴覚障害教育の歴史を振り返りながら</p> <p>第9回：手話・指文字について②…グループワーク 発表 豊かなコミュニケーションの視点をもつ</p>			

第10回：聴覚障害児と発達段階の課題①…早期発見と介入 聴覚活用の意義と聴覚学習など 言葉を丁寧に育む

第11回：聴覚障害児と発達段階の課題②…学力面や心理面にあらわれる「9歳の壁」の実態とそれを乗り越えるための留意点

第12回：聴覚障害児・者と保護者支援…保護者からのメッセージから 支援について考える

第13回：聴覚障害児生の教育課程と自立活動…指導方法と指導案作成 自立活動の内容とカリキュラムの構成 配慮事項・情報保障の考え方と実践例

第14回：特別支援教育のネットワーク…特別支援教育（聾学校・難聴学級・通級教室等）の役割、機関連携 授業実践からの考察

第15回：聴覚障害教育について…第1回から第14回までのまとめ、現代の課題について

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

<input type="checkbox"/>	PBL（課題解決型学習）	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	グループワーク	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

<input type="checkbox"/>	授業時間内に講評・解説する	<input type="checkbox"/>	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
--------------------------	---------------	--------------------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業範囲で指示するテキストや資料を読み、授業後に考察を加えた復習をすること。1コマあたり、予習に120分、復習（ふりかえりの記載を含む）に120分程度が望ましい。

成績評価方法

授業での活動・参加行動（20%）、各授業で提示される課題（30%）、定期テスト（50%）の総合点で評価する

- ・講義には必ず出席し、課題（ふりかえりを含む）の提出期限は厳守する
- ・実習などのやむを得ない理由で欠席する予定がわかっている場合は、担当者に事前に報告する
- ・プリント類は自己責任で保管する。紛失した（休んだ）場合は、自分で借りてコピーする

各授業にあたり、事前に提示されたテキストや資料を読み、疑問点や課題意識をもって授業に臨んでください。また、演習やグループワークには積極的に参加し、振り返りの記述も丁寧に行ってください。

テキスト

「特別支援教育のエッセンス 聴覚障害教育の基本と実践」単行本-2023/2/20

宍戸和成(著、編集) ISBN-13 : 978-4-7664-2862-9 2200円+税

参考文献・参考資料等

参考書「教育オーディオロジーハンドブック」聴覚障害のある子どもたちの「きこえ」の補償と学習指導 大沼直紀監修 ジアース教育新社

参考書「聴覚障害教育 これまでとこれから」 脇中起余子著 北大路書房

参考書「聴覚障害児の学習と指導」 四日市章 他 明石書店

授業科目名： 重複LD等教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安田誠人 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発、含む領域：重)		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 重複障害及び通常の学級にも在籍している発達障害（LD、ADHD、ASD）や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 【到達目標】 1. 重複障害領域 ・重度・重複障害児に対する教育支援の現状と課題について理解する。 ・重度・重複障害児に対するコミュニケーション支援のあり方について理解する。 ・学校教育終了後の支援や、地域生活支援のあり方について理解する。 2. LD等児 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。			
授業の概要 重複障害に対する教育について理解を深める。具体的には、重複障害の教育課程や指導法について概説するとともに、個別の指導計画の作成と活用のあり方について学ぶ。また、一生涯の支援という観点から、学校教育後の支援や、地域生活支援についても学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・重複障害等の概念・定義（その他の重複障害を含む）について学ぶ 第2回：重複障害等に対する教育の現状と教育課程の取扱いについて学ぶ 第3回：重複障害等の基本的理解 医療・教育・福祉の対応とその変遷および実態・予後・ライフサイクルについて学ぶ 第4回：重複障害等の指導 ①自立活動、姿勢・運動に関する指導について学ぶ 第5回：重複障害等の指導 ②訪問教育に関する指導について学ぶ 第6回：医療的ケアの実際について学ぶ 第7回：重複障害等のQOL 家族と在宅支援について学ぶ 第8回：重複障害等における教育、医療、福祉等の関係機関との連携について学ぶ 第9回：発達障害の基本的理解について学ぶ 第10回：LD等発達障害の基本的理解 医療・教育・福祉の対応とその変遷について学ぶ			

第11回：発達障害について学ぶ ①ASDとAD/HD

第12回：発達障害について学ぶ ②LD、SLDとその他今案を抱えている子ども

第13回：通級指導や特別支援学級における教育課程の意義について学ぶ

第14回：個別の指導計画とサービス等利用計画の関係について学ぶ

第15回：発達障害への教育的支援－医療との連携、親の会との連携について学ぶ

定期試験

アクティブ・ラーニングの導入（当てはまるものがあれば○）

	PBL（課題解決型学習）	反転授業	○	ディスカッション、ディベート
○	グループワーク	プレゼンテーション		実習、フィールドワーク

フィードバックの方法（いずれかに○）

○	授業時間内に講評・解説する	メールや学生ポータルシステムを利用して実施する
---	---------------	-------------------------

準備学習の内容及びそれに必要な時間

授業中に次回の授業内容等を予告するので、準備学習をしておくこと（60分）。

次回授業で該当するテキスト、事前配布した資料を熟読しておくこと（60分）。

授業で配布したレジュメ、ノートに必要な応じてまとめておくこと（30分）。

テキストを再度読み返すことにより、講義内容を復習しておくこと（30分）。

※復習・振り返り・小レポート課題を配布するので、次回授業又は指定日時までに作成、提出すること（60分）。（※は随時配布する）

配布資料を熟読、ノート・レジュメをまとめて講義内容を復習しておく（60分）。

成績評価方法

平常点（受講態度10%、グループワーク等への発表・発言など積極的参加10%）20%

復習・振り返り・小レポート課題20%

試験60%

テキスト

文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」平成30年

文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編」平成30年

文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」平成30年

参考文献・参考資料等

必要に応じてプリント、レジュメ等を配布する。